

年報  
平成15年度



Oita University of Nursing and Health Sciences  
大分県立看護科学大学



さらなる躍進を目指して	1
1 委員会/ワーキング・グループの活動	2
1-1 教授会	2
1-2 運営委員会	2
1-2-1 教務小委員会	3
1-2-2 教育・実習小委員会	3
1-2-3 学生受入小委員会	4
1-2-4 学生生活支援小委員会	4
1-3 自己評価委員会	5
1-4 入試委員会	5
1-5 図書委員会	5
1-6 地域交流・公開講座委員会	6
1-7 研究倫理・安全委員会	6
1-8 広報委員会	6
1-9 情報ネットワーク委員会	7
1-10 国際交流委員会	8
1-11 就職対策委員会	8
1-12 大学院設置準備委員会	8
1-13 その他	9
2 学内外行事の概要	10
2-1 学 年 歴	10
2-2 オープンキャンパス	12
2-3 公開講座、公開講演会、公開講義	12
2-4 第5回看護国際フォーラム	13
2-5 第5回大分看科大/ソウル大学研究交流会	13
2-6 姉妹校学生交流	13
2-7 第6回若葉祭(大学祭)	14
3 教育活動	15
3-1 平成15年度入学者選抜状況	15
3-2 平成15年度3年次編入学試験状況	16
3-3 平成15年度大学院修士課程入学試験状況	17
3-4 教育	18
3-4-1 生体科学研究室	18
3-4-2 生体反応学研究室	19
3-4-3 健康運動学研究室	21

3 - 4 - 4	人間関係学研究室	22
3 - 4 - 5	環境科学研究室	25
3 - 4 - 6	健康情報科学研究室	27
3 - 4 - 7	言語学研究室	28
3 - 4 - 8	基礎看護学研究室	31
3 - 4 - 9	看護アセスメント学研究室	32
3 - 4 - 10	成人・老人看護学研究室	34
3 - 4 - 11	小児看護学研究室	36
3 - 4 - 12	母性看護学・助産学研究室	37
3 - 4 - 13	精神看護学研究室	41
3 - 4 - 14	保健管理学研究室	43
3 - 4 - 15	地域看護学研究室	45
3 - 4 - 16	国際看護学研究室	47
3 - 5	実験	49
3 - 6	大学院の教育活動	52
3 - 7	ボランティア活動	56
4	学内セミナー	57
5	学内プロジェクト研究	58
6	奨励研究	61
7	インターネットジャーナル「大分看護科学研究」	64
8	業績	65
8 - 1	著書	65
8 - 2	翻訳	65
8 - 3	研究論文	65
8 - 4	その他論文	68
8 - 5	学会発表	71
8 - 6	学術講演等	78
9	地域貢献	80
9 - 1	講演	80
9 - 2	研究指導	89
9 - 3	学会その他の委員等	89
10	助成研究	93
11	海外研究派遣	95
12	学外研究者の受入	96
13	教職員名簿	97

---

## さらなる躍進を目指して

年報を発刊する時期になる度に、時間の経過の早さを実感させられます。

平成 10 年に開学した本学も、早いもので 7 年目を迎え、着実に大学としての歴史の足跡を残しつつあります。本年 4 月からは、大学院後期課程（博士課程）も開設し、大学としての体裁を整え、ますます、看護系大学としての機能の強化に努めているところです。

文部科学省が平成 15 年度からはじめた「特色ある大学教育支援プログラム」(Good Practice)に「総合的な判断力を持った自律した看護職の育成 ヒト、人、人間の探求」のテーマで応募し、厳しい競争率の中、本学は Good Practice を実施している大学の一つに選定されました。開学以来、地域に役立つ看護職者の育成を目指して、学生、教職員が一丸となって努力してきた教育の成果が認められたものと大変嬉しく思っています。医療職の中でもっとも多数を占める看護職者が、専門職としての能力を身につけ、躍進することが保健・医療・福祉の向上にもっとも効果的であることを地域のみならずにもご理解いただくよう、ますます教育にも力を注いでいきたいと思っています。小さな大学ではありますが、時代のニーズにあった「小粒でピリリと辛い」元気な大学を目指します。

本年 4 月から国立大学は独立行政法人化し、公立大学においても統合、独立行政法人化などの検討が始まっており大学を取り巻く環境は大きく変革しております。大学の使命が教育、研究であることは当然ですが、地方の国立大学も「地域貢献」を大学の大きな使命の一つとしてあげ、独自性を発揮する努力をしておられ、地域貢献は、公立大学だけの特徴ではなくなっております。そのような中で、地域のみならずへの成果の還元を従来から目標に掲げている県立大学が、地域貢献においてどのような特徴を出すかはこれからの大きな課題です。

聖域だとされ、世間の目の届きにくかった大学に対して、多くの人々が関心をもって頂ける現状に感謝し、厳しいコメントを真摯に受け止め常に改善を図っていかねばならないと思っております。また、大学としての自律性を確保していくためには、足腰を強くするための自己研鑽を怠ってはならないと自覚しております。

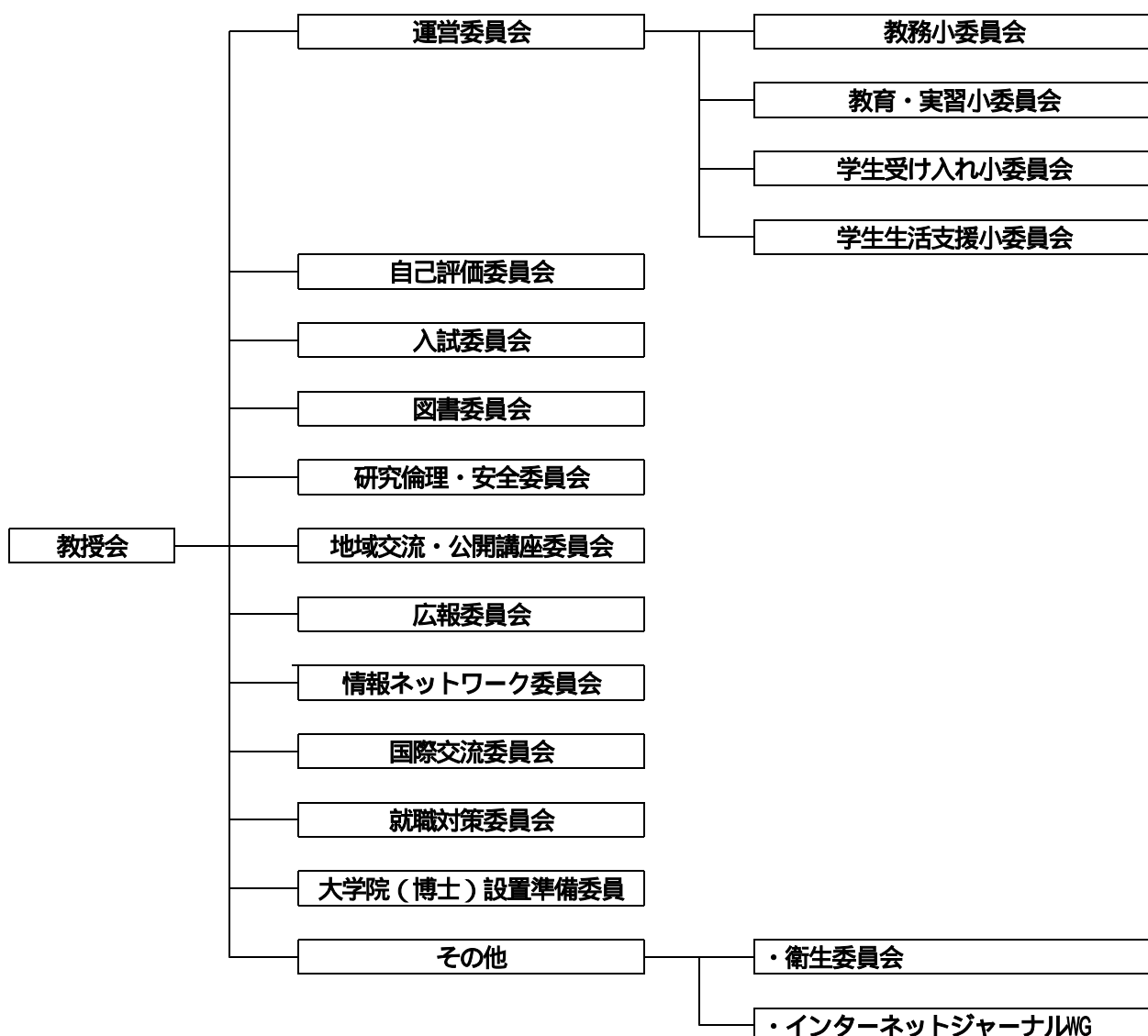
本学が「建学の精神」として開学時に定めた、「心豊かな人材育成」「看護学の考究」「地域社会への貢献」の 3 つの使命を、時代にマッチした形で常に具現化する努力を怠らないように努めて参ります。

平成 16 年 7 月

学長 草間 朋子

## 1 委員会/ワーキング・グループの活動

### 平成15年度委員会構成図



#### 1-1 教授会

**構成員**：全科目群の教授・助教授・講師、事務局長

**事務局**：総務課長、教務学生課長

各委員会よりの分掌事項進行状況の報告、ならびに提案議題について審議を行うと共に、大学運営に関わる重要事項の意志決定を行った。

#### 1-2 運営委員会

**委員**：草間 朋子、粟屋 典子、高橋 敬、市瀬 孝道、稲垣 敦、齋藤 高雅、甲斐 倫明、佐伯 圭一郎、高橋 久夫、伊東 朋子、藤内 美保、高野 政子、宮崎 文子、河島 美枝子、金 順子、工藤 節美、平野 互、小

出 綱夫（事務局長）

事務局：阿部 生香（総務課） 竹下 敏彦（教務学生課）

各小委員会よりの分掌事項進行状況の報告、ならびに提案議題の審議を行うと共に予算に関する審議を行った。

### 1・2・1 教務小委員会

委員：佐伯 圭一郎、宮崎 文子、高橋 久夫、高橋 敬、工藤 節美

単位認定に関する作業、平成16年度時間割作成、平成16年度シラバス作成の作業などを中心に活動を行った。

#### 1) 助産学履修者選考WG

構成員：教務小委員会メンバー、吉留 厚子、林 猪都子、小西 清美、後藤 由美

平成16年度の助産学実習履修者の選考作業を4月に実施した。また、次年度の選考方法を検討し、選考の準備作業を行った。

### 1・2・2 教育・実習小委員会

委員：草間 朋子、市瀬 孝道、粟屋 典子、宮崎 文子、甲斐 倫明、稲垣 敦

本委員会は学生の教育を効果的かつ円滑に行うために教育関連の活動と教育・研究予算（学部・大学院）の策定を行っている。国家試験対策に関しては、昨年に引き続き以下に示す国家試験対策WGの活動によって国試合格の為に充実を図った。4年次生の卒業研究に関しては例年どおり2つのサポートグループを設置し、卒業研究論文集・卒業研究発表会要旨集の作成、卒業研究発表会のサポートと、次年度の各研究室学生配置、看護研究の基礎1の講義のサポート（テキスト作成も含む）等の実務を行った。また4年次生を対象とした総合人間学の開講にあたり講師の選定を初めとした企画を行い、本年度は8回の講義を実施し、地域住民から多数の参加もあり公開講義としても成功を納めた。また本年度から看護の総マトメの教育として、4年次生を対象とした総合看護学をスタートさせた。看護実習（第一段階～第5段階）に関しては教員や学生配置等を検討・決定し、総合実習に関しては以下の総合実習WGによる活動によって更なる実習の充実を図った。本年度は大学院（修士課程）開学2年目を向かえ、院生の研究予算を初め、中間発表、研究発表、論文審査法等を検討した。教育・研究予算関連では昨年に引き続きプロジェクト研究費、奨励研究費を予算化し、それぞれ3件と10件を採択し、教員の研究の活性化を図った。

#### 1) 国家試験対策WG

構成員：宮崎 文子、檜原 登志子（7月まで）、藤内 美保、林 猪都子、工藤 節美、吉田 成一、品川 佳満、佐藤 俊美（教務学生課）

本学は今年で完成年次から3年目に当たるが、国家試験対策WGが設置されて2年目である。そのねらいは学生の国家試験対策委員会の立ち上げの推進を図り、学生が主体的に取り組むための効率的な学習を推し進めることとしている。

本年度は、国家試験出題基準変更の年に当たり、情報の周知徹底を図るために、学生の国家試験対策委員会を積極的に立ち上げた。また、これまで教員WGが全て行っていた作業を徐々に学生に移行するために教員WGと共に国家試験対策年間計画の作成・作業分担（ガイダンス内容の一部説明、印刷作業）を行った。活動内容は国家試験対策ガイダンスの企画・実施、模擬試験の作成・印刷・実施・結果の分析及びそれを踏まえた補講計画・実施、受験手続の指導や受講周知徹底を促した。反省点として、学生の委員会メンバー（2・3・4年次生からなる）に印刷負担がかかるという不満などが上げられたので翌年度の改善点とした。

#### 2) 総合実習WG

構成員：関根 剛、大賀 淳子、高波 利恵、目原 陽子

総合実習WGは、看護実習の最終段階にあたる総合実習を円滑に行うことを目的として設置されている。今年度実習も平成13年1月に総合実習オリエンテーション、ガイダンスを実施した。その後、2003年6月23日から7月4日までの総合実習を実施した。

今年度の改善点としては、実習施設に対して説明が不十分であるとの昨年度の反省点に対して、新たに実習施設向けの説明用資料（A3版1枚、カラープリンタ印刷）を作成した。さらに、学生の実習中の事故への対応や、総合実習の趣旨についての教員の理解を深めるために、教員に対する説明会も実施した。

今年度の反省点としては、学生用のマニュアルをよりコンパクトにする等、内容を含めた見直しの必要性がある。また、実習終了後の教員間の報告の流れを簡素化する目的で、担当教員からの報告をWGを経由しない形態をとったが、結果として意見や情報の集約ができないという弊害が生じた。これらの点は翌年度の課題である。

### 3) 実習関連WG

**構成員：**桜井 礼子、吉留 厚子、内田 雅子、大賀 淳子、玉井 保子、神田 貴絵、時松 紀子、松尾 恭子 山下 早苗

実習関連WGは、実習センターの管理・運営として、実習センター内の備品・消耗品の物品の整理・補充、および実習センター利用細則（教員用・学生用）の見直しを行った。2003年度版実習ガイドブックについては、地域看護学実習について実習施設等を新たに追加したこと、実習センター利用方法について詳しい説明を加えるなどの改訂を行った。

#### 1-2-3 学生受入小委員会

**委員：**金 順子、齋藤 高雅、高野 政子、工藤 節美  
**事務局：**竹下 敏彦(教務学生課)

本小委員会の役割は、編入学生、科目等履修生、聴講生、研究生の受け入れや大学間の単位互換に関する事柄について、その手続き、条項・内規などを検討することである。

本年度は、科目等履修生、聴講生、研究生、大学間の単位互換の受け入れ可能開講科目の決定や募集要項などの検討を行った。また、科目等履修生で助産学を履修する場合の制度上の問題点を検討し、さらに、助産学履修に伴う規定改正、許可手続きなどの検討も併せて行った。また、看護系大学卒業生を編入学で受け入れるための学則改正の審議を行い、併せて大分県立看護科学大学3年次編入学生の取得単位および在学期間等の取り扱いに関する申し合わせ、助産学履修者取扱内規、大学間の単位互換に関する協定書の締結について検討した。

#### 1-2-4 学生生活支援小委員会

**委員：**河島 美枝子、平野 互、伊東 朋子、藤内 美保、原田 幸代、門脇 俊彦

##### A. 活動の目的・内容

本小委員会は、学生の心身の健康管理、奨学金による経済的支援、サークル活動・自治会活動の支援など、学業の基本となる学生生活全般にわたる幅広い支援活動を行っている。

本年度は、学生の健康管理システムの見直しと改善、交通事故防止、成績不振や留年・休学などの学業困難の予防を目標に以下の活動を行った。

##### 1. 健康管理

- 1) 継続的活動・悩み事相談（進路、経済、友人、学、体調、家族など）の実施、保健室活動の運用と管理（健康診断と事後処理、健康教育・指導、専門医への紹介、救急対応）感染症対策（インフルエンザ、食中毒など）
- 2) 新規活動 ・「健康・生活状況チェックリスト(GHQ28項目版)」の定期健診への導入  
・学生の急病・怪我に対応するための救急対応システムの整備  
・定期健診結果の管理・運用の電算化

##### 2. 学生生活への支援

- 1) 継続的活動・学生便覧の作成、オリエンテーションの実施、コンタクトグループ活動への支援、自治会、若葉祭への支援、交通安全教育と事故対応、学業不振者への対応
- 2) 新規活動 ・新調査票を用いた「学生生活実態調査」の第1回実施  
「学生生活実態調査」SGメンバー：藤内(リーダー) 神崎、小野、末松、目原  
・学生の忌引き、学校伝染病罹患による欠席の取り扱いに関する規定の作成



・「学生の不正行為、事故等への対応に関する教授会了解事項」の作成

### 3. その他

- 1) 継続的活動・後援会活動への支援
- 2) 新規活動 ・同意の得られた保護者への成績開示の開始

### B. 今後の課題

1. 学生自身が、将来の看護職者に相応しいセルフケアを実践できるための支援が必要である。定期健診結果の有効利用、学内のネット環境の活用、学内教育との連携などを踏まえて、今後具体的に方法を検討して行く予定である。
2. 本年度から新たに導入した「健康・生活状況チェックリスト」を今後も活用してゆくために、ノウハウを積み重ねる必要がある。
3. 教育・実習小委員会と連携をして、学業不振者への有効な対応方法を探る必要がある。
4. 保護者への啓蒙も含めて、学生の交通事故対策をより一層の充実させる必要がある。
5. 経済的に困窮する学生への多彩な支援方法を考える必要がある。

## 1.3 自己評価委員会

---

**委員：**粟屋 典子、関根 剛、金 順子、伊東 朋子、内田 雅子、吉田 成一、小西 清美、平川 俊助（総務課）

本年度、当委員会は以下の活動を行った。

1. 14年度年報について：ホームページへの公開に切り替える予定で委員会内で編集作業を行ったことで発刊が大幅に遅れた。今年度より学内向けにPDF化ができた。
2. 15年度年報について：従来、年報に記載する期間が1月～12月と4月～3月の2種類になっていたが、すべて4月～3月に改めることとした。さらに、業績の分類についても見直しを行い、各項目に関する記載内容を教員に周知した。特に、将来の自己点検・自己評価に向けて、地域貢献の項目を学術講演と切り離して新たに設けることとした。また、教育活動については、従来学年ごとに編集していたが、系統性を見やすくするために、科目群ごとに改善点も含めて記載することとした。  
年報は、15年版より外部に向けてもPDF化してホームページで公開することとした。
3. FD活動に関しては以下の講演会を開催した。  
15年7月23日 学位授与機構 教授 荻上 紘一「自己評価と第三者評価」  
16年3月17日 岡山大学 教授 橋本 勝 「教授法」
4. 14年度アニュアル・ミーティングを15年3月26日に開催し、奨励研究9題、プロジェクト研究6題、個人研究1題の発表と意見交換が行われた。  
15年度アニュアル・ミーティングを16年3月3日に開催し、奨励研究8題、プロジェクト研究5題の発表と意見交換が行われた。
5. 自己点検・自己評価、および第三者評価については、引き続き実施に向けた検討を行った。
6. セクシュアル・ハラスメント防止・対策委員会に関しては、該当する事項は生じていない。

## 1.4 入試委員会

---

構成メンバーは非公開としている。平成15年度に実施する入学試験に関わるすべての事項を審議した。入試実施に際しては全学教職員の役割分担への協力を得て大過なく終了できた。

## 1.5 図書委員会

---

**委員：**齋藤 高雅、伴 信彦、安部 眞佐子、影山 隆之、G.T.Shirley、林 猪都子、檜原 登志子（H15.7迄）、小野 永子（図書館）

事務局：吉野 美奈子（図書館）

図書館の管理運営に関する基本方針に基づき附属図書館の運営上の諸問題について協議を行っている。今年度の具体的活動内容は、以下の通りである。

図書館システムの更新を5月に行ったが、(図書館システム：ENILIB・〔新日鉄ソリューションズ〕)システム調整等のため、7月までかかり更新が完了した。

図書選定においては、個人選定と委員会選定にわけて行った。より充実した図書館にするため、選定の便宜を図るよう工夫し、教員の選書意識も高まったように感じられた。委員会選定では、教職員から提案された図書・学生等からのリクエスト図書・業者からの見計らい図書の採否を決定した。IARC出版物は全点購入することとし、今後も新刊を継続して購入することに決定した。

また、施設整備の充実として、閲覧室書架の増設を行った。これにより、利用者は、より多くの資料を直に閲覧することが可能となった。なお、研究室図書の登録においては、今年度から年2回とし、各研究室の図書管理の徹底を図った。

さらに、今年度は、公立大学協会図書館協議会九州地区幹事館として、拡大役員会の出席や加盟館との情報連絡・調整等を行った。(平成15～16年度 幹事館)

## 1-6 地域交流・公開講座委員会

---

**委員：** 稲垣 敦、高橋 久夫、宮崎 文子、吉留 厚子、高野 政子、小西 清美

本年度は、看護職対象の公開講座に加え、新たに一般を対象とした公開講座を開講した。看護職対象の公開講座は9月6日、11月8日、1月24日の土曜日に3回開催した。テーマは「看護研究の実際-来年の研究発表に備えて-」であり、3名の講師が数名の受講者を担当し、各受講者の研究の進行に添ってグループワークの形式で行った。一般を対象とした公開講座は「高齢者の家庭看護-からだの動かし方の介助実技指導-」と題して3月13日(土)に基礎成老人実習室2で開催し、高齢者の体位変換に関する実技指導を行った。今年度も公開講座WGを設置せず、委員会メンバーでポスター・ちらしの作成や関係諸機関への広報、前日の会場の設営や当日の運営などを行った。公開講座の開催にあたっては、門脇教務学生課長の協力を得た。

大分地域大学等生涯学習協議会にも参加し、協議会主催の生涯学習プログラムの開催および本学の参加について検討した。また、大分県教育委員会の生涯学習情報提供システム「まなびの広場おおいた」の指導者・講師データベースへの情報提供および「おおいた県民アカデミア大学」のとの連携講座についても検討した。

学内施設利用申請についても随時審査を行い、総務課と連携して指導した。

## 1-7 研究倫理・安全委員会

---

**委員：** 草間 朋子、高橋 敬、河島 美枝子、平野 互、吉田 成一、安部 眞佐子、  
顧問：二宮 孝富(大分大学) 西 英久(大分大学医学部)  
事務局：玉田 逸子

本委員会は本大学の教員(および卒業生)・院生が行う研究に関して、その倫理・安全上問題がないかどうかを審査することを目的とする。委員会は倫理・安全に関する指針と、「教員の研究に関する学内了解事項」(平成14年7月17日改定)に基づき毎月1回開催し、これまでに提出された研究計画書52件(4月1日～3月31日)の審査を行った。

## 1-8 広報委員会

---

**委員：** 平野 互、齋藤 高雅、高橋 久夫、伊東 朋子、藤内 美保、林 猪都子、玉田 逸子(総務課)

オープンキャンパスの企画・運営、大学見学訪問者への対応(11件計244名うち高等学校生徒4校計100名) 進路説明会への参加(中津)「What is 大分県立看護科学大学? 平成15年度 48のQ&A」作成、キャンパス・ガイドの改訂、県政だより「新時代おおいた」取材への対応および公開講義等大学行事の広報活動を行った。

### 1) 2004 大学案内パンフレット作成WG

**構成員**：平野 互、吉田 成一、定金 香里、安部 恭子、福田 広美、佐藤 俊美（教務学生課）  
B 5 版22ページの「2004大学案内」を作成し、10,000部印刷した。

## 1-9 情報ネットワーク委員会

---

**委員**：甲斐 倫明、佐伯 圭一郎、伴 信彦、桜井 礼子、高野 政子、吉田 成一、平川 俊助（総務課）  
ネットワークの運営管理を統括する。また、新規計画の検討およびWGの 設置などの情報ネットワークに関連する諸問題を統括する。実際の活動では、ネットワークの維持運営管理を主な任務とするため、WGを中心に活動を行った。実際の委員会運営 もWGのリーダーを含めたメンバーで行った。

### 1) ネットワークシステムWG

**担当内容**：メール、ノーツを含めたインターネット・イントラネット管理運営  
**構成員**：赤羽 恵一（リーダー、9月まで）、甲斐 倫明

### 2) WindowsユーザーサポートWG

**担当内容**：教職員用PC (Windows) の管理（トラブル対応、新規ソフト対応など）  
**構成員**：中山 晃志（リーダー） 佐伯 圭一郎

### 3) MacユーザーサポートWG

**担当内容**：教職員用PC (Mac) の管理（トラブル対応、新規ソフト対応など）  
**構成員**：伴 信彦（リーダー） 赤羽 恵一

### 4) メディアセンターサポートWG

**担当内容**：メディアセンター（教材作成室を含む）の管理（トラブル対応、新規ソフト対応など）  
**構成員**：品川 佳満（リーダー） 伴 信彦、吉田 成一

### 5) WebサイトWG

**担当内容**：本学のWeb内外サイトの作成および管理運営  
**構成員**：甲斐 倫明（リーダー） 赤羽 恵一（9月まで） 定金 香里、G.T.Shirley、品川 佳満、高波 利恵、岡崎 寿子、吉武 康栄、佐藤 俊実（教務学生課）

### 6) 看護メーリングリストWG

**担当内容**：メーリングリストkango-mlの管理運営  
**構成員**：高野 政子（リーダー） 影山 隆之、安部 恭子

### 7) 豊の国ネット情報WG：

**担当内容**：豊の国ネットに配信する情報の検討および運営  
**構成員**：桜井 礼子（リーダー） 伊東 朋子、関根 剛、甲斐 倫明

### 8) データ解析ソフトWG

**担当内容**：携帯電話webサイトの作成および運営  
**構成員**：佐伯 圭一郎（リーダー） 中山 晃志

情報ネットワーク委員会が行った主な作業内容は以下の通りである。

- 1) 教職員用機器の5年リース更新を行った。

- 2) サイボウズをイントラネットとして導入し、設定から運営管理までを行った。
- 3) 学生の携帯メールへの転送システムを作成し、アドレスの自動更新が携帯メールから行えるようにした。
- 4) 学生のパスワード管理を自動化し、携帯メールから変更が行えるようにした。
- 5) 3年リース教育用機器の更新について検討し、機器およびシステムの更新案を作成した。
- 6) 休講・補講システムを作成し、休講の学生への通知は携帯メールへ自動転送されるようになった。
- 6) メールアドレスの管理(追加・削除)
- 7) Webの作成、更新(英文ページの作成など)
- 9) 携帯電話対応のWeb(休講情報など)の作成、更新
- 10) 教職員マシンのトラブル対応
- 11) イン트라ネット・インターネットのトラブル対応
- 12) 看護メーリングリストの運営
- 13) 動画配信のテスト

## 1・10 国際交流委員会

---

**委員:** 草間 朋子、金 順子、G.T.Shirley、関根 剛、内田 雅子、桜井 礼子

大学の国際交流に関連する事項の企画立案、運営を行った。

本年度は、ソウル大学との学生交流、第5回看護国際フォーラムの企画・運営を行った。また、海外からの研修員の受入についても、企画・運営を行った。

海外から、JICAのカウンターパート研修員の受入

カザフスタン 4名(10/13/04~10/16/03 4日間)

ラオス 2名(02/25/04~03/05/04 2週間)

## 1・11 就職対策委員会

---

**委員:** 影山 隆之、吉留 厚子、工藤 節美、佐伯 圭一郎、藤内 美保、宮崎 文子、  
門脇 俊彦、竹下 敏彦(教務学生課)

学生の就職・進学に関する情報の収集・提供と、学生への個別支援の企画・実施を中心に活動した。主な内容は以下の通り。

1. 卒業生の就職先での状況について、卒業生や就職先の担当上司等から適時情報を収集し、また病院等からのリクルート訪問を受け、これらの情報を就職情報データベースやEメールによって学生に提供した。
2. 改訂した就職・進学ガイドブックを4年生に印刷配布し、Web上でも学生に提供した。
3. 7月の就職ガイダンスでは就職して1年余を経過した1期生を数人招き、2年生以上の学生を対象に体験談を話してもらった。
4. 2月の就職ガイダンスでは就職内定した4年生を数人招き、2・3年生を対象に体験談を話してもらった。
5. 面接・小論文マニュアルを改訂し4年生に配布するとともに、事務局・教員の協力を得て4年生に模擬面接を実施した。
6. 学生への個別支援については、卒業研究の指導教員を中心にした指導を第一に要請し、これを後方支援するために就職対策委員が研究室を分担した。

## 1・12 大学院設置準備委員会

---

**委員:** 草間 朋子、粟屋 典子、市瀬 孝道、甲斐 倫明

事務局: 渡辺 康弘(総務課)

平成16年4月大学院後期課程（博士）の開設に向けて、文部科学省の大学院設置審議会へ提出する資料の最終的検討を行い、6月に提出した。12月に認可が下り、2月29日実施の入試に向け学生募集を開始した。なお、募集要項については、本学の大学院前期課程（修士）から後期課程（博士）へ進学する場合と、他大学からの場合を区別した。

## 1・13 その他

---

### 1) 安全衛生委員会

**構成員：**草間 朋子、関根 剛、田原 基之（総務課） 渡辺 康弘（総務課）

教職員の健康維持と増進のため、定期健康診断を中心とした健康管理に関する情報をきめ細かく提供した。さらに、屋外を含めて学内全体の環境整備と美化に努め、教職員および地域住民に快適な環境を提供した。

### 2) インターネットジャーナルWG

**構成員：**草間 朋子、甲斐 倫明、稲垣 敦、G. T. Shirley、桜井 礼子、伴 信彦、  
定金 香里、高波 利恵

平成15年度は、和文の執筆要項の再検討、PubMed掲載の準備、執筆の依頼、情報伝達手段の検討、編集委員会開催とその準備、第4巻第1号、第4巻第2号、第5巻第1号、第5巻第2号の企画、編集、刊行に関する実務が行われた。インターネットジャーナル「大分看護科学研究」第4巻第1号は平成15年4月、第4巻第2号は平成15年5月、第5巻第1号は平成16年2月にそれぞれ刊行され、本学ホームページ上 (<http://www.oita-nhs.ac.jp/journal/pages/browse.html>) で公開された。

### 3) 短期海外派遣研究員選考会

**構成員：**草間 朋子、粟屋 典子、齋藤 高雅、河島 美枝子

平成14年度より選考委員を除く教員全員の応募が可能となっている。

派遣期間と派遣人数それぞれ1ヶ月、3名としている。選考基準として 意欲、目的 本人の将来の研究への貢献 本学における教育への貢献 準備の進捗状況 海外研修の必要性の5点を考慮して、申請者が提出した研究概要書を審議した。その結果、15年度は3名（玉井 保子、吉武 康栄、大賀 淳子）を選考し、教授会へ推薦した。

なお、平成16年度についても、看護系の実習時期を考慮して早期に企画する必要から、上記同様の条件と選考基準で3名（吉田 成一、松尾 恭子、定金 香里）を選考し、教授会に推薦し決定した。

## 2 学内外行事の概要

### 2.1 学年歴

## 学年歴

### 前期

■■■■ 休日もしくは講義を行わない日

#### 4月

日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	8
13	14	15	16	17	18	19	9
20	21	22	23	24	25	26	10
27	28	29	30				11
							14~25
							16, 23

入学式  
 オリエンテーション（1年次生、3年次編入生）  
 オリエンテーション（1～4年次生）  
 前期授業開始  
 前期履修登録  
 学生定期健康診断

#### 5月

日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	12~
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	

地域看護学実習及び  
 老人看護学実習Ⅱ（4年次生）

#### 6月

日	月	火	水	木	金	土	
1	2	3	4	5	6	7	~13
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	16
22	23	24	25	26	27	28	16~
29	30						19
							23~

地域看護学実習及び  
 老人看護学実習Ⅱ（4年次生）  
 前期後半授業開始  
 助産学実習（4年次生選択）  
 開学記念日（休講）  
 総合実習（4年次生）

#### 7月

日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	~4
13	14	15	16	17	18	19	19
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30	31			

総合実習（4年次生）  
 夏季休業開始

#### 8月

日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	4
3	4	5	6	7	8	9	31
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

オープンキャンパス  
 人学院入学試験

#### 9月

日	月	火	水	木	金	土	
		1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13	8
14	15	16	17	18	19	20	9~17
21	22	23	24	25	26	27	~19
28	29	30					22~
							28
							29~
							30

授業開始  
 初期体験実習（1年次生）  
 助産学実習（4年次生選択）  
 後期履修登録  
 編入学試験  
 成人・老人Ⅰ、小児、母性、  
 精神看護学実習（3年次生）  
 前期授業終了

## 後期

### 10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1 後期授業開始 (1, 2, 4年次生)  
 ~17 後期履修登録

### 11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

8~9 若葉祭  
 16 特別選抜試験(推薦・社会人)

### 12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

1 後期後半授業開始  
 ~19 成人・老人I、小児、母性、  
 精神看護学実習 (3年次生)  
 20 冬季休業開始  
 22, 24 卒業研究発表会

### 1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8 授業開始  
 14~ 基礎看護学実習及び  
 看護アセスメント学実習 (2年次生)  
 16 センター試験準備 (1, 3, 4年次生休講)  
 17~18 センター試験

### 2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29						

~13 基礎看護学実習及び  
 看護アセスメント学実習 (2年次生)  
 25 一般選抜試験(前期)及び  
 特別選抜試験(私費外国人留学生) (休講)  
 下旬(予定) 看護師・保健師及び助産師国家試験  
 27 後期授業終了  
 28 春季休業開始

### 3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

12 一般選抜試験(後期)  
 18 卒業式

## 2・2 オープンキャンパス

---

大学進学希望者やその家族および進路指導者の教員等を対象に、本学の特徴と施設等を紹介する「オープンキャンパス」を開催した。

日 時：平成15年8月4日(月)

午前の部 9:30~12:30

午前の部 13:30~16:30

内 容：説明会(約1時間30分)

本学の概要 草間 朋子

看護とは 宮崎 文子

教員から一言 高橋 敬、関根 剛、目原 陽子

学生から一言 馬場 健太郎、長野 真弓

入試について 門脇 俊彦(教務学生課)

学内見学(約1時間) 各部所に担当教員配置 38名

学生ボランティア 8名

希望者への個別相談(随時)

学生生活全般(含:進路指導):齋藤 高雅、河島 美枝子、甲斐 倫明、吉留 厚子

学生生活:後藤 留美、佐藤 亜衣、佐藤 寛子、西原 美穂(学生)

奨学金関連:教務学生課

参加者 午前の部 220名

午後の部 118名

## 2・3 公開講座、公開講演会、公開講義

---

### 1) 公開講座

本年度は、看護職対象の公開講座に加え、新たに一般を対象とした公開講座を開講した。

看護職対象の公開講座のテーマは「看護研究の実際-来年の研究発表に備えて-」であり、3名の講師がそれぞれ数名の受講者を担当し、各受講者の研究の進行に添ってグループワークの形式で3回の研究指導を行った。受講者は16名であった。

一般を対象とした公開講座のテーマは「高齢者の家庭看護-からだの動かし方の介助実技指導-」であり、4名の講師が高齢者の体位変換に関する実技指導を基礎成老人実習室2で行った。受講者は26名であった。なお、いずれの講座の受講者にも修了証を授与した。

#### 看護研究の実際-来年の研究発表に備えて-(看護職対象)

回	日 程	講 師
第1回	9月6日(土) 14:00~16:00	影山 隆之、桜井 礼子、内田 雅子
第2回	11月8日(土) 14:00~16:00	影山 隆之、桜井 礼子、内田 雅子
第3回	1月24日(土) 14:00~16:00	影山 隆之、桜井 礼子、内田 雅子

#### 高齢者の家庭看護-からだの動かし方の介助実技指導-(一般対象)

回	日 程	講 師
第1回	3月13日(土) 14:00~16:00	伊東 朋子、藤内 美保、高野 政子、小西 清美、山下 早苗

### 2) 公開講義

「総合人間学」について、学生と一般市民を対象として公開講義を8回実施した。

(4年次後期、55頁参照)



## 2・4 第5 回看護国際フォーラム

---

平成15年度は、「21世紀の看護職のあり方」というテーマで、大分県看護協会との共催で行われた。県外からの参加者も多く、約400名を越える参加者（本学3年次生を含む）であった。講演後には総合討論が行われ、活発なディスカッションが行われた。

日時：平成15年5月10日（土）13時～17時

場所：別府ビーコンプラザ 国際会議場

演題および演者

「韓国における看護政策の発展と課題」

金 慕妊（韓国 赤十字看護大学学長 前厚生大臣）

「看護の原点」

小玉 香津子（前名古屋市立大学看護学部長）

「日本における看護職の課題」

田村 やよひ（厚生労働省医政局看護課長）

南 裕子（日本看護協会会長）

## 2・5 第5 回大分看科大／ソウル大学研究交流会

---

ソウル大学との学術交流の一環として、ソウル大学看護大学から2名の講師を招き、「助産師教育と助産師の役割（Midwifery Education and the Role of Midwife）」をテーマに研究交流会を開催した。本学からも1名の演者が発表を行った。

日時 平成16年3月22日（月）

演題および演者

1. "Midwifery Education and the Role of Midwife"

Hong Yeo Shin, RN, RM, EdD, Professor Emeritus

2. "Midwifery Education in Japan; Issues and Challenges"

宮崎 文子 母性看護学・助産学教授

3. "Midwifery Education and the Role of Midwife in Korea; Issues and Challenges"

Park Young Sook, RN, RM, PhD Professor

## 2・6 姉妹校学生交流

---

ソウル大学との学生交流

【ソウル大学からの学生の受入】

受入期間：平成15年6月22日（日）～6月29日（日）

受入学生7名（3年次2名、4年次3名、院生2名）

3年生 Joo-youn Lee, Eun-hee Lee,

4年生 Young-suk Choi, Kyoung-mi Kim, Ji-eun Park

院生 Ki-Hye Han, In-Ju Hwaung

教授 Dr. Sung Ae Park

今年度は、ソウル大学より大学院生2名本学実習センターに滞在、日本での看護実践の場の見学を行った。主な

訪問施設は、大分県立病院、湯布院厚生年金病院、百華苑、佐伯保健所、佐伯市役所である。また、ウェルカム・パーティやバーベキュー・パーティ、お茶会、また休日を利用した阿蘇山、別府の観光などを通して、学生同士の交流が図られた。

#### 【本学よりソウル大学への学生派遣】

派遣期間：平成15年8月24日（日）～31日（日）

派遣学生：1年 葛巻 亜希子、2年 岡野 美由希、3年 上戸 美紀子、  
3年 吉川 加奈子、3年 工藤 麻梨奈

応募者9名より5名が選考された。教員は、高野 政子、吉田 成一 2名が大分から同行した。

韓国での主な訪問先は、ソウル大学病院、ソウル市保健所、地域保健所、保健診療院（訪問看護に同行）、三星病院医療センター、およびソウル大学本部国際交流センター、ソウル大学付属博物館・図書館である。また、学生は、景福宮（王宮）韓国文化財保存訓練センター見学・民族芸能体験、海剛陶磁美術館・韓国青磁の陶芸体験などを通して、韓国の文化にふれるとともに、ソウル大学生との交流を深めた。

## 2・7 第6 回若葉祭（大学祭）

---

2年次生を中心に1年次生を加えた学園祭実行委員会（吉野辰亮委員長）の主催により、2日間にわたり盛大に開催された。

昨年の経験と反省を踏まえて、また、関係者の暖かいご支援・ご協力により、大成功に終わった。

日 時 平成15年11月8日（土）～9日（日）

参加者 延べ約1,600名

イベント等

- ・ 抽選会 Part 1～2
- ・ イントロドン
- ・ カラオケ
- ・ ペッパー警部犯人は誰だ
- ・ 超豪華抽選会
- ・ 二人羽織り
- ・ MASUMO
- ・ 健康チェックコーナー
- ・ ミズ！？看護大
- ・ ジェスチャー絵描きクイズ
- ・ じゃんけんで、バシッ
- ・ 箱の中身は何でSHOW?
- ・ 一位を当てちゃいけまテン
- ・ 激味グルメ食べ当て選手権
- ・ 男のバトル
- ・ 献血
- ・ 募金（ALS）
- ・ ミス・ナース服コンテスト
- ・ 西の洲会によるハーモニカ演奏
- ・ ゲームの超人.COM
- ・ わかる人にはわかる！実行委員プレゼンツ・ ×クイズ
- ・ 実行委員プレゼンツ！ウキウキピンゴ大会
- ・ 模擬店（焼きそば等）
- ・ お茶会（サークル「茶道部」、サークル「裏千家茶道部」）
- ・ 地域の方によるフリーマーケット

### 3 教育活動

#### 3-1 平成15年度入学者選抜状況

##### 1) 概要

選抜の区分及び募集人員、入学者選抜試験の概略は次表のとおりである。

##### 選抜の区分及び募集人員

学 部	学 科	入学定員	募 集 人 員			
			一 般 選 抜		特 別 選 抜	
			前期日程	後期日程	推 薦	社 会 人
看護学部	看護学科	80人	40人	10人	30人	注) 若干名

注) 社会人の募集人員「若干名」は推薦の30人に含めます。

##### 入学者選抜試験の概略

(単位:人、倍、%)

区 分		志願者	受験者	合格者	倍率	入 学 者		
						計	県 内 (率)	男 (率)
特 別	推 薦	80	80	28	2.9	28	28 (100.0)	0 ( 0.0)
	社会人	12	12	2	6.0	2	1 ( 50.0)	0 ( 0.0)
	計	92	92	30	3.1	30	29 ( 96.7)	0 ( 0.0)
一 般	前 期	303	272	46	5.9	39	5 ( 12.8)	3 ( 7.7)
	後 期	218	119	14	8.5	11	1 ( 9.1)	1 ( 9.1)
	計	521	391	60	6.5	50	6 ( 12.0)	4 ( 8.0)
合 計		613	483	90	5.4	80	35 ( 43.8)	4 ( 5.0)

##### 試験教科等

区 分		教 科	試 験 期 日	出 願 期 間
特 別	推 薦	総合問題、面接	平成14年 11月17日(日)	平成14年 11月1日(金)～11月8日(金)
	社会人			
一 般	前 期	総合問題	平成15年 2月25日(火)	平成15年 1月27日(月)～2月5日(水)
	後 期	総合問題、面接	平成15年 3月12日(水)	

##### 2) 特別選抜試験

###### 推薦選抜

大分県内の高等学校卒業見込者の中から、調査書の全体の評定平均値が4.0以上で、各高等学校長から推薦された生徒を対象に、総合問題と面接により実施した。

###### 社会人選抜

社会人としての実体験から看護学への強いモチベーションを持った学生を確保することにより、教育・研究への活性化を図るため、また、生涯学習の要請に対応するため、社会人選抜を実施した。

年齢が満24歳以上で、社会人の経験を3年以上有し、大学入学資格を有する者を対象に、総合問題と面接により実施した。

### 3) 一般選抜試験

平成15年度大学入試センター試験で本学が指定する教科・科目（下表参照）を受験した者について、分離分割方式（前期日程、後期日程）により試験を実施した。

なお、本学で実施する試験は、前期日程では総合問題、後期日程では総合問題と面接により実施した。

日程	教科名	科目名		教科・科目数
前期日程	国語	『国語・国語』（近代以降の文章）		4教科4科目
	数学	『数学・数学A』、『数学』、『数学・数学B』 から1科目を選択		
	理科	『物理B』、『化学B』、『生物B』 から1科目を選択		
	外国語	『英語』		
後期日程	国語	『国語・国語』（近代以降の文章）		3教科3科目
	数学	『数学・数学A』、『数学』 『数学・数学B』から1科目を選択		
	理科	『物理B』、『化学B』 『生物B』から1科目を選択		
	外国語	『英語』		

注1)「国語」については、「近代以降の文章」の得点のみを合否判定に用います。

注2)「数学」及び「理科」において、複数科目を受験した場合は、高得点の科目をその教科の得点とし、合否判定に用います。なお、後期日程については、「国語」及び「理科」の3教科を受験した場合には、高得点の上位2教科を合否判定に用います。

### 3-2 平成15年度3年次編入学試験状況

#### 概要

就業看護職員等の生涯学習に対する強いニーズに対応するため、3年次編入学試験を、看護系短期大学又は看護系専修学校の専門課程を卒業した者及び卒業見込者を対象に、英語、総合問題及び面接により実施した。

#### 募集人員

学部	学科	募集人員
看護学部	看護学科	10人

#### 試験の概略

(単位：人、倍、%)

区分	志願者	受験者	合格者	倍率	入学者		
					計	県内(率)	男(率)
短期大学	9	8	4	.	1	0(0.0)	0(0.0)
専修学校	19	16	2	.	1	0(0.0)	0(0.0)
合計	28	24	6	6.0	2	0(0.0)	0(0.0)

### 試験科目等

試験科目	試験期日	出願期間
英語 総合問題 面接	平成14年 9月29日(日)	平成14年 9月2日(月)～9月9日(月)

### 3-3 平成15年度大学院修士課程入学試験状況

#### 概要

看護職の指導的役割を担う人材を育成し、地域社会における健康と福祉の向上及び看護学の発展に寄与することを目的として、大学卒業者等又は看護師、保健師、助産師の資格を有し3年以上の実務経験がある者を対象に、英語、総合問題及び面接により実施した。

#### 募集人員

研究科名	課程名	専攻名	募集人員	
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	6名	

#### 試験の概略

(単位：人、倍、%)

区分	志願者	受験者	合格者	競争率	入学者		
					計	県内(率)	男(率)
修士課程	12	11	6	1.8	4	3(75.0)	1(25.0)

#### 試験科目等

試験科目	試験期日	出願期間
英語 総合問題	平成14年 9月1日(日)	平成14年 8月1日(木)～8月8日(木)

## 3・4 教育

### 3・4・1 生体科学研究室

生体科学では身体の構造とそれに課せられた機能を骨格系から神経系、消化吸収と関連生化学を重点的に講義した。プラスチックモデルや解剖実習見学（大分大学医学部）あるいはパワーポイントによるビジュアルな方法で具体的な知識を会得してもらうことを目指した。頭骨に関してはヒト、チンパンジー、オランウータン、ゴリラの違いを折り紙で作成してもらった。また赤血球細胞を低張液に暴露し溶血現象を目で観察してもらった。適時レポートを書かせ自主的な勉強ができるように心掛けた。

#### 1. 教育活動の現状と課題

前年度は試験結果の評価基準がやや甘かった（平均点約80）ことを踏まえて10点くらい引き下げる方針をとった結果、数名がC評価になった。

構造機能論としての基盤である解剖生理の基本は骨格系である。骨格系の理解が他の構造と機能の理解の引き金になるため、本年度は特に骨格系を覚えさせる努力をおこなった。アニメーションを作成し、骨の名称を変え歌にした結果、覚える興味を引き出すには効果があった。またこれをもとにした身体の体制を理解するための手立てともなった。パワーポイントにはビデオを挿入し（細胞分裂、血小板形成など）興味を引き出す効果を上げる事ができた。

生体科学の全講義内容をテキストに即して詳しいキーワード表を作製し、将来の勉強にも参考にできるようにプリントして配付した。この表は関連看護系の講義のキーワードと対称できるように、自らが勉強しながら記入できるように配慮した。

次年度は今年度の成果を踏まえ、引き続き続行して勉強の効果を期待したい。1年が、2年に、2年が3年に繋がるような指導をすることが最も重要であり、これには他学科との協力が必要であることを感じた。総じて興味や好奇心をいかに引き出すかが自律的に勉強するためには大切であると考えた。

#### 2. 科目の教育活動

##### 1) 生体構造機能論 1年次 前期（4/11～9/26） 2単位

担当：高橋 敬、安部 眞佐子、石塚 香子

生体構造機能論では解剖生理学を基盤として身体の機能がいかに構造に依存して成り立っているのかを中心に講義した。内容の重要さは国家試験にできるものだけではなく、生命維持のためにどれだけの分子や細胞が関係しているのかを理解してもらう努力をした。時間数が足りないのが大きな障害ではあるが、できるだけコンパクトにして教育効果をあげるのが今後の課題である。そのためにはある程度の自律した学習ができるように指導をしたり、好奇心や興味を引き出すことが大切である。

##### 2) 健康科学実験 2年次 後期後半（10/1～11/28） 1単位

担当：高橋 敬、安部 眞佐子、石塚 香子

生体科学では血液生化学と組織学を実習した。前者は血清中の酵素活性、タンパク質の測定や分析と血糖値を測定させ、試験管内での出来事を体験させた。後者はヒトやラットの組織切片を光学顕微鏡で観察させスケッチさせた。目で見て手で触れることはもっとも基本的なものであるため、光学画像のもつ意味についても解説した。実験を通して、小さな構造の大きな機能的な役割に感嘆し、少しでも理解できるように留意した。時間的制約から1人3つのプレパラートを観察してもらったが、内容を組織化、系統化してチャレンジしてもらうのが良い方法なので今後の課題とした。しかし、なんとといっても、実際に自分の手で確かめることに大きな感動がある。この感動をさらに勉強などにつなげたい。

##### 2) 生体構造機能特論 2年次 前期前半（4/11～6/13） 1単位

担当：高橋 敬、石塚 香子

生体の構造機能論の中でもっとも基本でアップデートなものをピックアップして詳細の解説した。前年とほぼ同じ内容ではあるが、クローンと老化学、および再生医学について力点を置いた。クローンを学ぶことは、生物の多様性を理解する上にもっとも基本的なのでエクセルを用いてシミュレーションできることを体験させた。出席とレポートで評価したが、とくにクローン人間や臓器移植には興味をもったようである。またこの講義はただ理解するだけでなく、医療現場に近いことから（人工受精、クローン人間、老化問題）に具体的に触れ、自らが考えるというように努力した。今後はさらに体験させる意味でも、エクセルで簡単な数値計算を行い、理解をさらに深める努力をしたい。

3) 生体科学演習 1年次 後期後半 (12/1~2/22) 1単位

担当：高橋 敬、安部 眞佐子、石塚 香子

栄養学とカラーリングブックを利用した構造機能の学習である。ほぼ昨年度と同じだが、問題集やキーワード表を配付し、理解を深める努力をした。学生が真剣に取り組めば良い復習になる。出席とレポートで評価した。基礎学力向上に向けて配付した問題を解答させ、その場で正解を解説するという時間的ゆとりがとれるかどうか今後の課題である。

4) 生体代謝論 1年次 後期前半 (6/16~9/30) 1単位

担当：安部 眞佐子

タンパク質、酵素、核酸などを中心に細胞や生体の構成成分と分子機能について生化学的な解説を行った。

5) 生体科学特論 4年次 前期後半 (7/7~9/30) 1単位

担当：安部 眞佐子

遺伝子やゲノムの基礎と遺伝子多型現象を栄養状態と結び付けて講義した。その他栄養状態の把握と栄養補給法について解説した、看護にもっとも近い材料を沢山含んでいるので、今後も力点を置きたい。

### 3. 卒業研究

- ・がん細胞のウロキナーゼ発現の2次元マップによる解析
- ・アルカリミクログル電気泳動によるアポトーシスの検出と薬剤効果
- ・トマトによる食物アレルギーに関する文献的研究
- ・マウスにおけるアディポネクチン受容体の発現分布について
- ・脂肪細胞における線溶系酵素の発現ならびに機能に関する基礎研究

## 3・4・2 生体反応学研究室

本大学の教育目標である「総合的な判断力を持つ自律した看護職の育成」のための教育の一環として、生体反応学教室では体の基本的なメカニズム、体の変調、病態、生体内に侵入する微生物、薬物の作用等を看護の視点から理解させることを目標として教育を行っている。科学的に生体のメカニズムや外的・内的要因に対する生体反応を理解することによって体の変調・回復過程を科学的に捉え、これらが2年次～4年次の看護実習や将来の看護実践に結びつけられるように看護の基盤教育を行っている。

### 1. 教育活動の現状と課題

本研究室では生体反応論、生体反応学演習、病態特論、微生物反応論、感染免疫学、生体薬物反応論の講義を行っている。国家試験の出題範囲としては「疾病の成り立ちと回復の促進」の部分であるが、4年次生の模試等によるこの科目範囲の点数は非常に悪く、理解度が大変に悪い結果となっている。更に、看護実習等でも疾病についての理解度が低く看護実践に結びつけられていないのが現状である。実習前の1、2年次生には看護を学ぶことに対して、本研究室で講義している基礎の学問が如何に大切であるかという認識が低いように思われる。今後、学生がこの認

識を強くもてるように、より看護の視点から本研究室が担当する講義を進めて行く必要がある。また、来年度から取り入れる基礎学力進級試験によって2年次までの講義の範囲が学生自身で整理され、理解される事を期待している。

## 2. 科目の教育活動

### 1) 生体反応論 1年次 後期 (10/9~2/10) 1単位

担当：市瀬 孝道

病気の本体や成り立ち、修復過程が理解できるように、以下に示す病気の基本となる病変について具体的な疾患名や臨床症状等を挙げながら講義を進めた。特に本年度は学生が理解し易い教科書に代え、これまでOHPを中心として行って来た授業を、教科書を中心とした授業に変えた。退行性病変、進行性病変、代謝障害、循環障害、炎症、免疫、感染症、腫瘍、小児・老人疾患。

### 2) 生体反応学演習 1年次後期 (10/9~2/12) 1単位

担当：市瀬 孝道、吉田 成一

#### (H) 感染看護演習

本年度は現在問題となっている感染症（国家試験に出題される感染症）をグループごとに1例ずつ与え、その感染症の基本的な部分からそれに関わる治療法、看護援助法、予防法等の応用領域までまとめさせ、発表会を行った。更に個々の学生には全テーマについてまとめさせレポートとした。演習テーマは以下に示す。MRSA、病原大腸菌、結核、ウイルス性肝炎、エイズ、狂牛病。

#### (I) 臨床検査演習

本演習では現在行われているそれぞれの検査の意義を説明し、また、その異常検査値から病態把握が（病態像がイメージ）できるようにすることを到達目標として講義を進めた。また、15コマ目では臨床検査に関する演習問題を回答させた。講義内容は以下に示す。検体検査、各臓器の機能検査、生理・病理検査、画像診断、感染症の検査。

### 3) 病態特論 4年次 前期 (9/9, 9/16, 9/18, 9/30) 1単位

担当：市瀬 孝道

本年度は肺癌、糖尿病、解離生大動脈瘤、急性腎不全、肝癌、骨髄腫等のいくつかの症例を取り上げて、病態経過中の臨床データや病理解剖所見を照らし合わせながらホルマリン固定された疾病臓器と他の全ての臓器の肉眼観察を行い、更に、これらの病理組織標本観察も行った。臨床データや全ての臓器の標本観察によって病態臓器のみでなく病態の全体像を把握させた。本講義は今迄の教科書中心で病態を理解してきたものを、実際に病態臓器に触れて、病態を肉眼、顕微鏡することによって病態をより深く理解させることを目的に行っている。しかし、四年次生の選択科目であるため年々受講生が減少して来ている。今後、看護だけではなく病態に興味を持たせる為の工夫が必要と考えられる。

### 4) 生体微生物反応論 1年次 後期 (10/06~2/16) 1単位

担当：吉田 成一、西園 晃、三舟 求真

微生物と生体、環境との関わり、特に微生物感染症について、を理解させることを主要な目標として、以下の項目について講義した。消毒・滅菌法、感染症、病原細菌学、病原ウイルス学、各種感染症とその原因。総論分野では単元毎に小テストを行い、学生の習熟度をチェックしながら講義を行った。小テストを行うことで学生が学んだ知識を直ちに整理し、理解度も上がったと思われた。

### 5) 感染免疫論 2年次前期前半 (4/17~6/12) 1単位

担当：吉田 成一

1年次後期に行われた生体微生物反応論をもとに、病原微生物に対する生体の防御反応について理解させることを目標に講義を行った。また、免疫学の最新の知見も併せて講義した。学生にとっては若干難易度の高い講義になってしまったため、次年度以降、講義内容の整理が必要と考えられる。



#### 6) 生体薬物反応論 2年次 前期 (4/11~9/26) 1単位

担当：吉田 成一

疾病の薬物治療に用いる医薬品の作用原理に主眼を置き、薬物を投与した際の生体反応（主作用及び副作用）を中心に講義した。特に総論を始め、薬理作用の基礎知識の正しい理解が可能なような講義を行った。また、重要項目は小テストにより再認識し、基礎知識の習熟を目指した。内容が多岐に渡るため、詰め込み式の講義になってしまったと思われ、次年度以降、講義内容の取舍選択が必要であると考えられる。

#### 7) 健康科学実験 2年次 後期前半(10/3~11/28)

- ・血液検査 担当：定金 香里、市瀬 孝道
- ・ラットの解剖 担当：市瀬 孝道、定金 香里、吉田 成一
- ・基礎微生物学実験 担当：吉田 成一

### 3. 卒業研究

- ・環境汚染物質の雄生殖機能に与える影響に関する研究
- ・アレルギー抗体産生に対するシャパトウ黄砂のアジュバント作用の検討
- ・マウス喘息モデルにおける黄砂及びカオリン粒子の影響比較
- ・アトピー性皮膚炎モデルマウスNC/Ngaにおけるディーゼル排気微粒子塗布の影響
- ・大気浮遊物質による女性ホルモンレセプターへの影響

### 3・4・3 健康運動学研究室

健康運動学研究室では、まずは体を動かすことの楽しさを体験して感じ、また、人間・人類にとって運動がいかにかに重要であるかを理解することを目指している。また、近年では、臨地において運動処方や運動療法、運動指導が盛んになり、看護職にも運動の理解と指導能力が要求される機会が増えて来たため、それに応えられる基礎知識および実践能力を高めることを目指している。学生時代から健康と運動の関係を自分の問題として捉えることは将来の自分の健康管理に役立つだけでなく、これによってはじめて他者（たとえば、患者、地域住民）に対して実感を伴った健康教育や指導、助言ができるようになると考えている。

一方、高校までは科学的知見については学んで来ているが、科学自体についての教育には力を入れていない。大学では科学教育が重要であるため、学部および大学院の授業や研究指導の中では科学的知見や技術だけではなく、科学自体や科学的な物の味方などについて話をしている。

#### 1. 教育活動の現状と課題

女性の場合、大学時代は既に体力が低下する時期であり、また、大学に入ると体育の時間も減り、一人暮らしで生活習慣も変わる学生が多い。さらに、運動クラブに所属する学生も少ないため、体力の低下や体脂肪率の変化が著しいと考えられる。そこで、1年次の体育I・IIでは年度始めと終わりに体力測定を実施し、1年間の自分の体力や身体組成の変化を自分で調べ、生活習慣の重要性を理解させ、その改善を試みた。また、体育IIでは、種々のニュースポーツを体験させ、体を動かす楽しさを体験させるよう努めており、アンケートの結果から学生にも好評であった。2年次の健康運動学演習でも、日常生活を記録させたり（生活記録法）パスダイアグラムを用いて、日常生活の問題点を洗い出し、改善策を立てさせた。4年次の運動指導特論では、種々の人々を対象とした運動や福祉レクリエーションを体験させ、指導のポイントを教授した。大学院修士課程の健康増進科学特論でも、加速度計により数日間の活動量を記録するなど、種々のME機器を用いた健康測定や評価を体験し、レポートにまとめさせた。今後も上述の目標を達成するため、体験を伴った授業に取り組むとともに、基本的な知識はしっかり覚えさせておく必要があると考えている。

#### 2. 科目の教育活動

##### 1) 体育I 1年次 前期 (4/11~9/12) 1単位

担当：吉武 康栄、稲垣 敦

健康の維持・増進のために必要な理論と方法について講義・実技を行った。生涯スポーツの基礎を養うことを目的とした実技指導を行うとともに、体力測定を前期・後期の2回行うことで、学生自身の体力・身体組成を認識させ

ることを目的とした授業を行った。さらに、ダイエット講義、トレーニング講義を行い、最新の知見を提供しながら生活習慣に対する生体の適応について理解させることに努めた。

#### 2) 体育II 1年次 後期 (10/8~2/18) 1単位

担当：稲垣 敦、吉武 康栄

運動の楽しさや健康の素晴らしさを体感するため、多くのレクリエーションを体験した。福祉レクリエーション関係のビデオを視聴し、看護や介護におけるレクリエーションの必要性や可能性を考えた。来年度は、短時間でも基本的な技術を身につけられるよう工夫したい。

#### 3) 健康運動論 2年次 前期 (4/16~9/22) 1単位

担当：稲垣 敦

生物の進化に伴う形態や運動機能の変化、加齢や不活動による体力の低下などに関する知見をもとに、体力や運動の重要性や健康との関連性を講義し、トレーニング理論と具体的な運動の仕方についても解説した。来年度は、基本的な知識を確実に身につけられるように努めたい。

#### 4) 健康運動学演習 2年次 後期前半 (10/6~11/17) 1単位

担当：稲垣 敦

生物の進化に伴う形態や運動機能の変化から、立つことや二足歩行の意味を考えた。また、看護にかかわる動作を力学的に解説し、筋力、柔軟性、平衡性、エネルギー消費量など看護ボディメカニクスの測定実習も行った。受講者が多いため実習の効率を高める努力をしてきたが、解説の時間も充分にとり理解を促す必要がある。

#### 5) 運動処方特論 3年次 後期前半 (1/8~2/19) 1単位

担当：稲垣 敦

今年は運動処方にとどめず、広く運動療法として講義し、運動負荷試験の実習も行った。受講者が多いので、時間のかかる実習は難しいが、来年度からは心電図計測の実習や具体的な症例を取り上げた解説を増やす予定である。

#### 6) 運動指導特論 4年次 前期前半 (4/18~5/9) 1単位

担当：稲垣 敦、大賀 淳子、後藤 由美

子供のレクリエーション、高齢者のレクリエーション、ヨガ、肩こり・腰痛体操、中高齢者の体力測定、精神障害者の運動表現療法、妊婦体操などの指導法について講義し、実習した。今後も看護職に役に立つ内容を吟味して構成してゆきたい。

### 3. 卒業研究

- ・ウォーキングおよび登山後の余剰エネルギー消費量
- ・温水プールおよび温泉におけるウォーキング時の呼吸循環器系応答
- ・正座時のしびれに影響する要因
- ・反対側の筋収縮や対象筋の疲労の発生による力調節安定性の変容

#### 3・4・4 人間関係学研究室

看護学に必要な人間関係に関わる基本的な知識や人間関係スキル、さらに精神看護学の基礎となる知識を身につけることを目的としたカリキュラムを実施している。具体的な教育目標と該当する科目は、(1)人のこころの基本的な考え方・人の理解の仕方について理解する(「人のこころの仕組み」「心理アセスメント特論」)(2)社会や集団の中での人間関係について理解する(「人間関係学」)、(3)人間関係の形成の方法について理解する(「コミュニケーション論」)(4)対人援助技術を身につける(「人間行動論」「人間関係学演習」「心理アセスメント特論」)(5)看護と関わる心理学的知識について理解する(「人間行動論」「心理アセスメント特論」)(6)人間と社会について幅広い観点から学ぶ(非常勤)(「音楽とこころ」「美術とこころ」「哲学入門」「人間と社会」「法学入門」「経済学入門」「大分の歴史と文化」「文化人類学入門」)等である。

講義を行うにあたっては、個々の心理現象について看護実践と関連づけたり、援助スキルや心理検査などは体験に基づく理解ができるように配慮している。また、毎授業ごとに学生の感想を求め、学生の授業理解程度や授業評価の一助としている。

## 1. 教育活動の現状と課題

人間関係学研究室としての基本的な教育目標である、(1)人のこころの基本的な知識、(2)集団・個人との人間関係、(3)対人援助技術を理解するという点では変更はない。しかし、昨年度からカリキュラム変更が行われ、人間関係学研究室においても、いくつかの科目が統廃合されたことにより、授業内容および教育の順序性の評価と調整をおこなうことが今年度の課題としてあげられた。

そこで、従来から実施しているものであるが、講義後に学生の感想を求め、感想内容から学生の授業理解の程度を知ったり、質疑に対する回答を行ったりして、翌年の講義内容の修正を図るものとした。また、より実践的な人間理解と援助技法を身に付けられるように講義内容を改善すると共に、実際に心理検査を実施したり手に取って理解できるよう心理検査等の教材を増やしたりすることも引き続いて実施した。

その結果、学生のニーズはより実践的であり、看護と関連性が感じられる講義内容(看護活動との関連付けを意識させる授業)であると考えられた。一方、看護教育全体から本研究室に求められる教育内容に関しては十分には検討されていない面があると考えられるので(例:小児看護や老人看護における発達心理学の知識、家族関係の心理を扱う場合、家族療法の知識がどの程度必要なのか等)、他の看護系教室と教育内容についてのすりあわせをしていくこと。この2つが次年度以後の本研究室の改善点としてあげられよう。

## 2. 科目の教育活動

### 1) 人のこころの仕組み 1年次 前期(4/15~9/30) 2単位

担当: 齊藤 高雅、関根 剛

前半部分は関根が担当した。「見る」「脳」「学習」など人間の基本的な働きを通して、今後の講義の基礎となる知識について解説をした。「見る」では単に生理学的な視覚にとどまらず、人間の認識が様々な情報や信念などによって異なって理解されることを学び、他者理解における自己理解の重要性について理解させた。「脳」では精神の働きが脳の構造や機能、脳内物質と大きく関わっていることを理解させ、精神疾患を理解する上での基礎的な知識とした。「学習」では「人間行動論」において行動分析学的な手法を理解する上での基礎的な知識を身につけさせた。さらに、受講生が新入生であることから、「マインドコントロール」の講義を通じて倫理的問題と共に自らが被害にあわない・あわせないことについて言及した。

後半部分は齊藤が担当した。人を理解するための基本的な視点として「性格」の分類と成立を、対人援助や心理療法の基本的な視点として「適応と自我防衛」「意識と無意識」を、精神的な問題について基礎的な理解をするために「こころの発達」「こころの障害」を講義した。具体的には、性格形成における遺伝と環境、性格把握のための類型論と特性論、心の成り立ちについてフロイト・ユング・エリクソンの諸説の概要説明、また、パーソナリティ障害について、ハンドアウトを配布して講義を進めた。毎回、講義終了後、講義の感想あるいは質問の提出を求め、これにより学生の講義理解度を確認しながら講義を進めた。

最初の講義であるため学生は関心をもって受講しているものの、この授業での知識が別の講義に結びつくということが十分には認識できていないこと。別の講義で基礎的な知識が理解されているという前提で講義を行ってみると必ずしも知識が身に付いてはいないことがある。ここでの知識を確かなものとして、つなげる工夫が必要である。

### 2) コミュニケーション論 1年次 前期(4/11~9/26) 2単位

担当: 関根 剛

コミュニケーションにおける非言語的要素と言語的要素の重要性を中心に、3回のグループエクササイズ、箱庭作成体験、行動観察の方法とまとめ方、行動観察の計画と実施、プレゼンテーションなどを実施した。

教育目標は看護実践において必要不可欠なコミュニケーションの基礎を理解し身につけることにある。具体的には、相手の発信している情報に気づくこと、受け取った情報を自分がどのように理解しているのかを知る(自己を振り返る)、相手に対して情報を発信すること。そして、コミュニケーションは情報の受信・理解・発信(フィードバック)の繰り返しから成立していることを体験的に理解することである。

科目内における基本的な教育目標は達成されていると考えられるものの、以下の点の改善が必要であると考えられた。(1)グループによる観察と発表において、メンバー間で取り組みの差が大きいという訴えがある点。それへの対処も学習の一環であると考えられるものの、より適切な指導方法・評価方法を導入する必要がある。(2)自己表現と他者との関係性を知るための箱庭作成体験であるが、グループごとに時間外に実施するため教員の手間が大きい、1年の時期では必ずしも効果的な学びにつながっていないと考えられる。そのため、実施の時期をずらし

て他科目の中で実施することと、より簡易で効果的な方法を検討する。(3)人間関係学演習で実施していたプロセスレコードを本科目内で実施する。

### 3) 人間関係学 1年次 後期(10/7~01/29) 2単位

担当：齋藤 高雅、関根 剛

前半部分は関根が担当した。「対人魅力」「タイプと相性」「交流分析とゲーム」については、主に社会心理学的な視点から、自己と他者の人間関係がどのように影響を受けるのかについて理解させた。その際には学んだ人間関係への影響が、看護という視点からも理解が深まるように配慮した。また、「ヒューマンエラー」「ソーシャルサポート」などは看護と関連する基礎的な知識となるようにした。

後半部分は齋藤が担当した。「家族、学校、職場の精神保健と人間関係」について、それぞれの場面で生じる問題点とその理解の仕方等について学習させた。

### 4) カウンセリング論 2年次 前期(4/17/03~9/25/03) 1単位

担当：齋藤 高雅、関根 剛

臨床的援助のみならず、より広い対象へのカウンセリング的援助の基礎理論について学べるよう、事例を交えながら精神分析療法をはじめとする各種の心理療法の基礎的な考え方を論じた。対象とした心理療法は以下のものである。精神分析療法、来談者中心療法、認知行動療法、ブリーフ・セラピー、箱庭療法、森田療法、集団心理療法、セルフ・ヘルプ・グループ、家族療法。さらに、障害受容、ターミナルケアについて論じた。講義では、内容をまとめたハンドアウトを配布し、適宜、視聴覚教材を使用した。毎回、講義終了後、講義の感想あるいは質問の提出を求め、これにより講義の理解度を確認しながら、講義を進めた

### 5) 人間行動論 2年前期前半(4/16~6/4) 2単位

担当：関根 剛

学習心理学の原理を応用して人の行動を変化させるための考え方の基礎と技法について7回にわたり解説した。その際には、他人の行動に影響を与える上での倫理についての第1回目の講義を必ず受講することを条件とした。

行動分析学・学習心理学の観点から、人間の行動理解および効果的な行動変容の技法について学び、行動療法的なアプローチについて基本的理解をもつことを教育目標としている。他の心理療法やコミュニケーション的な人間理解とは異なり、徹底した科学的視点からの人間行動理解を行うので、理解を積み上げる必要がある。そのため、講義においても、例題を設けながら理解を進めているスタイルをとっている。

例題を設けて進んで行く講義スタイル自体は学生には好評であるが、講義の進め方とその例題についてはより適切な進度と内容を工夫する必要性を感じている。そのため、来年度の改善目標は、(1)授業改善を試みながら学生からのフィードバックで再評価してより講義内容を精選させる。(2)他の科目に比べて学生から、定義や具体例の質問が多く出やすいが、これに毎回回答を寄せていると肝心の講義時間が短縮されてしまうため、HPやメールなどを通じて学生の質問に回答する方法についても試してみる。以上2点である。

### 6) 人間関係学演習 2年次 後期前半(10/2~11/20)

担当：関根 剛

プロセスレコードの理解と作成ならびにカウンセリングスキルを身につける演習を中心に8回の演習を実施した。講義やスキルの説明の後に3人1組になってのロールプレイを実施し、体験を通してスキルを身につけるスタイルで行ってきた。また、最終レポートは講義終了直後ではなく、第2、3段階実習終了後に、実際に実習での経験を加味して書かせることで、机上の理屈や日常生活の反映ではなく看護場面と関連してカウンセリングスキルをとらえなおさせるようにも配慮している。

昨年度までは日常の人間関係でのプロセスレコードを作成していたが、今年は看護場面を想定したロールプレイを導入し、その場面のプロセスレコードを作成してみることを試みた。実際の体験ではないというデメリットはあるものの、看護に生かすカウンセリングスキルを学ぶという教育目的から考慮すると、学習の動機付けを行う意味が大きいと考えられた。しかし、プロセスレコードの説明と実施などに3回分の講義を要してしまい、カウンセリングスキルの演習を徹底することができていないように考えられる。

そのため、来年度の改善点は、(1)プロセスレコードはコミュニケーション論の中で取り扱い、本演習ではよりカウンセリングスキルの演習を徹底させる。(2)プロセスレコードとともにカウンセリングのロールプレイ内容を学生自身にフィードバックさせるために、ビデオないしはテープレコーダーの利用を検討する。ただし、十分な

数の機器はないため一部の試行をおこなって効果の評価を行い、再来年度以後の備品として検討できるようにする。

7) 心理アセスメント 2年次 後期後半(12/2~1/13) 1単位

担当：齋藤 高雅

心理アセスメントの意味、その効用と限界、理論、実施方法などについて論じ、精神健康状態の客観的な評価法・検査法について実際の心理テストを用いて、体験的に学習した。質問紙法(MMPI, YG)、投影法(ロールシャッハ・テスト、TAT、SCT、描画法(HTP、Baumテストなど))、知能検査、発達検査、記銘力検査、精神作業検査、評価尺度(一般精神健康GHQ、病態別、QOL)などを学んだ。名目上、講義科目ではあるが、実質的には演習・実習形式で行い、体験的に学習することを主眼とした。

8) 音楽とこころ 2年次 前期 (4/14~9/29) 2単位

担当：宮本 修

9) 美術とこころ 2年次 前期 (4/14~6/10) 2単位

担当：澤田 桂考

10) 哲学入門 1年次 前期 (4/16~6/11) 1単位

担当：西 英久

11) 人間と社会 1年次 前期 (4/14~9/29) 1単位

担当：大杉 至

12) 法学入門 1年次 前期 (4/15~6/10) 1単位

担当：岩崎 勝成

13) 経済学入門 1年次 前期 (6/19~9/25) 1単位

担当：合田 公計

14) 大分の歴史と文化 2年次 後期 (10/3~2/27) 2単位

担当：吉良 國光

15) 文化人類学入門 1年次 後期 (10/2~1/8) 2単位

担当：伊藤 泰信

16) 保健医療ボランティア 3年次 前期 (7/22~7/23) 1単位

担当：帖 佐理子

### 3. 卒業研究

- ・海外在留邦人の精神健康に関連する要因・留学生・ワーキングホリデー制度利用者に着目して・
- ・パーソナルスペースと不安傾向の関連性についての実験的研究
- ・児童・生徒の抱える問題に関する養護教諭とスクールカウンセラーの認識の違い
- ・看護学生における援助規範意識と共感性の関係について

#### 3・4・5 環境科学研究室

本研究室では、環境科学の基礎、とくに環境保健に近い内容に重きをおいて、関連科目の講義・演習を行って

る。また、放射線の利用や安全に関する科目、MEの原理や安全に関する科目などを担当している。これらは、通常の看護の基盤教育ではあまり行われていない科目であるが、将来、医療・保健に携わる者が基礎として学ぶべき内容として、その意義を理解させ、基本的知識として理解できるように配慮した講義を行っている。

## 1. 教育活動の現状と課題

試験の際に、講義の評価（意見、感想など）を記載させている。この評価をもとに改善すべき点は次の年度にできるだけ反映するようにしている。例えば、看護との関係が理解できないという意見に対しては、講義の冒頭に社会的な話題と関連させたりして（学生のイメージでは、看護とは臨床看護であり、保健活動を描けない）講義に対するモチベーションをもたせるように努力している。また、環境科学演習では、環境科学における数量的な理解の大切さを学ぶために、エクセルを用いたシミュレーションや計算を行っているが、課題についてさらに改善をしていく予定である。

## 2. 科目の教育活動

### 1) 環境科学概論 1年次 前期（4/17～9/30）1単位

担当：甲斐 倫明、伴 信彦、赤羽 恵一

毎回、講義内容をまとめたハンドアウトを配布し、環境科学のポイントがわかるように配慮した。講義内容は次の通りである。(1)環境科学の歴史、(2)大気汚染と水質汚濁、(3)地球環境問題、(4)健康・環境影響と環境リスク論、(5)リスクアセスメントと環境基準、(6)環境疫学、(7)環境有害物質の曝露評価、(8)生態リスク、(9)発がんの生物、(10)がん以外の健康影響、(11)化学物質の安全性試験、(12)環境リスク対策、(13)環境リスク心理学、(14)リスクマネジメントとリスクコミュニケーション

### 2) MEの原理と安全管理 1年次 後期（12/5～2/13）1単位

担当：甲斐 倫明、伴 信彦

講義は物理の基礎からME機器の原理・実際までをカバーするものである。講義内容は次の通りである。(1)MEとは何か、(2)電気に関する基礎知識、(3)生体情報の検出に係るME機器、(4)CTの原理、(5)超音波診断装置とMRI、(6)生命維持に係るME機器の実際、(7)ME機器の安全対策

### 3) 生活環境論 2年次 前期（6/26～9/25）1単位

担当：伴 信彦、甲斐 倫明

我々を取り巻く食環境、水環境、住環境と廃棄物についての基本的事項を解説し、健康で快適な生活を送るための食品保健・環境保健のあり方を論じた。講義内容は次の通りである。食中毒、室内汚染、上水道と下水道、食品添加物と食品中の残留物質、廃棄物、騒音

### 4) 放射線健康科学 2年次 後期（10/3～11/28）1単位

担当：甲斐 倫明、伴 信彦

放射線の物理から放射線の生物・健康影響までをカバーして、放射線の基礎的な理解を重視した講義内容とした。講義内容は次の通りである。(1)放射線影響と放射線防護の歴史、(2)放射線とは何か、(3)放射性同位元素と放射能、(4)身近な放射線・放射線源の利用、(5)放射線と物質との相互作用、(6)放射線の線量、(7)DNA損傷と染色体異常、(8)放射線の確定的影響、(9)放射線の確率的影響、(10)放射線リスクの評価、(11)安全の考え方と放射線防護基準、(12)患者のための放射線防護、(13)UV・電磁界の健康影響

### 5) 環境科学演習 2年次 後期（2/16～2/20）1単位

担当：甲斐 倫明、伴 信彦

3つの課題を課して、レポートを提出させる。そのレポート作成の作業の段階で教員が質疑応答に応じるというやり方で行った。テーマは環境科学の定量的側面の理解を深めるものを選んだ。課題は次の通りである。(1)メダカの死亡数分布のシミュレーション、(2)化学物質の毒性試験から得られる基準値のもつ不確かさ、(3)生命表を用いた平均余命の計算

6) 現代の環境問題 3年次 前期(4/15~6/10) 1単位

担当: 伴 信彦、甲斐 倫明

現代の環境問題の背景と複雑さ、解決へ向けた取り組み等について、社会・政策的な側面も交えて論じた。講義内容は次の通りである。概論・環境問題とは、地球温暖化、エネルギー問題と人口問題、環境ホルモン、遺伝子組み換え食品、ゴミ問題

7) 環境倫理学 4年次 前期(9/10~9/18) 1単位

担当: 甲斐倫明

環境倫理が生命倫理と際だって異なった考え方をしていることを理解させるために、生命倫理と対比させながら、種々の事例を用いて解説した。(1)環境倫理学とは、(2)現代の環境問題と倫理、(3)人間中心主義と生命中心主義、(4)自然の生存権の問題、(5)世代間倫理の問題、(6)地球全体主義

3. 卒業研究

- ・染色体異常頻度を指標とした線量率効果に関する定量的解析
- ・極低周波電磁界と小児白血病との関係を調べた患者対照研究の誤差要因分析
- ・軽量の無鉛防護エプロンの放射線防護効果に関する実験的・理論的検討
- ・RainbowFISHによる放射線誘発マウス白血病の染色体異常解析
- ・妊娠可能な女性に対する放射線防護のあり方・放射線技師を対象とした意識調査から

### 3・4・6 健康情報科学研究室

科学的な根拠に基づいた看護に必要な、生物統計学・疫学の理論を習得し、それらを実際に応用できる情報処理能力を身につけることを目標としている。そのために、講義科目と情報処理についての演習を連携させ、実践的な能力を獲得できるように配慮している。情報処理能力については、1人1台のパソコンを利用し、また看護の具体的事例を想定した演習を行っている。

また、必修科目では保健師・看護師として必要十分な能力水準を目標としているが、選択科目ではさらに高度なテーマについて取り扱い、学生の将来の目標にあわせた高度な情報処理能力の養成を目指している。

1. 教育活動の現状と課題

パソコンの基本的操作やインターネットの利用など、情報処理の基礎的経験については、年々学生の基礎技術が向上しているが、もう一つの基礎的能力である数学的能力、論理的な判断力については向上がみられず、どちらからといえば低下傾向にある。

講義・演習の内容を調整してこの傾向に対応し、演習においては3名の教員で40名強の学生にきめ細かい対応を心がけている。しかし、1年次に当研究室担当の必修科目が完了する現在のカリキュラムにおいて、実際に学んだことがどのように役立つのかを実感できるようにつとめなければ、3~4年次の演習・実習でこれらの能力が必要となるまで、学習の効果が薄れてしまう傾向に歯止めをかけることが困難である。

現状では、演習に具体的に看護と関わる事例を取り込むようにつとめ、さらに4年次の選択科目において、これまでの学習の復習と総まとめを含んだ内容を組み込んで対応しているが、よりいっそうの効果的な教育法、カリキュラム配置が今後の課題であろう。

2. 科目の教育活動

1) 健康情報学 1年次 前期(4/17~9/24) 1単位

担当: 佐伯 圭一郎

人口統計、疾病情報や保健情報など、様々な健康情報に関して、情報の発生源から、評価の方法までを体系的に学習した。単に様々な統計指標を理解するだけでなく、それらの数値から情報を読みとり、思考する能力を養った。

必要な事項についての学生の理解度は高いが、ここで学んだ内容がどのように看護実践の場面で活用されるのか、という点を1年生に理解させることについては必ずしも十分とはいえず、検討を必要としている。

#### 2) 生物統計学 1年次 後期(10/1~1/30) 1単位

担当：佐伯 圭一郎、中山 晃志

基本的な統計学の知識を実際の調査・研究の場面と関連づけながら、情報収集と分析の技法について学んだ。特に、統計的な方法論の考え方に重点を置き、あわせて情報の取り扱いに付随する情報モラルや倫理的側面についてもふれた。

授業において、学生の基本的な数学能力のばらつきが大きさが進行上の支障となっており、別途基礎的な数学能力の向上を図る、個別指導等の対処を行う必要があると考えられる。

#### 3) 健康情報処理演習 1年次 後期(10/2~2/6) 2単位

担当：佐伯 圭一郎、品川 佳満、中山 晃志

パーソナルコンピュータを活用して、学習や保健医療の場における情報管理の道具として役立てるための知識と技術を学んだ。また、インターネットをコミュニケーションや情報収集に役立てる技法を習得した。内容は、情報機器の仕組みと機能、ネットワークの利用(WWW,メール)ワードプロセッサ、ホームページ作成、表計算、プレゼンテーション、統計データの分析、グループ別演習(情報収集・分析・プレゼンテーション)である。

情報処理能力は、年々向上しているが、学生間の格差がますます拡大する傾向にあり、演習の進度を遅い学生に合わせているため、多くの学生にとっては余裕がありすぎる進行であろう。この点に関して、別途発展的課題を提示する、学生相互で協力し合うという方針をさらに充実させる計画である。

#### 4) 応用情報処理学(選択) 2年次 前期後半(6/20~9/26) 1単位

担当：佐伯 圭一郎、品川佳満、中山 晃志

看護研究の場を想定し、実際のデータ例に基づいて、高度な統計手法を含みながら、一部演習形式で学習を進めた。この科目については、カリキュラムの改変により、選択科目ではあるが、実質的にはほぼすべての学生が受講することとなったため、必修科目である生物統計学および健康情報処理演習との連続性を高めている。

#### 5) 実務情報処理学(選択) 4年次 前期後半(9/9~9/30) 1単位

担当：佐伯 圭一郎、品川 佳満、中山 晃志

健康情報処理演習で修得した情報処理能力を看護婦・保健婦の実務の場を想定した具体的事例を通じて、さらに高度なものへと高めることを目標としているが、1年次の必修科目の復習が必要となる点で授業進行上支障となっている。比較的少数の履修者である点をいかして、さらに実践的な疫学や統計学の応用を目指していきたい。

### 3. 卒業研究

- ・精神科デイケアの効果 ・ 総合失調症患者の再入院率に基づく評価 ・
- ・高齢者におけるウエスト・身長比の判定基準と疾患との関連
- ・乳頭刺激による分娩誘発の効果・安全性についての文献的検討 ・ 乳頭刺激誘発とオキシトシン点滴静脈注射誘発の比較 ・
- ・勤務形態による看護職の疲労の相違に関する文献的検討
- ・看護記録の電子化に用いる入力ツールの有用性の検討 ・ キーボード、携帯電話式入力、音声入力、ペンタブレットの比較 ・

#### 3・4・7 言語学研究室

Reading, Writing, Listening, Speaking のバランスの取れた英語の能力を伸ばすことを目指す。特に英語を得意としない、むしろ英語を苦手とする学生が、将来自らの進む専門分野で役に立つ英語が身につくように、実用的



でやさしい英文を数多く読ませるようにすること。

## 1. 教育活動の現状と課題

Readingを始める前にネイティブ・スピーカーによる音声テープを聴かせる。教室での講義の時間では時間に限度があるので、学生に録音させて家庭等でも利用させる。また意味が理解できる文章を暗記するほど何度も繰り返して読むことによって読解能力の基礎を養う。Writingについては、英作文というと苦手意識をもつ学生が多いことは否めない。英語で書く機会は、今後e-mailをはじめとする情報のグローバル化の中で一層増えていくと思われるので、真剣に考えねばならない課題である。まず書きたい身近なことからはじめ、そのためのスキルを身につけていく練習が必要であろう。Listeningに関しては、ネイティブ・スピーカーの話す英語によく耳を傾け、言っていることの要点を正確にキャッチすることが必要課題。英語を聴く機会を多くすることが望まれる。Speakingでは、英作文と同様に文を作るということに対しての苦手意識があるが、その点を克服することがこれからの課題である。

## 2. 科目の教育活動

- 1) 英語 I・A 1 1年次 前期 (クラス1: 4/14/ ~9/22) 1単位  
(クラス2: 4/17 ~9/16) 1単位

担当: 高橋 久夫

近年特に福祉という言葉をよく聞く。ということは福祉がわれわれの身近な問題となってきたということである。では福祉とはどのようなものなのか、という問いに正確に答えることのできる人は案外少ないのではないかと言われている。しかし教科書を読み進んでいくうちに英文を通してその内容もともによく理解できたと思う。

- 2) 英語 1・A 2 1年次 後期 (クラス1: 10/7 ~2/18) 1単位  
(クラス2: 10/2 ~2/24) 1単位

担当: 高橋 久夫

アメリカ人である著者が、2年間を費やしてアメリカにおける福祉関係の施設を訪問して収集した福祉の資料を基にして書かれたこの教科書は、別の著者が、前期とは違った視点から福祉全般を扱ったものである。老人福祉、知的障害、身体障害などが主な内容であり、看護に関する英文はもちろん福祉に対する考え方も十分理解できたと思う。

- 3) 英語 -B1 1年次 前期 (クラス1: 4/17 ~9/26) 1単位  
(クラス2: 4/14 ~9/29) 1単位

担当: Gerald T. Shirley

Basic conversation was reviewed and practiced. Listening, pronunciation and usage were also given importance. Conversation important for daily life was practiced in an interesting way.

- 4) 英語 -B2 1年次 後期 (クラス1: 10/3 ~2/24) 1単位  
(クラス2: 10/7 ~2/27) 1単位

担当: Gerald T. Shirley

Useful language at a basic level in a meaningful context continued to be practiced. Model conversations followed by guided activities designed for pair work were used to maximize speaking time.

- 5) 英語 A1 2年次 前期 (クラス1: 4/15 ~9/22) 1単位  
(クラス2: 4/14 ~9/24) 1単位

担当: 高橋 久夫

アメリカ合衆国では、事故による負傷者や病気の患者を病院へ搬送しながら救急治療を行うEMSという緊急医療サ・ビスのシステムがすでに確立している。合衆国のような広大な国では、救急車だけでなくヘリコプターや飛行機によって救急病院への搬送が行われている。使用した教科書は、カリフォルニア州サンフランシスコ湾岸でヘリコプターによる緊急医療サービスを行っているCalifornia Shock/Trauma Air Rescue でフライトナースとして勤

務した一女性の物語を題材にしたものであるが、読解力に重点を置いている。英文は絶えず声を出して読むことを実行させた。内容はともかく読む練習を更に重ねることが今後必要とされる。

6) 英語 A2 2年次 後期 (クラス1:10/2~1/8) 1単位  
(クラス2:10/1~1/13) 1単位

担当:高橋 久夫

列車とオートバイの衝突事故、ドラッグに絡む銃撃事件、湖のボート転覆事故、登山者の転落事故、ベイブリッジや高速道路上での大事故、などの現場に出動して医療活動を行うナースたちの姿が、さまざまなエピソードを交えながら生き生きと描かれ、実際にあった話の連続で構成されている。前期に引き続いて常に口を大きく開け、声を出して繰り返し何度も読み返すことを実行させたが、それなりに効果があった。

7) 英語 -B1 2年次 前期 (クラス1:4/14~9/24) 1単位  
(クラス2:4/11~9/29) 1単位

担当:Gerald T. Shirley

Natural language in everyday situations was practiced in order to increase students' command of simple, spoken American English. Interesting and fun speaking and listening activities such as role play were practiced in pairs and small groups.

8) 英語 -B2 2年次 後期 (クラス1:10/1~1/13) 1単位  
(クラス2:10/2/~1/8) 1単位

担当:Gerald T. Shirley

Essential English for everyday conversation continued to be practiced. A wide variety of speaking and listening exercises (such as information gap activities) that maximize student interaction were used to stress conversational fluency.

9) 英語 A 3年次 前期(4/15~9/30) 1単位

担当:高橋 久夫、G. T. Shirley

(講読)内容は(1)人体の基本的な働き(2)健康を増進する方法、(3)診察、検査、投薬、治療、手術等の場で考えるべき具体的な問題、(4)患者の心理や法的保護等をテーマとして扱った。

(会話)日常会話で用いる基本的英語の訓練を継続する。クラス全体を数グループに分け、それぞれのグループの中で一つのテーマを決めて互いに話させる。

原則として講読と会話を前半と後半に分けてどちらも受講できるようにした。今後はこの科目を自由選択科目として設定することが望まれる。

10) 英語 -B 3年次 後期(クラス2:4/15~6/10) 1単位  
(クラス1:6/17~9/16) 1単位

担当:Gerald T. Shirley

A variety of stimulating communication activities, including student and teacher-centered exercises, pair and small group work, and games and role-play that involved the whole class were used to help students improve their speaking ability.

11) 言語表現法 1年次 前期(4/16~6/11) 2単位

担当:日高 貢一郎

12) 韓国語 3年次 前期(4/14~9/22) 2単位

担当:許南 薫

13) スペイン語 3年次 前期(4/16~9/24) 2単位

担当:ホアンホセ・アルタミラノ

### 3. 卒業研究

- ・在日外国人のための育児に関するガイドブック作成
- ・臨床で使われる外来語（略語・隠語）の調査、及び看護職の外来語使用に対する認識に関する考察
- ・糖尿病の薬物療法に関する在日外国人と日本人のためのガイドブック作成

#### 3・4・8 基礎看護学研究室

看護学の導入部分として看護の歴史やその発展及び看護理論を理解するとともに援助方法の基礎について学ぶカリキュラムを実施している。具体的な教育目標と該当する科目は(1)看護とは何か、看護の本質と機能および看護専門職の役割と活動を理解する(「看護学入門」)、(2)日常生活の援助技術および医療に伴う看護技術の基礎を理解する(「生活援助論」)、(3)個人、家族、地域社会のヘルスニードを達成するための方法論である看護過程について理解する(「臨床看護総論」)、(4)看護の対象を総合的に把握し、健康問題を明らかにするまでの過程を理解する(「基礎看護学演習」)、(5)入院患者に接しながら、看護の対象の生活環境や心身の状態をふまえ、日常生活の援助の方法を理解する(「基礎看護学実習」)、(6)看護の視点でこれまでに学習した知識、技術を統合し、実践における総合的判断能力を習得する(「総合看護学」)、(7)遺伝学の基礎及び看護者として遺伝病や遺伝子診断に関わる問題解決能力を習得する(非常勤講師)(「看護と遺伝」)等である。

講義を行うにあつては上記の科目の学習進度にそつてさまざまな看護実践と関連づけたり、実際に体験させたりしながら理解が進むように配慮している。

#### 1. 教育活動の現状と課題

基礎看護学研究室としての基本的な教育目標である、看護学入門における看護とは何か、及び看護を展開する場合の方法論の理解に変更はない。しかし本年度からカリキュラム変更が行われ、基礎看護学研究室において新たに「総合看護学」が加わった。そのため、これまでは主として1・2年次生を対象に看護学の導入部分を担当していたが、4年次生を対象に実施する「総合看護学」では学生のこれまでの授業内容が統合でき、実践における総合的判断能力の育成のための教材精選や授業の展開方法、教師間の調整等が課題として挙げられた。

そこで、本年度は科目「総合看護学」においてはグループワークやロールプレイ等を活用し、担当しなかった事例でもできるだけ共有できるように配慮し、発表会を設け、看護系の教員以外にも参加を募り、指導助言を求めた。今後さらなる提示事例の精選や看護教員の関わり方等についても検討が必要であり、次年度以降の本研究室の改善点としてあげられる。また1・2年次での生活援助論では昨年から3・4年次に実施している看護技術教育プログラムについて説明し、その導入としての動議付けを行っている。次年度以降はさらにその点を強調して、授業の中に積極的に取り入れていく展開方法を模索する必要がある。

#### 2. 科目の教育活動

- 1) 生活援助論 1年次 前期 (6/17～9/24) 1単位、後期 (10/2～11/26) 1単位  
2年次 前期 (04/15～6/13) 1単位

担当：伊東 朋子、玉井 保子、姫野 稔子、重野 文絵、小林 みどり

1年次前後期、2年次前期にそれぞれ、生活過程、生命維持、診断治療の各1単位を実施した。援助技術習得のための基礎の論述と2人1組での学内実習を基本枠組みとして2コマ続きの展開としている。3・4年次に実施される看護技術教育プログラムの導入としての位置づけを理解させ、技術試験を頻繁に行い、課外での時間を有効活用させる。

- 2) 看護学概論 1年次 前期 (6/2～9/2) 2単位

担当：金子 道子、長吉 孝子、伊東 朋子、玉井 保子、姫野 稔子、重野 文絵

看護学入門と看護情報学概論の各1単位を実施した。初学者にとって概括的な知識や理論は具体性に欠け、理解を困難ならしめるので、それを補うために、外来講師による講話や実践例を交え、討論形式の授業も取り入れた。また長期休業中には、自学自習できるように課題を与えた。

3) 臨床看護総論 2年次 前期 (6/26~9/25) 1単位

担当：伊東 朋子、玉井 保子、藤内 美保、姫野 稔子、重野 文絵

2年次前期に1単位を実施した。看護実践を展開するための看護論・看護モデルについての学習をできるだけ平易に具体性を持たせて展開し、臨地実習への結びつきを強調した。

4) 基礎看護学演習 2年次 後期 (11/6~1/8) 1単位

担当：伊東 朋子、玉井 保子、木村 厚子、高波 利恵

看護の目的、目標を達成するための方法論である「看護過程」を事例を通じて展開させた。発表会を設け、グループワーク方式で学習した内容を共有できるように配慮した。また4年次後期に履修させる総合看護学への系統づけを行った。また基礎看護学実習を目前に控えた冬季休業中に、課題事例を与え、その展開例を作成させた。

5) 基礎看護学実習 2年次 後期 (1/14~1/27) 2単位

担当：伊東 朋子、玉井 保子、藤内 美保、姫野 稔子、小林 みどり、安部 恭子、神田 貴絵、小野 美喜、大津 佐知江、松尾 恭子、福田 広美、高波 利恵、木村 厚子、八代 利香、目原 陽子、山下 早苗、大賀 淳子

既習科目の理論と実践が統合できるように実習前指導・実習後指導には特に力を入れた。2実習施設14病棟での実習が望ましい形で展開できるように担当教員や学生のグループメンバー構成等は十分に検討した。実習センターの備品・消耗品等の整備にも努めた。

6) 総合看護学 4年次 後期 (10/6~11/17) 1単位

担当：伊東 朋子、藤内 美保、高橋 敬、市瀬 孝道、吉田 成一、佐伯 圭一郎、平野 互

本年度より新たに導入した看護の総合科目としての1単位を実施した。人間科学講座での科目と専門の看護学を終了した4年次の最終段階に履修することで、基礎的領域と看護専門領域との有機的な関連性を学ぶことができるように配慮した。4年次後期に履修することで就職や国家試験を前にして学習へのモチベーションが上がるようにグループワーク方式、ロールプレイを取り入れ、短期集中型で実施した。

7) 看護と遺伝 2年次 前期 (6/02~9/02) 1単位

担当：佐渡 敏彦、吉河 康二、伊東 朋子

非常勤講師による専門の講義や臨床での実践例を詳解した。

### 3. 卒業研究

- ・後期高齢者におけるギャッチアップの角度に対する残尿量の変化
- ・在宅清潔間欠自己導尿(CIC)施行者の日常生活の実態調査  
生活に即した看護支援の検討
- ・ベッドサイド補助具の違いがもたらす心理的反応の検討  
SD法を用いて
- ・30度側臥位の長時間保持による身体・精神的影響  
全身接触体圧、バイタルサインと自覚的苦痛の変化

看護アセスメント学は、基礎看護科学講座に位置づけられ、人の健康問題を科学的にアセスメントできる能力を養うことを目的としたカリキュラムを実施している。看護学の基盤となる人間科学講座で教授された内容との融合を図りつつ、身体的・心理的・社会的側面から看護学の視点でアセスメントできることがねらいである。現在教授している具体的な科目は、「看護疾病病態論」「看護疾病病態論」「看護アセスメント方法論」「看護アセスメント学実習」である。主にフィジカルな部分を中心としており、主要な疾病や病態の理解に加え、これらの知識をもとにどのような方法で健康問題をアセスメントするか具体的な方法論を教授している。

## 1. 教育活動の現状と課題

フィジカルな部分を重点におき、対象の健康問題をアセスメントするための能力を高めるには、疾病や病態などの基本的・専門的な知識が必要である。人間科学講座での生体科学、生体反応学などの知識を想起させ、さらに成人・老人看護学へつなげられるための内容を教授している。

看護疾病病態論は週に4コマのペースで講義を行うため、過密に専門的知識を教え込まなければならず、学生は専門用語の理解から混乱することが多い。そこで今年度は單元ごとに中間試験を実施し、知識を整理、復習できるようにした。試験問題の作成、採点など、手間がかかるが、その分教育効果もあがったと感じる。

看護アセスメント方法論は、病態のメカニズムの基本的知識について講義形式で教授した後、病態の正常、異常をどのように判断するのか具体的方法論についての教授を学内実習形式で行っている。また、看護アセスメント学で教授している科目は、専門領域のベースとなる重要な基礎的知識であるため、厳しく評価するようにし、また自ら学ぶという姿勢の重要性を強調している。

## 2. 科目の教育活動

### 1) 看護疾病病態論 1年次 後期後半 (12/2~2/26) 2単位

担当：藤内 美保

看護疾病病態論 は、循環器系、呼吸器系、血液造血器系、肝・胆・膵系、代謝・内分泌系の疾患を教授した。各系統の解剖学、生理学を復習し想起させながら、疾患の概念や病態、症状のメカニズム、検査、診断、治療を中心に教授した。可能な限り図式して理解を得やすいように配慮した。後期後半の3ヶ月間、週に4コマのペースで専門的な内容が膨大となり混乱しやすいため、各系統別の講義が終了するごとに中間試験を計5回実施するとともに最終の総合試験を実施した。中間試験を行うことで、知識の整理ができ、学生からも好評であった。

### 2) 看護疾病病態論 2年次 前期前半 (4/15~6/12) 2単位

担当：藤内 美保、安部 恭子、神田 貴絵、法化 陽一、今泉 雅資、津江 裕昭、山崎 透  
分藤 準一

看護疾病病態論 は、筋骨格系、脳・神経系、腎、消化器系、アレルギー疾患、自己免疫疾患、感染症、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科の疾患を教授した。専門性の高い疾患については、県立病院の医師による講義を依頼した。臨床医の講義は治療法や症例など具体的な提示もあり刺激になっている。

ただ、教員が入れ替わり立ち代りで教授方法もそれぞれ異なるため、一部戸惑う学生もあるが、中間試験を実施し、知識の整理ができるように配慮した。

### 3) 看護アセスメント方法論 2年次 前期後半 (6/17~9/30) 2単位

担当：藤内 美保、安部 恭子、神田 貴絵

看護アセスメント方法論は、フィジカルアセスメントの基礎知識、健康歴聴取、全身状態の観察、消化器系、循環器系、呼吸器系、感覚・運動系、脳・神経系の患者のアセスメントを中心に教授した。3コマ連続の講義で前半は病態の説明、後半は学内実習室でフィジカルイグザミネーションとした。3人の教員で80人の学生を指導するにはきめ細かな指導が困難であるため、フィジカルイグザミネーションのデモンストレーションでポイントを強調するように配慮するとともに、学内実習の終了時にまとめを行い、学生全員の理解が深まるよう工夫している。

また臨床現場で遭遇しやすい事例を7つ提示し、2グループが同様の事例を検討する演習を行った。発表では演習

したプロセスの違いが見えやすく、学生の気づきも大きい。最後に病態に関する筆記試験を実施した。

#### 4)看護アセスメント学実習 2年次 後期 (1/30~2/13) 2単位

担当： 安部 恭子、大賀 淳子、大津 佐知江、小野 美喜、木村 厚子  
神田 貴絵、小林 みどり、高波 利恵、玉井 保子、八代 利香  
姫野 稔子、福田 広美、松尾 恭子、目原 陽子、山下 早苗  
伊東 朋子、藤内 美保

看護アセスメント学実習においては、県立病院10病棟と赤十字病院4病棟に学生5~6名をそれぞれ配置し、患者1名を受け持たせ、アセスメントのプロセスを学ぶための実習を行った。ほぼ全員実習目標を到達したが、アセスメントの段階で解剖学や生理学の力不足のためにアセスメントが困難な学生も一部に見られた。しかし患者への理解は基礎看護学の段階よりも深められた。これは基礎看護学実習に引き続き行うことの効果であると思われる。実習終了後に担当教員を含む看護系教員で反省会を実施した。この内容をふまえ次年度改善を加えていきたい。

### 3. 卒業研究

- ・ 健常成人における入浴とシャワ・浴が 循環・呼吸動態に及ぼす影響の比較
- ・ 高齢者疑似体験装具装着の有無による転倒動作のアセスメント
- ・ ストレス負荷の違いによる唾液中クロモグラニンAと自覚的身体疲労感の変化
- ・ 妊娠初期の就労妊婦における仕事と妊娠の両立に関する思いと対応

## 3・4・10 成人・老人看護学研究室

成人・老人看護の実践に必要な専門知識・判断力と援助技術を身につけることを目的にし、そのために概論、援助論、演習、実習の各教科を設定している。そして、必要な知識・技術を確実なものとするために可能な限り学内実習を組み込むことに配慮している。

### 1. 教育活動の現状と課題

これまで、援助論の学内実習では、1教員の担当する学生が多く、個々の学生の細かな手技の指導・確認が困難であることが問題であった。昨年度は一部ティーチングアシスタントを導入したが、すべての実習に対応することができなかった。そこで、本年度は教員の負担は倍化するが、クラスを2分して同じ授業を2回繰り返すことにした。その結果、1教員は8名程度の学生を担当することになり、当初の問題は解決した。しかし、授業内容の進行に沿って学内実習を計画することが望ましいが、臨地実習の時期と重なる後期においては教員の配置に困難がある。

### 2. 科目の教育活動

1)成人看護学概論 2年次 前期前半(4/11~6/13) 1単位  
担当：粟屋 典子

2)老人看護学概論 2年次 前期前半(4/11~6/13) 1単位  
担当：粟屋 典子

一連の成人・老人看護学を学ぶための基礎となる内容として、成人期・老年期における身体的・心理的・社会的特徴や、健康問題の特徴などを教授した。

3)成人・老人看護援助論 2年次 前期後半(6/17~9/30) 2単位  
担当：内田 雅子、檜原 登志子、小野 美喜、大津 佐知江、福田 広美

4)成人・老人看護援助論 2年次 後期(9/30~2/24) 2単位

担当：内田 雅子、小野 美喜、大津 佐知江、福田 広美

援助論 ・ においては、看護実践において膨大な範囲の知識・技術を求められる中、限られた時間を効果的に活用する必要がある。そこで身体機能別に大別し、それぞれに関する健康問題をもつ対象の急性期と慢性期に必要な看護援助について教授した。また、それらに関連した援助技術の学内実習については、確実な技術の修得を可能にするために今年度よりクラスを2分し、同一内容で2回ずつ実施した。

5)成人・老人看護学演習 3年次 前期後半(6/16~9/22) 1単位

担当：内田 雅子、檜原 登志子、小野 美喜、大津 佐知江、福田 広美、松尾 恭子

演習においては、臨地実習で必須となる看護過程について事例を用いて展開させ、最終日にはディベート形式の発表会をもった。また、従来グループ作業で事例を展開する方法をとっていたが、傍観者的な学生の存在が問題となったため、本年は、学生個々に展開することとし、演習時間の後半にお互いの進行状況や疑問点を話し合うこととした。また、展開の困難な学生には個別指導を行った。

6)成人看護学実習 3年次 後期(9/29~12/19) 4単位

担当：内田 雅子、小野 美喜、大村 由紀美、姫野 稔子、木村 厚子、高波 利恵、  
神田 貴恵、安部 恭子、大津 佐知江、時松 紀子、松尾 恭子、玉井 保子、  
福田 広美、栗屋 典子

7)老人看護学実習 3年次 後期 (9/29~12/19) 2単位

担当：内田 雅子、小野 美喜、大村 由紀美、姫野 稔子、木村 厚子、高波 理恵、  
神田 貴恵、安部 恭子、大津 佐知江、時松 紀子、松尾 恭子、玉井 保子  
福田 広美、栗屋 典子

成人・老人看護学実習においては、10病棟に学生4~5名をそれぞれ配置し、担当教員と臨床側の実習指導者の指導のもと、学生に1~2名の対象者を受け持たせ、看護実践を体験させた。昨年より援助技術の確実な習得と拡充を目指すことが課題となっていた。そこで、計画時に臨床側と協議し、実習で習得する援助技術項目の拡充と、一人でできるようになる技術、看護師とともに実施する技術、見学する技術の区分を明確にした。そして、実習記録に援助技術の実施状況を記録するシートを加え、学生が自己の体験を確認し、次の実習部署での課題を明確にできるようにした。実習終了後、実習施設の各病棟教育担当者全員と担当教員で実習反省会をもち、意見交換を行った。

次年度への課題として、カンファレンスの時間を短縮する方向で検討することとなった。

8)老人看護学実習 4年次 前期前半(5/12~6/13) 1単位

担当：内田 雅子、檜原 登志子、小野 美喜、大津 佐知江、福田 広美、栗屋 典子

介護特別養護老人ホーム、介護老人保健施設において、入所者の生活支援を通して対象者を理解し、これらの施設における看護専門職の役割と課題を学び、その内容について実習最終日に学内で発表会をもった。

### 3. 卒業研究

- ・リハビリテーションチームにおける連携のとらえ方
- ・男性看護師のケアにおける自身の性の受け止め方
- ・看護師の障害児理解のプロセス
- ・看護師の月経随伴症状に対するセルフケア
- ・好みのアロマオイルを用いた足浴効果の検討
- ・看護大学生の飲酒行動に関する実態
- ・ツボの温熱刺激による排便促進効果の検討

小児看護学は、基礎看護科学講座で看護理論や技術を学んだ学生に対して、小児保健の立場で発達理論を学び、小児各期の発達・成長を理解する。つぎに、小児の健康の維持増進・健康障害の現象に対する小児看護の特殊性を学ぶ。さらに小児看護の看護過程の展開とそれに必要な援助技術を学ぶようにカリキュラムを構成している。

小児看護学は母性・成人・精神看護学とともに専門看護学講座の4科目群の1科目として重要な役割を担っている。講義は、2年生前期に概論で導入を行い、3年次前期前半より1年間で集中的に講義が展開される。最近は少子化の影響で兄弟も少なく、周囲に小児がいなかった、また接したことがないという学生が少なくない。そこで、DMのサマーキャンプや子どもの健康週間などの地域活動にも参加を促し、体験学習の場としている。講義では視聴覚教材を多用して、動的な子どもイメージを持たせるように配慮している。また、毎回講義の終了時に学生の意見や質問を求め、次の講義で質問に答えるようにして、できるだけ学生の疑問を残さないようにしている。3年次後期前半の小児看護学実習では、特に子どもの理解に焦点をあてている。学生が、保育所実習と小児病棟の実習を通じて、健康・不健康に関わらず小児にかかわる援助者としての態度を身につけ、肯定的な子ども観を構築するように配慮している。

## 1. 教育活動の現状と課題

小児看護学では、学内で学んだ理論を実習で実践し必要な専門知識・判断力と援助技術を身につけることを目的としている。また、小児看護学では発達過程にある小児の保健と看護を理解することをねらいにしている。そのために必要な事象を教授し、2年次の概論から学生個々の「子ども観」が育つように配慮している。3年次の小児の発達と援助論、演習、実習という流れのなかで、看護者、大人としての役割を意識し、行動できるようにカリキュラムを設定している。講義において学生は多量の小児に関する専門的知識を学ぶことになる。毎回の講義終了後に、講義内容に対する質問や意見をメモしてもらい、次の講義で質問に答えるようにしている。小児看護への適応と学習の定着を期待して、講義期間中に小テストを行い重要なポイントの理解を促した。実習前までに合格ラインに達していない学生には、再試験を実施するなどフォローした。次年度の改善策としては、これまで使用していたテキストの大幅な改訂に伴い、講義の構成を見直す必要がある。従来の多量の資料の提供をやめ、学生が能動的にテキストを活用する講義にするために全体の見直しを行う必要がある。

## 2. 科目の教育活動

### 1) 小児看護学概論 2年次 前期前半 (4/11~6/13) 1単位 担当：高野 政子

小児看護の特質と概要を理解するための基本的概念として小児の特徴を発達的にとらえ、小児と環境の関わりを考えるようにした。その上で小児保健・小児医療の動向を述べ教育・福祉の視点から小児看護の役割と重要性について教授した。具体的な内容は次の通りである。1. 小児看護学の変遷と小児看護の特殊性、2. 世界の子どもの健康と医療、3. 子ども観の変遷と子どもの権利、3. 日本の母子行政・母子保健と母子福祉、家族と親子関係(虐待) 4. 小児の成長・発達総論、5. 形態・機能的発達、6. 心理的・社会的・言語的発達。最後の講義で、フィールドワークを行って、子どもの観察レポートを発表し意見交換した。これまで目を向けることの少なかった子どもの発見が学生から報告され共有することになっている。これまでの学生の反応(コメント)等からは講義の目的を達成していると考えている。

### 2) 発達と援助論 3年次 前期前半 (4/11~6/13) 2単位 (演習含) 担当：高野 政子、目原 陽子、松尾 恭子

小児の発達過程の特質を理解するための主要理論に基づき、小児の行動を多面的に捉え、発達過程に応じた日常生活の援助方法と保育方法を講義し演習を行った。また、健康障害のある小児とその家族への援助方法を教授した。主な講義の内容は、1. 小児期の主要な発達理論、2. 小児各期の発達アセスメント、3. 乳児期、幼児期の保育理論と技術、4. 学童、思春期の保健と看護、5. 病気の子どもと家族、6. 小児の健康障害(病態と治療)の看護、7. 障害のある子どもと療養生活の援助8. 親子関係に問題のある場合の看護ほか。講義の終盤(できるだけ実習直前に)は、小児の援助に必要な看護技術の演習を行っている。学内演習では、一人の教員が20名を受け持つので、習熟度に差



が生じることが懸念されるが、それにはチェックリストで自己評価させたものを、演習終了後に教員に提出させ確認している。演習時間が少ないので、演習の項目と数は次年度検討しなおし、効果的な演習時間の使い方を改善することが課題と考える。

### 3)小児看護援助論 3年次 前期後半(6/16~9/26) 1単位

(演習含) 担当:高野 政子、目原 陽子、松尾 恭子、小林 みどり、

前半は、小児領域の主要な病態と疾患について講義形式で解説し、後半は、学生による調べ学習のレポート発表形式ですすめている。これは学生からも積極的に講義に参加できると好評で、次年度もこの方式で続ける予定である。また、講義の終盤は演習形式で行っている。臨地実習でよく出会う事例を紙上患児として5事例提供しグループワークで1グループが1事例の看護過程をまとめ発表する。発表日は1事例について2Gが発表し、それぞれのまとめた内容について意見交換した。この実施方法では、傍観者的な学生の存在が問題と考えられたので、次年度は早めにグループメンバーを決定して、事例も提供して学生個々に展開したものを提出させる。その後、演習前に互いの疑問点を話し合い発表することに変更予定である。また、展開の困難な学生には個別指導を行う。

### 4)小児看護学実習 3年次 後期(9/29~12/19) 2単位

担当:高野 政子、山下 早苗、目原 陽子

小児看護学実習においては、大分県立病院小児病棟に学生10名、大分こども病院に学生4名を配置し、担当教員と臨床実習指導者の指導のもと、学生に1名の対象児を受け持つよう配慮し、小児看護を体験学習させた。小児看護学の実習日数は2週間と短期間であり、看護学生としてもはじめて子どもに接するという者も多く、対象とのコミュニケーションの段階から戸惑うことも少なくないので、教員は学生が援助技術を実践することに苦手意識を持たないようにすることが、まず、第一の課題と考えられた。

本年度の実習では、実習学生数と教員の配置の関係から、基礎看護学研究室の助手1名の応援を得て、学生の実習を十分に指導できるように配慮して実施した。実習は保育所4日間保育実践の後で病院での小児看護に望むため、子どもにも慣れることができ、小児看護の動機づけとなり良い実習になっていると思われる。子どもは大人が護理育てる対象であるという認識をもつ学生が育っていると考える。実習では遊びの必要性や子どもの発達にあった遊具の開発などに取り組む姿が見られた。

実習終了後、実習施設の各病棟教育担当者全員と担当教員で実習反省会をもち、意見交換を行った。次年度への課題として、カンファレンスの時間を短縮することを検討する必要がある。

## 3. 卒業研究

- ・乳幼児をもつ母親の離乳食に対する困難感と食物アレルギーについての研究
- ・低出生体重児のコット移床における体温変動とその要因
- ・学童の視力低下と就寝時照明および夜間の近業活動との関連
- ・子どもへのテレビ視聴の影響 保護者と看護師の意識

## 3・4・12 母性看護学・助産学研究室

母性看護学・助産学は、専門看護学講座の4科目群の中の1科目群に位置している。母性看護学では、女性のライフサイクル及びマタニティサイクルにある母性各期・新生児の健康現象に対する援助の理論と方法について学ぶことを目的としている。助産学は選択科目になっており、本学では10名程度選考(今年度は15名選考)している。保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正で、実習中分娩の取り扱いについて、助産師又は医師の監督の下に学生一人につき、正常産を10回程度直接取り扱うこととされ、その前後のケア(保健指導)を含めた訓練に重点を置くことを助産師教育の基本的考え方としている。助産師教育は、卒業時点までにどこまでできることが望ましいかを基本にすえ、最小限、社会ニーズの変化に対応でき、母子の安全性(正常・異常の区別)が守れる判断力と実践力を持つことを教育目標とし、現在おかれている4年制看護大学の教育環境下で、選択科目としての現状の問題や課題について検討中である。

## 1. 教育活動の現状と課題

母性看護学では、学内で学んだ理論を、実習で実践し理論と実際を結びつけることを目標としているが、実習での受け持ち患者に対する看護過程がアセスメントの段階に止まり、具体策の実施・評価が十分に展開されず、看護過程のフィードバックまでいかないという反省があった。本年度は、母性看護技術の実施体験を重視し、チェックリストを作成した。同時に、具体策まで記録が及ばないため、実習に行く前に課題として、産褥期の看護の視点であるウェルネスの問題について、事前にまとめるように夏休みの課題とし提出させた。その結果、学生は母性看護技術を意識して実施していた。看護過程の展開については、カンファレンスの中でケーススタディを行ったことから比較的対象をとらえた展開をしていた。

助産学では、助産学専攻者15名は、母性看護学援助論と同時並行で、助産学概論、助産診断・技術学、の講義が開始されている。9月末から12月まで第4段階実習（母性看護の実習）を終え、また、1月から3月まで助産診断・技術学、の講義が継続して行われている。4年次の4月から5月中旬まで助産診断・技術学（助産過程、及び分娩介助演習）が組み込まれている。本年度は、助産過程演習（16時間）ではテキストに準じた情報の枠組みを作成しペーパーシュミレーションで2から3事例を展開し、助産学実習で活用した。分娩介助演習（16時間）では、側面介助法、正面介助法の2通りを学び、課外でも繰り返し練習することで、手順・方法の技術を体得させ、実習に臨んだ。その結果、分娩介助の必要物品の準備や基本的な手順は比較的スムーズであったが、分娩介助を10例程度取り上げるために実習期間が夏休み休暇に31日間延長（希望実習）したことや記録物が多かったこと、助産学教育が非常に過密であることなど、今後の課題である。

## 2. 科目の教育活動

### 1) 母性看護学概論 2年次 前期前半 (4/17~9/24) 1単位

担当：宮崎 文子、林 猪都子、神崎 光子

母性看護学の基本概念として、人間の性と生殖の側面から女性の全生涯を通じた健康生活の促進と健康問題への対応に視点をおき、母性看護の役割と重要性について系統的に教授した。内容は次に示すとおりである。1. 母性とは、母性看護とは（倫理面の強化） 2. 母性看護の変遷 3. 人間の性と生殖の概念と意義、性機能 4. Reproductive health/rightsの概念、genderとsex 5. 家族関係の理論とサポートシステム 6. 母性看護の理論と実際 7. 胎児の成長・発達（母子の歯科保健を含む） 8. 母性愛着行動と母子関係 9. 思春期の特徴とその対応 10. 家族計画と受胎調節 11. 人工妊娠中絶の諸問題、不妊症 12. 更年期・老年期の特徴とその対応 13. 母性の環境と諸問題（労働、環境汚染、文化） 14. 母子保健に関する諸制度。

本年度の改善点：本年度より国家試験出題基準の改善で必須問題が導入されることにより倫理面の強化を図った。今後の課題として教授内容を精選し判断力・思考力に重点を置いた教授法を検討している。

### 2) 母性病態論 3年次 後期 (10/1~1/31) 1単位

担当：肥田木 孜、谷口 一郎、吉留 厚子

母性のライフサイクルにそった主要疾患についての病態・生理、症状、治療、看護への視点から講義をすすめた。対象とした疾患名は次のとおりである。月経異常の鑑別診断、無月経、思春期貧血、子宮内膜症、子宮癌、STD、異常妊娠、異常分娩、異常産褥、産科領域の諸検査、ピルの基本知識と最近の動向、閉経症候群と治療、不妊症と治療、胎児・新生児の異常である。近年、不妊症に関して検査・治療がめざましく進歩していることを鑑み、来年度は不妊症についての授業の充実を図る予定である。

### 3) 母性看護援助論 2年次 後期後半 (12/1~1/31) 1単位

担当：吉留 厚子

母性看護の対象は母子のみではなく家族を含むことを認識し、妊娠から分娩の生理的变化について教授した。授業の基本方針として、前回の授業で教授した内容について、授業の最初に、学生と質疑応答を行い確認作業を進めていくように前年より努めた。特に、分娩における児頭の回旋等の話やプリントの図だけでは理解し難い内容は、模型を頻回に利用して、目でみて学生がよりわかりやすいようにした。来年度のシラバスの内容は看護師国家試験出題

基準にそって変更予定である。

4) 母性看護援助論 3年次 前期前半(4/11~6/13) 1単位

担当:吉留 厚子、渡辺 しおり、宮崎 豊子

異常分娩、正常産褥、異常産褥、新生児の看護について教授した。学生に授業内容について興味を持たせるために、特に異常分娩や異常産褥について事例を提示しながら授業を進めていった。前回の授業の内容について確認したほうが、より授業の内容の理解に効果的であると思われた場合には、授業の開始に学生と質疑応答を行った。来年度のシラバスの内容は看護師国家試験出題基準にそって変更予定である。

5) 臨床母性看護総論 3年次 前期前半(4/11~6/13) 1単位

担当:吉留 厚子、神崎 光子、後藤 由美、大神 純子

母性看護学実習で実施する母性看護特有の援助の実際を教員の指導のもとで演習し、また、母性看護の特色のある症例をもとに看護過程のペーパートレーニングを行い、母性看護実習の実践で応用できるように教授した。しかし、実習での受け持ち患者に対する看護過程がアセスメントの段階にとどまり、具体策の実施・評価が十分に展開されないと反省があったので、本年度は実習に行く前に課題として、夏休み中に産褥期の看護の視点であるウエルネスの問題について事前にまとめるように提示し、提出させた。その結果、学生は母性看護技術について以前よりも積極性がみられた。看護過程の展開についても比較的对象をとらえる視点ができていた。来年度も継続して事前課題を与える予定である。

6) 第4段階母性看護学実習 3年次 後期(9/29~12/19) 2単位

担当:神崎 光子、後藤 由美、大神 純子、宮崎 文子、吉留 厚子、  
林 猪都子、小西 清美

母性看護学実習は、対象の妊娠・分娩・産褥の経時的変化を身体的・生理的側面だけでなく、親としての役割に対する認識や夫をはじめとする家族との関係など、心理・社会的側面を含めて総合的に理解して母性各期の特性とニーズに応じた看護過程の展開の実際を学ぶと共に、併せて人の生命誕生と親となる過程における看護職の役割の認識を深めることをねらいとする。実習施設は2施設である。

実習開始前に実習施設と昨年度の反省を踏まえた実習打ち合わせを行った。施設毎に1グループ4~10名の学生と1~2名の担当教員という組み合わせで、2週間(のべ12週間)の実習を行った。

現在学生の母性看護技術・看護過程展開の記録物から問題点を分析し改善点を検討中。

実習施設と学生数

大分県立病院4階東病棟、産科外来(学生数52名)

堀永産婦人科医院(学生数23名)

7) 助産学概論 3年次 前期(4/12~9/26) 1単位

担当:宮崎 文子、吉留 厚子

助産および助産の基本概念について、歴史的変遷から概説し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割と重要性について、さらに助産師活動に積極的に取り組む姿勢について系統的に教授した。内容は次に示すとおりである。1.助産学の構成 2.助産の本質・意義・対象 3.助産の原理原則 4.助産の歴史とあり方 5.助産風俗

6.母子保健の動向と諸制度 7.助産師の職性と業務(諸外国と日本) 8.助産師教育(諸外国と日本) 9.助産学を構成する理論、助産課程の基本、助産ケアに活用できる看護学関係理論 10.助産師と倫理 11.諸外国の助産師活動 12.ICM(国際助産師連盟)の活動 13.日本の助産師の現状と課題 14.助産学と研究

本年度の改善点:少ない時間の中で課題を与えグループワーク・発表時間を積極的に取り入れ、課題の文献検索・思考力の訓練の強化を図った。来年度は講義内容の精選を行い講義にゆとりを持たせたい。

8) 助産診断・技術学 3年次 前期後期(5/6~2/17) 1単位

担当:林 猪都子

助産診断に基づいて、助産を実践するための基本的な知識と技術を理解するために、妊娠期分娩期の生理と経過、援助技術、保健指導について講義と演習を行った。妊娠期は保健指導技術の向上と4年次の助産実習に生かすため、

学生が妊婦の保健指導パンフレットと指導計画書を作成し、実際に個別指導・集団指導の模擬演習を行った。分娩期は分娩経過診断ができるように分娩経過と児頭回旋、内診所見の関係が理解できるように骨盤模型や内診モデルを使用して講義した。また、今年度は妊娠期分娩期の異常時の知識と看護を充実する目的で、異常時の看護を課題学習に変更して、授業の中で学習した内容を共有する機会を設けた。学生は課題学習を行うにあたって、医師や教員に質問を豊富に行うなど課題学習への積極的な取り組みがみられた。来年度は学生が妊娠期の助産診断ができるように、妊娠期の正常経過や超音波診断の内容を強化したいと考えている。

9) 助産診断・技術学 3年次 前期後期 (5/9~2/24) 1単位

担当：小西 清美、大神 純子

今回は、生殖器の形態と機能の講義を組み入れ、女性のライフサイクルにおけるセクシュアリティをめぐる健康問題の理解し、さらに、性教育の指導案作成、家族計画の援助方法について、演習を行った。産褥、新生児の生理的・心理社会的側面を深め、正常・異常への逸脱における助産診断ができるように基本的な知識・技術について講義を行った。助産診断による援助方法が実践できるために、乳房マッサージ法、母乳保育支援、産褥体操、新生児の取り扱い、新生児の蘇生法など演習を行った。さらに、退院時保健指導について、指導案、指導方法、パンフレット作成など、助産実習で実践できるように工夫を行った。

来年度は、学生が性教育・家族計画指導や退院指導が具体的で、実践的に行えるようにしたい。

10) 助産診断・技術学 3年次 前期後期 (4/30~2/13) 1単位

担当：松本 英雄、飯田 浩一、岩里 桂一郎、中村 聡、室 康治、馬場 真澄、宇都宮 隆史、大川 欣栄

マタニティサイクルにおける女性の医学的管理について、異常妊娠・分娩・褥婦、産科手術・処置について、国家試験の出題傾向を意識して、教科書に準じて教授された。今回、新しい外部講師が不妊症、新生児医療について、2人加わり教授された。不妊症は、健やか親子21の方策の一つでもあり、講義(4時間)を組み入れて強化した。一方、新生児医療は、学生の苦手される項目のため、国家試験出題の基準を見直し、教授内容を具体的にあげて講義を依頼した。その結果、不妊症や新生児医療の講義内容は、具体的で、学生もかなり関心を持っている。来年度も講義内容の項目を検討し、学生に効果的に学習が深められるように改善したい。

11) 助産診断・技術学 4年次 前期前半 (4/14~4/28) 1単位

担当：林 猪都子、小西 清美、神崎 光子、後藤 由美、大神 純子

分娩期の助産診断の講義と実際の症例を用いて、入院時から分娩経過の予測と助産診断が行えるように、助産過程の展開を行い、助産実習で活用できるように教授した。今年度は助産実習記録を改正して、「助産診断システム研究会」の助産診断の概念枠組みを用いて時期診断、状態適応診断、経過予測診断が行えるように、看護過程の展開を基本事例(1事例)と臨床事例(1事例)試みた。来年度は助産実習記録の修正と事例内容の検討を行っていききたい。

分娩介助演習(16時間)では、助産の技術を習得し、実習における不安・緊張を軽減する目的で、技術の訓練を徹底した。側面介助法、正面介助法について、教員のデモンストレーション後、手順について模倣的に学習し、2通りの介助法をそれぞれ5回ずつ、繰り返し練習し、技術を体得させて、実習に臨んだ。その結果、実際の実習場面でも、分娩介助の必要物品の準備、次にどのような行動をしたらよいかわかって実習された。来年度も継続して行いたい。

12) 地域助産活動論 4年次 後期前半 (10/7~11/29) 1単位

(地域助産論) 担当：宮崎 文子、小西 清美

助産管理の概念について、その本質と機能、助産管理(経営)の歴史的変遷、開業権を持つ専門職業としての概括的な知識・考え方および地域助産活動に必要な理論について教授した。内容は次に示すとおりである。

1. 地域母子保健の理念、行政的施策の動向と助産師の役割 2. 助産管理の基本概念(組織と機能) 3. 助産業務の特性と課題 4. 助産院の経営管理 5. 助産院経営史と経営理念 6. 助産院経営とマーケティング 7. 財務管理(損益分岐点分析を中心に) 8. 人的資源管理と助産院の勤務体制 9. 安全性と救急支援システム 10. 多角化の取り組み(子育て支援・女性の生涯を通しての支援) 11. 働く場の特性と助産業務管理(病院・診療所) 12. 働く場の特性と助産業務管理(保健所・市町村・母子保健センター) 13. 助産業務と関連法規・社会保障制度 14. 医療事故と助産師

本年度の改善点：財務管理に演習を取り入れたが時間不足のため再考を要す。

## 12) 助産学実習 4年次 前期(6/16~9/19) 6単位

担当：神崎 光子、後藤 由美、大神 純子、宮崎 文子、林 猪都子、吉留 厚子、小西 清美

本学の助産学実習は選択実習であり、基礎看護学、看護アセスメント学、専門看護学実習、地域看護学実習を踏まえて4年次前期に位置づけ、助産学を選択しない学生の総合実習の開始と同時に、総合実習期間を含めて8週間の助産学を設定している。助産学実習では、人間尊重の基本理念に基づき、妊娠中から産後までの家族を含めた継続的なきめ細やかな援助を行いうる素地を養い、出産の場においては、本来備わっている出産の自然のメカニズムを最大限に発揮できるよう産婦の意思力を引き出し、正常からの逸脱を予防し、安全で安楽ないいお産ができる助産能力を身につけ、助産師の専門性を高めうる実践力を探究することをねらいとして行った。

本年度の学生は15名である。実習施設の分娩状況からみて以下の4施設で学生、担当教員、専任教員の組み合わせで指導に当たった。少子化の現状での分娩介助10例程度(規定)は助産実習の大きな課題である。今年度も実習期間中の分娩件数不足が予測されたため夜間実習(最低自然分娩8例以上を目標)を余儀なくした。加えて学生の希望実習(夏休みの31日間)により15名がやっと分娩介助8~10例に至った。そのため記録物の大幅な掲出の遅れが見られた。来年度の改善点としたい。

<実習施設と学生数>

- 1)大分県立病院4階東病棟(1学生母体搬送・帝王切開受け持ち1例含む)産科外来で1学生8日間  
のべ2週間：学生数15名
- 2)堀永産婦人科医院(6週間・1学生分娩介助10例・家庭訪問含む)：学生数10名
- 3)大川産婦人科医院(6週間・1学生分娩介助10例・家庭訪問含む)：学生数5名
- 4)生野助産院(1学生2日間 のべ2週間)：学生数15名

## 3. 卒業研究

- ・授乳婦人における乳房マッサージによるリラクゼーション効果
- ・離乳時の乳房マッサージによる主観的症候と乳房皮膚温の変化
- ・産褥3日目から5日目における乳房マッサージの効果について  
サーモグラフィーを用いて
- ・妊産婦体操が妊婦の筋に与える影響について
- ・出産時分娩体位における女性の意識
- ・分娩経過による分娩直後の筋肉疲労と自覚疲労の検討
- ・妊娠中の飲酒行動特性の検討
- ・産褥2日目から5日目における産婦の乳房マッサージによるリラクゼーション効果
- ・出産に対する産婦の主体性と分娩施設選択条件の関係性

### 3・4・13 精神看護学研究室

本科目群では関連する4科目全体を、基本的知識を得る座学から始まり、臨地での実践に終わる一連のプロセスと強く意識して統一的に構成している。概論、援助論、演習は最終段階である実習(臨床)に有効となることを最終目標としている。常に実践的・具体的内容となるように意識し、臨床場面での問題解決の手助けとなるような事例を豊富に取り入れた。

## 1. 教育活動の現状と課題

あらゆる領域で働く看護職に、精神看護学の専門的知識・技能が求められる時代となっている。本科目群で学ぶ項目は、専門領域の一つであると同時に共通・基本領域でもある。そこで一部の興味を持った学生ばかりではなく、

全学生が積極的に興味と関心を持って取り組めるような活動とすることが目標である。  
学生に「自分の役に立つ」、「もっと学びたい」と感じさせるような、インパクトのある内容・方法を工夫してゆくことが今後の課題である。

## 2. 科目の教育活動

### 1) 精神看護学概論 2年次 後期 (10/1～1/13)

担当：影山 隆之

本科目では、a)心の健康について理解するために活用されるモデル(考え方) b)精神保健看護の歴史、c)精神看護のアセスメントに必要な症状と状態像の知識、d)主な精神疾患の疾病論の四部について講じた。従来から独自に作成してきた講義資料を、今年度から冊子体テキストにして開講前に配布した。受講者が精神看護に興味を持ち、精神障害者に対する偏見を払拭できるよう、CD・OHC・ビデオで芸術作品を提示したり、当事者の生活を提示したりする工夫に努めた。テキストには、理解の助けになるような事例(文章記述)や例題を、できるだけ多く取り入れた。毎回の講義の初めに短い発問を記したA4またはA5の用紙を配布し、授業中に記入・回収して、その時間内に「回答」の一部を例として取り上げ議論の材料にするとともに、翌週までに朱入れして返却することで受講者が理解不十分な点を解消する工夫とした。授業時間に比して内容が盛りだくさんの傾向があるので、人間関係学や精神看護援助論などの講義内容との調整が今後の課題である。

### 2) 精神看護援助論 3年次 前期 (4/11～9/26)

担当：河島 美枝子、影山 隆之、大賀 淳子

本科目は精神看護学概論で学んだ基本的知識を踏まえ、臨床の場により近づけた知識を、講義形式の座学として、出来る限り具体的に学び、次ステップの実習につなげる位置づけにある。

#### a) 主な教育内容：

精神科医療施設をはじめとする様々な臨床の場で、精神的な問題を持つ人々に対する看護を実践するための実践的な知識である。

#### b) 教育方法の工夫：

- ・臨床場面での具体的なイメージを学生が持てるように、実習施設での事例や先輩達の体験例を豊富に取り入れた。
- ・毎回、学生に中心課題に関するミニテストやレポートを課し、次回までに教員がメッセージやコメントを赤字で記入して返却した。全体の教育目標の達成度の確認、個別の状況の把握、教員の教育方法の評価、学生理解不足点の補充、学生が示した興味・関心点の拡大を次回に図った。

#### c) 次年度への課題

- ・限定された講義時間を有効に利用するための教育項目の整理と絞込み
- ・講義形式で可能な参加型教育の工夫
- ・各回完結型のミニテスト・レポートを全期間型とすることによる個別指導面の強化

### 3) 精神看護学演習 3年次 前期後半 (6/16～9/26)

担当：河島 美枝子、影山 隆之、大賀 淳子

この演習の内容は、コミュニケーションについての体験学習、精神看護アセスメントへのチャレンジ、自助グループメンバーを招いての分かち合い、実習へ向けての看護計画へのチャレンジなどである(全7回)。学生を12グループに分け、毎回の内容に応じて、グループワークの時間と個人作業の時間を組み合わせ、あるいは教員がファシリテーターとなってクラス全体で分かち合いの時間を持つなど、柔軟な構成で進めた。毎回時間内に提出されたレポートは、次回までに朱入れして返却するとともに、多くの学生に共通する課題と思われる点について資料を作成し次の回に補足した。この時期に学生に経験してほしい演習内容は多いにもかかわらず、時間や場所が限られているため、内容や進め方について毎年新たな試行を取り入れているところであり、内容の精選や、グループ分けの効果を最大限に発揮させる工夫が今後の課題である。

### 4) 精神看護学実習 3年次 後期前半 (9/29～12/19)

担当：河島 美枝子、影山 隆之、大賀 淳子、八代 利香、宇都宮 仁美

大分丘の上病院において、3つの病棟・外来・デイケア・訪問看護の各部門に学生を配置した。各部門での看護実践を通して、精神科医療施設での看護ならびに社会の中での精神看護の役割について実践を通して学習させた。今年度は、開棟直後の思春期・ストレスケア病棟での実習、学生自身による実習病棟の選択、院長とのディスカッション内容の充実など、いくつかの新たな改善を図り、大きな収穫を得ることができた。これらの改善点については、さらに継続して臨床指導者との協議を重ね次年度の実習につなげる予定である。

### 3. 卒業研究

教員は研究テーマの選択・決定から論文の作成までのプロセスを、各学生の興味・関心、自主性、能力に十分配慮して支援した。以下に研究タイトルを示す。

- ・O県における断酒会活動の活性化要因の調査
- ・自殺に関する地方公務員の意識調査
- ・大分県における精神障害者グループホームの実態 -入居者から聴き取った入居までの経緯・現在の満足度・将来の展望
- ・勤労者の眠気と職業性ストレス・通勤との関係についてのパイロットスタディ
- ・高齢者施設に入所している痴呆老人への排尿援助が睡眠に及ぼす影響

来年度の課題は、本年度より限られた時間・人的資源という条件下での以下3条件の達成である。a) 学生自身が意欲・満足感を持って取り組めるテーマの選択、b) 学生の自主・自立性を重んじ教員指導中心型にならない教育方法、c) 公表が可能な研究レベルの達成。

## 3・4・14 保健管理学研究室

地域社会で生活する人々の健康を支える看護職者に必要な知識とスキルの習得を目的として、学生自らが考え実践することを重んじた教育プログラムを組み立てている。1年次は、健康という概念を理解するとともに、講義と実習を通じて、看護職者の活動する領域と各領域における対象者の多種多様な健康ニーズを学び、2年次には、保健・福祉・医療に関する諸制度・法体系の構造とその活用に必要な基本的な考え方を、3年次では、専門職に求められる行動原則としての倫理および、地域・学校・産業などの具体的な場面における保健活動の実際を学ぶとともに、演習を通して実践に必要なノウハウを体験的に習得することを目標にしている。

### 1. 教育活動の現状と課題

講義においては、今日の社会の変化に応える最新の内容を目指すとともに、多様な健康ニーズと社会の要請に対応できるように内容を検討している。他の講義や実習との結びつきを考えて講義・演習の内容を組み立てており、3年次の演習で健康教育を共通テーマとし、具体的な事例検討を通して実践能力を養うように配慮したことはその一環である。

### 2. 科目の教育活動

#### 1) 健康論 1年次 前期前半(4/15~6/10) 1単位

健康の概念と健康に対する考え方の歴史的変遷を理解し、健康の意味を考え、健康の維持・増進の重要性について学ぶことを目的とした。さらに人々の健康ニーズを把握し、健康増進活動における看護職の役割を認識するとともに、専門職として積極的に取り組む姿勢を養うための講義を行った。

担当(講義回数)と概要

草間 朋子(2) 健康の概念と健康政策、生活習慣と健康

永松 啓爾(1) クロイツフェルト・ヤコブ病とその周辺

平野 互(4) 健康の価値と健康度の評価、健康づくり

桜井 礼子(3) ライフサイクルと健康、運動・栄養・ストレスと健康

高波 利恵(1) 環境と健康

宮崎 文子、河島 美枝子、粟屋 典子、高野 政子、工藤 節美、金 順子 各専門分野における健康課題と看護職の関わり

## 2) 保健福祉システム論 2年次 後期(10/7~12/15) 2単位

担当: 平野 互

憲法に謳われた国民の「権利」について示し、権利を実現するための制度的保障すなわち社会保険、社会福祉、国家扶助および公衆衛生(保健・医療)を内容とする社会保障制度の概要とその意義を論じた。関連する法体系・制度は膨大だが、少子高齢化や感染症の動向など今日の社会変化に対応する項目に重点を置き、加えて、システム・マネジメントに必要な事業評価とリスクマネジメントや、インフォームド・コンセントなど患者・障害者の諸権利の諸相について論じ、専門職としての判断に必要な基礎知識を獲得できるようにした。

## 3) 保健活動論 3年次 前期(4/16~9/25) 2単位

地域、学校、産業における法令に基づく保健活動のあり方と実際を教授した。看護職として個人及び集団の健康の保持・増進、疾病予防のための支援のあり方を理解するとともに、保健活動の具体的な実践方法とその評価について学ぶことができるよう講義を構成した。また、地域の救急救命活動の実際を理解し、救急救命処置の一つとして心肺蘇生術の実践ができるよう演習を行った。

担当(講義回数)と概要

草間 朋子(2) 看護職の活動、看護職と法令

平野 互 (2) 健康教育の進め方

桜井 礼子(3) 学校保健活動、地域保健活動(保健所・市町村)

高波 利恵(1) 産業保健活動

遠藤 俊子(2) 産業保健活動の実際

三宮 昭子(2) 学校保健の実際

大神 貴史(2) 保健所の活動の実際

相良 フサ子(1) 保健所保健師の役割と市町村との連携

日本赤十字社(4) 救急救命処置の基礎(講義1, 実技3)

長野 光将(1) 救急医療と救急救命士の役割

## 4) 看護の倫理 3年次 前期前半 (5/1~6/12) 1単位

担当: 平野 互、大林 雅之

看護職に必要な生命倫理学の知識を習得するとともに、倫理的行動規範に基づく思考訓練を行うことを目的に、5時限の講義と2時限の事例演習を行った。講義は、「Bioethicsの成立」・「新しい医療倫理の展開」の2回を大林、「Profession と倫理」・「看護職の責任と倫理」・「看護の倫理規定と患者の権利」の3回を平野が担当した。事例演習は、7グループに分けてグループ・ワークと発表・討議を行い、発表に関するグループ・レポートにより成績評価を行った。

## 5) 保健管理学演習 3年次 後期後半 (1/8~2/26) 1単位

担当: 草間 朋子、平野 互、桜井 礼子、高波 利恵、木村 厚子

保健活動の領域で実際に直面する可能性のある事例に対して、グループワークを通して、さまざまな視点から問題解決にいたる筋道を検討するとともに、プレゼンテーションと議論の訓練を行うことを目的とした。共通課題として、産業、学校、地域の領域における健康教育の企画・実践・評価に関する事例を6題提示した。1グループを7名とし、12グループを編成して、同一事例に対して2グループが別個に検討を加えた。2グループは、プレゼンテーション・ワークとして、住民健診の場を活用した健康教育のロール・プレイを行った。発表を通して、問題解決方法の多様性、視点の違いなどを議論した。評価は、問題解決のための能力ばかりでなく、議論への参加態度にも着目した。

## 6) 初期体験実習 Early Exposure 1年次 前期後半 (9/9~9/17) 1単位

担当: 安部 恭子、宇都宮 仁美、大賀 淳子、大津 佐知江、大村 由紀美



小野 美喜、神田 貴絵、木村 厚子、工藤節美、小林 みどり、桜井 礼子、高波 利恵、玉井 保子、時松 紀子、姫野 稔子、福田 広美、松尾 恭子、目原 陽子、八代 利香、平野 互、草間 朋子

看護職の活動する保健・医療・福祉の場において、3日間の施設実習で看護活動の実践を体験し、対象の健康ニーズと看護職の活動を知ること、看護職と協働する他の専門職の役割や人々の健康を支えるためのシステムを知ること、さらに学内カンファレンスを通して、異なる施設での実習体験を共有することで人々の多様な健康ニーズを知り、人々の健康を支えるための看護職の役割を知ることが目的とした。

実習施設：

事業所：株式会社大分銀行、新日本製鐵株式会社大分製鐵所、  
九州電力株式会社大分支店、昭和電工株式会社大分事業所健康管理センター

保健福祉施設：精神保健福祉センター

検診センター：大分県地域保健支援センター、大分県地域成人病検診センター

学校：大分高校

病院：大分県立病院、大分赤十字病院、農協共済別府リハビリテーションセンター、  
湯布院厚生年金病院、湊野病院

介護老人保健施設：わさだケアセンター、陽光苑、健寿荘、

特別養護老人ホーム 百華苑

市町村：庄内町、野津原町

### 3. 卒業研究

- ・健康関連体力としての全身持久力の間接的測定方法の検討
- ・O県内の社会福祉施設における利用者の苦情解決システムに関する実態調査
- ・高齢者の生活関連体力としての柔軟性の評価法に関する検討
- ・高齢者の下肢の筋・骨格系の障害の程度を把握するための手法の検討
- ・高齢者に対する3分間足踏み歩行の健康指標としての意義
- ・O県内の公立施設における禁煙・分煙の実態調査

#### 3・4・15 地域看護学研究室

個人、集団、地域への視点を広げ、地域を包括的に捉えた看護活動を行うために必要な基本的な考え方、援助方法を身につけることを目的に、地域看護学概論、在宅看護学、家族看護論、地域生活援助論、地域看護学演習、地域看護学実習の科目を設けている。特に、講義と演習、実習の連動性を考慮し、演習内容や実習方法等を工夫している。

#### 1. 教育活動の現状と課題

これまでの学内演習では、地域看護診断と具体的な援助技術を中心に行ってきたが、実習の場において個人を対象とした看護過程の展開が不十分であるという実習指導者からの意見もあり、本年度は地域看護診断とペーパーペイシエントを用いた看護過程の展開、ロールプレイを中心に演習を行った。その結果、実習においては実習地域の健康問題を踏まえた活動内容を学ぶと共に、地域で活動する看護職に必要な最低限の技術習得ができた。今後は、演習時間数や教員の指導体制等を踏まえ、限られた時間の中でより効果的な演習が行えるよう運営方法、内容について検討の必要がある。

#### 2. 科目の教育活動

##### 1) 地域看護学概論 2年次 後期前半(10/7~10/25) 1単位

担当：工藤 節美

地域における個人や家族、社会集団へ保健および看護活動を行うために、地域住民の主体性を重視した地域看護学の基本的事項について講義した。主な内容としては、地域看護学の概念、地域看護活動の場の特性、プライマリ・ヘルスケアとヘルス・プロモーションの概念、大分県の地域看護活動、地域看護活動の対象と方法（個人と家族、集団と地域）地域看護の変遷と今後の課題である。学生が、個人、集団、地域へ視点を広げるための工夫として、現在、生活している大分県における地域看護活動の具体的な紹介やビデオ等を活用し、地域看護活動のイメージづくりを行った。

2) 在宅看護論 3年次 前期前半(6/17~7/8) 1単位

担当：工藤 節美、加藤 さゆり、宇都宮 仁美

地域で生活する疾病や障害をもつ人々に看護を行うために、在宅看護の基本的な考え方と援助方法について講義と演習を行った。主な内容としては、在宅看護の概念、在宅看護の活動の場と特性、社会資源の種類と活用、ケアマネジメント、ケアマネジメント（演習）、公的介護保険制度におけるケアマネジメント、訪問看護ステーションにおける事業経営（南海部郡佐伯市医師会訪問看護ステーション：寺嶋 和子氏担当）生活支援の方法、医療依存度の高い人のケア、在宅終末期ケア、在宅看護過程（演習）である。ケアマネジメントと在宅看護過程の演習では、グループワークの方法を用いて、自宅で療養生活を行っている事例（ペーパーペイシエント）に対する具体的なケアマネジメント、看護計画の立案を行わせた。さらに、在宅看護の実際を理解させるために、地域で訪問看護活動を行っている看護師を講師として招き、大分県における訪問看護活動の実際や訪問看護ステーションの事業経営について講義を取り入れた。

3) 家族看護学 3年次 前期後半(6/17~7/8) 1単位

担当：工藤 節美、時松 紀子、

家族が健康的なライフスタイルを獲得することや、健康問題を主体的に解決していくために、家族のセルフケア機能を見直し、家族にどのような看護援助や生活調整が必要になるかについて講義と演習を行った。主な内容としては、家族看護学の概念、家族の構造と機能、家族を理解するための諸理論、家族看護過程（演習）である。特に、演習では「家族を一つのユニット」として捉え、看護を展開するためにカルガリー家族アセスメント・介入モデルを活用して学びを深めさせた。

4) 地域生活援助論 3年次 後期後半(2004/1/8~2/26) 2単位

担当：工藤 節美、宇都宮 仁美、時松 紀子、大村 由紀美

保健所、市町村を基盤とした行政機関における地域看護活動の展開や対象別地域看護活動について教授した。主な内容としては、地域看護活動の展開（演習）健康相談と家庭訪問、対象別地域看護活動（母子保健活動、成人保健活動、障害者保健活動、高齢者保健活動、地域精神保健活動、感染症保健活動（演習）難病保健活動）地区組織化活動における保健師の役割、災害看護活動、市町村の保健師活動（真玉町保健師：井南富士子氏担当）である。特に、演習において地域看護活動の展開では、県内の某町のデータを活用して健康問題の抽出等の地域看護診断を行うことにより、生活する場としての地域の捉え方について学ばせた。感染症保健活動では、ペーパーペイシエントを用いた看護過程の展開を行い、問題解決のための具体的な支援方法について学びが深まるよう工夫した。さらに、各演習のまとめを行い学生に演習内容の評価をフィードバックすることで、地域看護学実習に向けた自己学習につながるよう配慮した。また、市町村の保健師活動では県内の町保健師を講師として招き、地域で看護活動を行う専門職として具体的な活動をイメージし、学びを深めさせた。

5) 地域看護学演習 4年次 前期前半(4/11~5/1) 1単位

担当：工藤 節美、加藤 さゆり、宇都宮 仁美、時松 紀子

地域看護学実習前の演習と位置づけ、既存資料を用い実習地域の地域看護診断、家庭訪問における移動・入浴援助の実技、ペーパーペイシエントを用いた看護過程の展開を行った。各々の演習においてグループワークを中心に行ったが、担当教員が巡回しきめ細かな指導を行った。

6) 地域看護学実習 4年次 前期(5/12~6/13) 4単位

担当：安部 恭子、宇都宮 仁美、大賀 淳子、加藤 さゆり、神田 貴絵、木村 厚子、工藤 節美、  
桜井 礼子、重野 文江、高波 利恵、玉井 保子、時松 紀子、姫野 稔子、松尾 恭子、目原陽  
子、八代 利香、平野 互、草間 朋子

大分県下全域で同一保健所管内において、訪問看護ステーション32、市町村35、保健所および支所  
14の施設でそれぞれ1週～2週間の実習を行った。実習方法として、学生をそれぞれの施設に2～4名  
配置し、臨地での直接的な指導は施設の看護職が行い、担当教員は各実習施設を巡回し、カンファレン  
ス指導や実習施設との実習内容等の調整を行った。実習内容としては、訪問看護ステーション、市町村  
では各々最低1名の訪問指導、また市町村においては集団を対象とした健康教育、地区視診を必須とし  
た。今年度は実習前に県下6カ所で実習指導者打ち合わせ会議を行い、本学の実習概要の説明を行うと  
ともに、指導者側より実習に関するご意見をいただき、実習内容の改善に努めた。

### 3. 卒業研究

- ・子育て支援活動における「親子がつどう場」の内容と方法の検討
- ・乳幼児をもつ母親の母子保健サービスに対する認識と利用状況からみた今後の母子保健事業の検討
- ・山間地域における一人暮らし高齢者の食品入手行動の実態
- ・基本健康診査で高血圧症「要指導」となった前期高齢者の生活習慣
  - ・ 判定別にみる一年後の生活習慣の実態

## 3・4・16 国際看護学研究室

International nursing courses aim at the development of an understanding of global cooperation and networking of health and of nursing, develop an understanding of global health issues and strategies; realize roles and responsibilities of nursing profession in the global era in the diverse socio-economic, cultural, and eco-geological context; the impact of international aids and cooperation during war and disaster and develop fluency in the use of global health and nursing terms.

Three mandatory courses for baccalaureate students, one for sophomore class and two for junior students are planned and carried out. Two elective courses for post-graduate students, one each for master's and doctorate, are open.

Faculty members;

Baccalaureate courses; Kim Soon Ja, RN, PhD, Professor,

Yatsushiro Rika, RN, PhD Candidate, Assistant Professor

Post-graduate courses; Kim Soon Ja, RN, PhD,

Sakurai Reiko, RN, PhD Candidate, Associate Professor,

Yatsushiro Rika, RN, PhD Candidate

### 1. 教育活動の現状と課題

#### Language used for the classroom activities:

Texts, presentations and Q and A are carried out in English.

To promote the understandings, texts including the lists of references with exercise questions are distributed at least one week ahead of actual presentations, followed by tests on the previous texts one week after each presentation.

English proficiency of the students are to be promoted.

### **Autonomy of the study;**

For the Seminar, detailed-orientation programs; on the themes of self-studies, references, method of presentations, and locus of group-studies were planned and presented by the faculty at the beginning of the Quarter. Grouping of students for self-studies and choice of the themes are assigned to the students, for the autonomy of the class-leader.

Students are reluctant and passive in participation in the classroom activities, even in question and answer are limited to the ones assigned by the faculty. Active and autonomous participation by the students are to be promoted.

### **Evaluation of the courses by the students;**

Students were provided with the opportunities to evaluate the course. Evaluation for the level of achievement of the aims and objectives of the course, contents of the course, time allotment and teaching methodology etc. were planned by the faculty and carried out by the students.

Junior students, though very small percentage, demanded that the faculty to be proficient in Japanese and present the contents with Japanese explanations. This notion is to be taken for serious consideration.

## **2. 科目の教育活動**

### **1) International Nursing I, Introduction 2年次 後期 (03/10/06~11/17) 1単位**

担当: Kim Soon Ja, RN, PhD, Yatsushiro Rika, RN, PhD Candidate

#### **Objectives and contents;**

- (1) to develop an understanding of the concept of, and, to define international health and international nursing.
- (2) to describe the background, course and trends of international cooperation in, and globalization of, health care.
- (3) to understand the context, scope, principles and approaches of international nursing.
- (4) to develop an understanding of the perspectives of international health issues and strategies.
- (5) to develop an understanding of the international nursing and health networks.

#### **Contents ;**

- (1) Orientation to the course, International Health Quiz (Basch)
- (2) International health and international nursing
- (3) Context/scope of, principles/approaches to international nursing
- (4) International cooperation and Globalization in health
- (5) Global health issues, challenges and strategies
- (6) International nursing networks; brief overview
- (7) Wrap-up

### **2) International Nursing II, Comparison 3年次 後期(1/12~2/23) 1単位**

担当: Kim Soon Ja, RN, PhD, Yatsushiro Rika, RN, PhD Candidate

#### **Objectives:**

- (1) to develop an understanding of the concept, context, scope and approaches of international health and international nursing.
- (2) to develop an understanding of the need for human resources development for global health and nursing.
- (3) to develop an understanding of the role of the international health, nursing and relief networks and the impact of international aids during war and disaster.

### **Contents ;**

- (1) Orientation to the course, International Health Quiz
- (2) International health and international nursing, Concepts, context, scope and approaches of international health and international nursing
- (3) Globalization of health and of nursing, global health, nursing and relief networks ; WHO, ICN, ICRC, JICA
- (4) Global health issues, challenges and strategies
- (5) Human resources; planning and development for global health and nursing care
- (6) International Forum (May 10, 2003) attendance reports
- (7) International Forum (May 10, 2003) attendance reports
- (8) Wrap-up

### **Evaluation;**

Written test on course content, one week after the presentation by the faculty planned.

Reports of International Forum attendance

### **3) International Nursing Seminar 3年次 後期 (1/13~2/24) 1単位**

担当 : Kim Soon Ja, RN, PhD, Yatsushiro Rika, RN, PhD Candidate

#### **Objectives of the Course:**

- (1) to develop an understanding of the concept, context, scope and approaches of international health/nursing in the diverse eco-geological, socio-economic, cultural and political context.
- (2) to develop understanding of the system of, and the need for planning and development of the human resources for global health.
- (3) to develop an understanding of the role of the international health, nursing and relief networking and the impact of international aids during war and disaster.

#### **Activities:**

##### **Group works / studies and presentations ;**

Carried out by students; grouped into 4-5, according to prior planned schedule.

##### **Themes for the group works / studies and presentations;**

- I. WHO Regions
- II. Health issues and strategies; Global, Regional, National
- III. Human resources for health/nursing of a nation / group of nations
- IV. Impact and context of aids of JICA

##### **Orientation to the course activities includes;**

Grouping, designation of role of each member, theme of the group studies and presentations, time allotment and place allocation, references, soft and hard aid and equipment for the study and presentation.

### **Evaluation;**

Group study; presentations in the class room and final term paper

### **3. 卒業研究**

- ・分娩期における助産師の役割に対する看護学生の意識調査～日本と韓国の比較～
- ・施設入所痴呆高齢者の排尿パターンに関する研究

## **3・5 実験**

---

### **1) 健康科学実験**

本健康科学実験では、基本的な実験演習や測定を通じて、人の身体、健康に関係した事項や人間をとりまく自然環境に関する基本的な現象を体得し理解を深めることを目的として、以下の10テーマからなる実験を行った。

1. 組織学実習 担当者：石塚 香子、高橋 敬

実験日：10/8, 10/16, 10/22, 10/23

実験内容：組織学実習は光学顕微鏡をもちいて、ネズミやヒトの様々な組織切片を観察させスケッチさせた。切片ではあるが、それがかつては生体の組織や器官の一部として、どのようになりたって、どのように機能していたかに思いや考えを促すように注意した。また顕微鏡を使用するにあたり、その基本的な成り立ちと使用法を説明し会得してもらった。とくにアナログ画像とデジタル画像の違いの理解を得るための適切な解説を新しく実習書に書き加えた。パソコンを実習室に設置し、写真入りの解剖テキストをデモンストレーションした。スケッチでは各部位の名前を調べさせた。これにより、ミクロな構造とそれに課せられた機能を実体験から修得することができた。ミクロの世界を微細に観察することにより、小さな構造の大きな機能を考える手立てとなった。尺度はマイクロメータを用いて計測させ、同じ対象でも倍率を変えることによりさらに詳細な観察ができることを体験させた。

2. 血液生化学実験 担当者：安部 眞佐子

実験内容 マウス血糖の測定、自己血糖の測定、マウスGOT,GPTの組織分布、血清 タンパク質の分離。臨床検査値がどのような意味を持つのか、病態との関連を強調した。自己血糖 測定器の使い方を本年は特に念入りに説明した。

3. 血液検査 担当者：定金 香里、市瀬 孝道

実験日：10/24, 10/31, 11/5, 11/12

実験内容：ヘマトクリット値、赤・白血球数の測定を行った。CRP検査では原理を学び、感染症の有無を調べた。塗抹標本を作製し、染色後、8種類の血球をスケッチした。これら検査の手技は、学生一人一人が行った。またデータから貧血に関する考察を行った。工夫した点：検査項目ごとに、最も簡便で精度の高い手技を選び、教員がまず実技を行った。過去の事例から学生が間違えやすい手技については特に丁寧に指導した。図、写真、見本試料を各検査でそれぞれ用意し、学生全てが手技を理解し、容易に実施できるようにした。血球のスケッチでは、各血球の見本をスケッチするのではなく、学生が標本の中から好酸球やリンパ球などを自分自身で見つけるようにしている。そのため、血球の特徴を詳しくわかりやすく説明している。改善点：昨年度までは、学生のデータ及び模擬データから貧血の判定をしていたが、検査と病態がどのように関わっているかをより深く理解してもらうために、検査値に関する設問（正誤とその理由を問う）を3題加えた。

4. 基礎微生物学実習 担当者：吉田 成一

実験日：10/9, 10/10, 10/16, 10/17, 10/29, 10/30, 11/26, 11/28

実験内容：環境中に細菌が存在することを確認させる目的でヒトの表皮、日用品に常在する細菌を培養し、観察した。さらに手洗いによる指先に付着している細菌数の変化を測定した。また、温度によって細菌の増殖に差があることを視覚的に認識した。細菌が抗生物質により発育が阻止されることを認識させる目的で薬剤感受性試験を行った。各種病原微生物の抗生物質に対する感受性を測定し、臨床使用時での使い分けについて考察した。

5. ラットの解剖 担当者：市瀬 孝道、吉田 成一、定金 香里

実験日：10/3, 10/8, 10/10, 10/17

実験内容：ヒトの構造を知る一手段としてラットの解剖を行った。ラットを開胸、開腹後、系統立てて臓器・器官を観察し、臓器の相対的位置や相互の関連性について理解させた。また、各臓器を摘出して、色、大きさ、重さ等を測定、スケッチすると共に生きた臓器を実際に触れてその形状や感触を理解させた。本年度の改善点としては、これまで学生にさせていた麻酔を教員が行い学生の観察時間をできるだけ長くした。工夫した点としては脈管系の図を白版に詳しく描き、実物と比較理解させた。

6. 放射線 担当者：甲斐 倫明、伴 信彦

実施日：10/22, 10/23, 10/29, 10/30

実験内容：実験内容：バックグラウンド放射線の測定を通して、身近な放射線源の存在とそれによる被ばく線量について学んだ。その上で、移動型X線装置使用時の装置周辺の線量率測定を行い、医療現場での放射線防護のあり方

について考察した。今年度は記録用紙を全面的に見直し、学生が個々の測定値の意味について理解を深められるよう配慮した。

#### 7. 水質汚染と室内空気汚染 担当：甲斐 倫明

実施日：10/24, 10/29, 10/30, 10/31

実験内容：水道水中の残留塩素濃度、河川水（大分川）および生活排水のCODを測定することで水の環境汚染について理解することを目的とした。室内汚染としては、HCHOの測定を通して発生源の理解とシックハウス症候群などの身近な環境問題との関連がわかるように実験の中で解説するような工夫をした。

#### 8. 染色体異常 担当者：伴 信彦

実験日：11/14, 11/26, 11/28, 12/3

実験内容：放射線によって誘発した染色体異常の標本を顕鏡し、染色体の構造的異常について学んだ。また、ダウン症の核型分析と慢性骨髄性白血病細胞の標本写真の観察を通して、疾病と染色体異常の関係について考察した。遺伝子変異や染色体異常が原因となっている疾患について広く学ぶ機会となるよう、今年度はレポートの考察課題に工夫を加えた。

#### 9. 最大下負荷での呼吸循環器系持久力の測定 担当者：稲垣 敦

実験日：10/30, 11/7, 11/14, 11/21

実験内容：自転車エルゴメータを用いた最大下運動負荷時に心拍数と運動負荷を測定して、最大酸素摂取量およびPWC170を推定し、呼吸循環器系持久力を評価した。実習ではペアを組み、被験者と検者の両方を経験できるようにした。また、テキストに加えて、レポートを一人でも作成できるように説明を加えたレポート用紙を準備した。運動の実施にあたっては、学生の現病歴や既往歴など健康状態を配慮した。

#### 10. 筋電図による神経・筋活動評価 担当：吉武 康栄

実験日：10/15, 10/22, 11/12, 12/19

実験内容：筋電図の発生機序・意義を学習した。その後、最大下負荷運動中に主動筋である大腿4頭筋から実際に筋電図を測定した後に、神経筋疲労閾値を筋の電氣的活動動態から評価した。さらに将来の卒論執筆を念頭に入れ、提出レポートは科学的（論理的）に書く様に例を示しながら指導した。

## 2) 総合人間学

### 4年次 後期(10/1~12/15) 2単位 担当：粟屋 典子(学部長)

さまざまな分野で活躍され、かつ造詣の深い講師のものの見方や考え方を通して、人間として、また医療者として備えておくべき豊かな知識と感性を養うことをねらいとしている。

なお、本科目は公開講義とし、県内に広く情報を出して参加を促している。

本年度の講師とテーマは以下の通りである。

和田 秀隆	(前大分保健所 所長): 瀧 廉太郎によせて ・ 医療の歴史の一頁をひもとくー
福永 哲夫	(早稲田大学 教授): 21世紀の生活フィットネス ・ 「貯筋」のすすめー
長谷川 真理子	(早稲田大学 教授): 生物進化論 女の一生
小野 幸利	(高崎山共和国 副所長): 猿からみた人
鈴木 友和	(近畿中央病院 院長): 遺伝カウンセリング
池邊 頼子	(大分県看護協会 会長): 看護学生に期待する
坂本 和一	(立命館アジア太平洋大学 学長): 日本の文化的伝統と日本の産業
坪山 明寛	(大分県立三重病院 院長): 医療における感性とその役割

## 3) 総合実習(第5段階)

### 4年次 前期後半(06/23/03~07/04/03) 2単位 担当：粟屋 典子(学部長)

本科目は実習教育の最終段階に位置づけられており、学生の自律性と総合的な判断力を育成することをねらいと

している。学生は第4段階までの実習体験から各自の到達度を踏まえて課題を明らかにし、自らが希望する実習施設と領域を選択する。各施設（部署）には原則として学生1名の配置とし、自ら実習目標・計画を立て、主体的に実習を展開する。看護系教員全員が学生を分担し、実習目標・計画立案の過程で個別的に指導・助言をした。実習は大分県内の39施設で行った。

### 3・6 大学院の教育活動

---

#### 1) 看護アセスメント特論 前期(8/3~8/7) 2単位

担当：内布敦子 藤内美保

集中講義で5日間、夜間を中心に行った。前半は看護アセスメント特論の講義をして、看護ヘルスアセスメント、看護と判断、症状マネージメントなどを取り入れている。またフィジカルイグザミネーションを実習室での実施や、看護ヘルスアセスメントを戦略とするモデル開発に関するグループワークを実施した。今後も院生の能力を発揮できる授業方法を工夫していきたい。

#### 2) 看護管理学特論 1年次 前期(6/17~9/30) 2単位

担当：粟屋 典子、平野 互

看護に関連した法制度、施設における看護管理の基本的理論、看護業務の安全管理、看護職の専門性と倫理責任、看護に関連した諸問題の解決に必要な基本的事項などについて教授した。

#### 3) 精神保健学特論 前期(4/11~9/26) 2単位

担当：河島美枝子、影山隆之

時間の半ばは産業精神保健学について系統的に講じたが、受講者は昼間それぞれのフィールドで実務に就いていたので、残りの時間には受講者の要望や背景に応じてオムニバス方式で現代精神保健学のトピックスについて講じた(メンタルヘルス研究の方法論、メンタルヘルスを理解するための諸モデル、自殺、睡眠、災害メンタルヘルス、精神看護の歴史)、最近の社会システムや法制の動向、典型的な研究論文などを紹介して、この分野についてできるだけ広くupdateな視野・理解を養うことを目標とした。受講者のニーズは毎年変わることが予想されるので、次年度にも柔軟な構成で特論を進める予定である。

#### 4) 成人・老人看護学特論 前期後半(6/16~9/30) 2単位

担当：内田 雅子

看護理論および研究の基礎として、科学哲学、ニューサイエンス、看護の科学とアート、研究のサブストラクション、研究の信頼性と妥当性について教授した。また成人・老人を対象とした看護実践および研究の枠組みとして有用な現象学、シンボリック相互作用論、ストレス・コーピング理論、危機理論、発達理論についてもふれた。

#### 5) 生殖看護学特論

開講せず。

#### 6) 地域看護学特論

開講せず。

#### 7) International Nursing, Advanced (国際看護学特論) 後期(03/12/12~04/02/26) 2単位

担当：Kim Soon Ja, RN, PhD, Sakurai Reiko, RN, PhD Candidate,  
Yatsushiro Rika, RN, PhD Candidate

##### Objectives;

- (1) to describe the issues and the strategies of health and nursing of nations/group of nations.



- (2) to describe the system of the human resources for health and nursing practice.
- (3) to describe the role of international nursing and health networks in the development of national and/or regional health and nursing care practice.
- (4) to develop an understanding of the impact and the context of aids of Japanese International Cooperation Agency in the developing countries.

**Scheduled Activities:**

- (1) Orientation to the course, International Health and International Nursing  
International Cooperation and globalization in Health
- (2) International Net-works in Health (WHO), in Nursing (ICN):Eco-geological issues; video; Changing Climate, Desertification, A threat to peace
- (3) Student presentation and Q & A on materials pre-distributed; Issues and Strategies of International Health, Socio-cultural issues of Health; Poverty and Health
- (4) Health issues/strategies; a group of people, a nation, group of nations; self study
- (5) Presentations: Theme I
- (6) Human Resources in Nursing; trends and issues
- (7) Issues of Nursing Education in Central Asia, Culture and Health
- (8) Impact & context of aids of Relief Organizations , International Health and Nursing Research
- (9) Health & Nursing Work-force of a nation/group of nations; self-study
- (10) Health & Nursing Work-force of a nation/group of nations; self-study
- (11) Presentation: Theme II
- (12) Wrap-up

Themes for the Self-studies and Presentations;

Theme I: Strategic Plan; a specific health issue, or an overall plan for a nation / group of nations

Theme II: Health/nursing Workforce; issues and strategies of a group, a nation/group of nations

**Evaluation:**

Classroom presentations and participation in the discussion.

Term paper submitted by each student; deadline of paper submission.

8) 放射線保健学特論 前期前半( ) 2単位

担当：草間朋子、甲斐倫明、伴 信彦

放射線保健学に係わるトピックスを中心に講義を行ったが、随時、基本的な事項を補足して理解を深めるように配慮した。内容は次の通りである。(1)放射線の物理と利用、(2)放射線の健康影響、(3)放射線従事者の健康診断、(4)労災補償、(5)妊娠と放射線、(6)緊急医療と防災、(7)医療放射線のリスクベネフィット

9) 生体機能学特論 前期後半(6/1~9/30)、後期前半(10/1~11/28) 2単位

担当：高橋 敬

1) 修士2年度の院生の研究に関しては研究過程の検討と発表に関する検討と指導を行った。

2) 修士1年度の院生の研究に関する基礎実験の指導を行った。実験方法、技術、解析結果の解釈など。得に実験系では絶対時間が不足するので、いかに短い時間に集中して効果をあげるかがとてもむづかしい課題である。土日や夏休みなどの活用が望まれる。

3) 修士コースの院生には生体構造機能の講義と実習をおこなった。講義は生体構造機能において、内部環境を維持するうえでも重要な場を提供するシート(上皮、内皮、中胚葉性)を中心に詳細に解説した。実験はDNAの抽出とPCRによる増幅を体験してもらった。

10) 病態機能学特論 前期(6/19~9/25) 2単位

担当：市瀬孝道、吉田成一

本年度は生体の防御機構について、特に免疫システムやアレルギーのメカニズムについて詳しく講義した。また、看護研究の中の実験的研究の進め方について講義し、生体反応学研究室で行われている研究成果を紹介し、研究を行う意義について理解させた。今後は、座学だけではなく実際に実験、観察等を取り入れて病態や様々な事象を理解させるような方法も講義の中に取り入れていきたい。

11) 健康増進科学特論 前期後半(10/7~2/10) 1単位

担当: 稲垣 敦

健康増進科学を進める上で基本的な指標の解説と測定実習をおこない、レポートを作成した。来年度は健康行動理論を中心とした心理学的な健康増進理論の内容を充実させたい。

12) 人間関係学特論 前期前半(夜間) 前期後半(昼間)(4/15~9/25)

担当: 齊藤 高雅、関根 剛

患者理解のための精神・身体症状の心理アセスメント法、及び効果的な心理的援助方法を教授した。また、看護実践の場において身体的、精神的な問題を持つ人々に対する臨床心理学的査定、援助に関する邦文、英文の文献講読を行った。また、修士論文テーマに関連する邦文、英文の文献講読を行った

13) 保健情報学特論(選択) 前期前半(夜間)(4/18~6/13) 2単位

担当: 佐伯 圭一郎

次のようなテーマについて、文献の輪読およびディスカッション、演習をセットにして実施し、看護実践に必要とされる高度な情報処理、情報管理の知識と技能を教授した。テーマは、サンプルサイズ設計、尺度(Scale)の作成と検討、メタアナリシス、多変量解析(因子分析、パス解析など) 統計ソフトウェア、コンピュータの管理・運用(ハード、ソフト、ネットワーク)などである。

今年度は受講者が3名と少数ではあるが、それぞれの研究面での専門性に、必ずしも十分に対応できたとはいえず、大学院教育における必須の教育内容と個別性に応じたさらに高度な内容をどのように組み合わせて講義を進行させるかが課題である。

2年次

1) 発達看護演習

修士研究テーマについて文献見当、原著購読を行った。

2) 広域看護学演習

修士研究テーマについて文献見当、原著購読を行った。

2. 特別研究

1) 赤星琴美

- ・携帯電話を利用した「子育て支援携帯ネット」の作成と運用  
主指導教員 草間 朋子、副指導教員 甲斐 倫明、桜井 礼子

2) 梅野貴恵

- ・更年期女性のSMI得点と心理社会的要因との関連  
生きがい感、夫婦関係、HLOCに着目して  
主指導教員 宮崎 文子、副指導教員 河島 美枝子、関根 剛

3) 甲斐仁美

- ・国際協力の経験をもつ看護職者の調査結果に基づく看護教育の考察  
主指導教員 草間朋子、副指導教員 影山隆之、佐伯圭一郎

4) 田淵 康子

- ・子宮内膜症患者に関わる看護の現状と課題  
・子宮内膜症患者に関わる看護職の意識調査から  
主指導教員 宮崎 文子、副指導教員 市瀬 孝道、内田 雅子

5) 實崎美奈

- ・拳児希望女性における不妊治療専門医受診前の心理  
主指導員 宮崎 文子、副指導員 高橋 敬、林 猪都子

6) 小野 治子

- ・乳癌の腫瘍成長の数理モデルを用いたスクリーニングマンモグラフィの余命延長効果の評価  
主指導教員 草間 朋子、副指導教員 甲斐 倫明、伴 信彦

## 3・7 ボランティア活動

---

### 3-7 ボランティア活動

#### 1. 日本ALS協会大分県支部ボランティア

神経難病研究会：顧問 伊東 朋子

伊東が顧問をしています神経難病研究会では、主として日本ALS協会大分県支部の方のボランティアをおこなっています。

平成15年に行った日程と内容は

平成15年5月25日（日）に日本ALS協会大分県支部総会のお手伝い

平成15年11月9日（日）の若葉祭で日本ALS協会大分県支部メンバー作成の物品販売

平成15年11月にトキ八本店前にて街頭キャンペーン（びら配布）と募金活動

#### 2. 「こどもの健康週間」、「糖尿病サマーキャンプ」

報告者：小児看護学 高野 政子

平成15年10月13日（体育の日）高尾山公園で

大分県小児保健協会主催の「こどもの健康週間」には、1年生3名、2年生3名、3年生6名が参加しました。

（写真参照）

小児糖尿病の子どもたちを対象とした「糖尿病サマーキャンプ」には、1年生2名、2年生2名が参加し、大分大学、別府女子短期大学の他大学の学生と協力して企画運営に活躍しました。



#### 3. 自閉症児療育キャンプ

参加者：平野 亙・小池 祥（4年）・田中里枝（4年）・穴見智絵（3年）・石川沙也（3年）・櫛山桂世（3年）・後藤有希（3年）・酒見博之（3年）・山後 綾（3年）・高木英莉（3年）・手嶋 望（3年）・中島道子（3年）・帆足裕子（3年）・室井美樹（3年）・山本梓里（2年）・吉田裕美（2年）・手嶋 彬（1年）

大分県自閉症児・者親の会が主催する年少児の療育キャンプに参加した。この療育キャンプは大分市「のつはる少年自然の家」において平成15年8月23日（土）・24日（日）の1泊2日で行われ、学生は自閉症児およびきょうだい児とペアを組み、食事介助、遊戯療法やレクリエーションに取り組みながらそれぞれの児童の持つ障害の特性を理解し、保護者が学習会に参加する時間帯には託児を行ってキャンプの運営を支えた。

## 4 学内セミナー

### 1) オープン・ハウス

この企画は、平成10年開学当初から本学の教職員の研鑽を目的として始めたものである。言語学研究室のシャーマー講師が中心となって毎週金曜日の昼時間に行っている。その時々話題をテーマにしている。大切なのは日本語を一切使用せず、英語を聴いて話し、みんなで英語のおしゃべりを楽しむことである。英語の得意、不得意に関係なく、誰でも気軽に参加できるような会になるよう心がけている。

## 5 学内プロジェクト研究

### 1) 「保健師の技術」に焦点を当てた教育内容の検討

研究者：工藤 節美（代表者）、桜井 礼子、八代 利香、宇都宮 仁美、高波 利恵、時松 紀子、大村 由紀美、木村 厚子

平成14年「看護学教育の在り方に関する検討会」において、「大学における看護実践能力の育成に向けて」の報告があり、看護学教育のコアである技術学習についての検討がなされた。しかし、この報告では看護師教育に重点がおかれ、保健師教育については十分な検討がなされていない現状である。

そこで、平成14年度に引き続き、今年度は行政保健師が大学教育に期待する基礎技術および地域看護学実習終了後の学生の基礎技術の習得状況を明らかにするために、行政保健師および本学の学生を対象とした自記式質問紙調査を実施した。

その結果、行政保健師に実施した調査からは、コミュニケーション、観察、コーディネーション、プレゼンテーションが行政保健師の基礎技術としての主軸を成していること、保健所保健師と市町村保健師では基礎技術の捉え方に違いがあり、保健師の日々の技術活用の目的や頻度が基礎技術としての位置づけに反映していることが示唆された。一方、学生を対象とした調査結果については現在分析中であり、地域看護学実習で経験可能な技術内容と習得度をふまえ、学内での講義・演習の見直しと地域看護学実習の方法および実習後の評価について検討を行っていく予定である。

今後は、これらの結果をふまえ、看護師の基本技術との教育内容の連動や行政保健師の活動実態や技術教育に対する意見を考慮し、大学教育における技術教育のあり方について検討する。

### 2) 高速ネットワークを利用した住民の健康増進サポートシステムの構築

研究者：伊東 朋子(代表)、甲斐 倫明、桜井 礼子、工藤 節美、宇都宮 仁美、稲垣 敦、関根 剛、玉井 保子、品川 佳満、藤内 美保、神田 貴絵、安部 恭子

画像などの大量の情報を送ることのできる大分県の高速ネットワークである豊の国ハイパーネットワーク（豊の国ネット）を利用し、野津原町を主な対象として、地域社会の健康づくりに貢献できる情報について検討してきた。研究を進める中で対象の利便性を考え、豊の国ネットだけではなく、さらに広く情報を発信することを目指し、健康体操および子どもの救急処置に関する映像を作成し、インターネット上で配信することを目的とした。研究方法としては野津原プロジェクトで実施されている高齢者の体力増進のための健康体操シナリオを作成し、ビデオ画像として撮影した。子どもを対象とした救急処置についてのシナリオを作成し、シナリオのHTML化とビデオ映像の撮影を行った。シナリオ数の増加とこれらの配信映像が、豊の国ネットのVLAN4を利用する野津原町の住民だけではなく、広くインターネット上で自由にアクセスできることを目指してシステムの構築をすすめた。

結果として、インターネット上で自由にアクセスできるシステムの構築は、現段階では試験運用中であり、学内からの試写では特に大きな問題はなかった。視聴者のインターネット接続スピードにより、配信にかかる時間は多少異なるが、今後ますますネットワークが高速化することでこの問題は解消されると考える。

### 3) ヒ素による発がん・転移のメカニズムの解明とその過程におけるp53の役割に関する共同研究

- ヒ素暴露マウスにおけるp53遺伝子の変動と線溶酵素関連タンパク質の応答 -

研究者：高橋 敬（代表）、市瀬 孝道、吉田 成一、定金 香里、安部 眞佐子、石塚 香子

ヒ素をマウスに投与したときの生体反応を発がんのメカニズムと関連させて評価し、ヒ素の影響をp53を目印に個体レベルで検討した。ヒ素が生体内に入るとヒドロキシラジカルが産生され、それが遺伝子DNAをアタックし8-OHdG(8-ヒドロキシデオキシグアノシン)が蓄積される。その結果DNAの高次構造の変化、点変異、欠失等が慢性ヒ素中毒や皮膚がん、肺がんの原因とされている。一方がん細胞が浸潤・転移するには細胞表面に受容体を介したウロキナーゼ・プラスミノゲン・アクチベータ(uPA)やマトリックス・メタロプロテアーゼ(MMP)が必要条件とされている。p53遺伝子が欠損するとアポトーシスが抑制されるために、発がんしやすい。欠損マウスと正常マウスを比較することによって、8-OHdG産生量やそれを代謝する酵素タンパク質のmRNA量などの変動が、いかにuPAやMMPを介したがん細胞の浸潤・転移に影響をおよぼしたアポトーシスが誘導されるのかを検討した。その結果p53は臓器によって異なる応答を認めたが、8-OHdGを代謝する酵素発現は増強された。ヒ素は肺組織に8-OHdGを蓄積し、一過性的な特徴を示した。uPAやMMPの変動は見いだされなかったが、長期暴露し発がんさせた組織をノックアウトマウスについて検討する必要がある。

#### 4) 生活習慣病予防とヘルスプロモーションのためのセルフケアの確立(野津原プロジェクト)

研究者：草間 朋子(責任者)、平野 互、稲垣 敦、桜井 礼子、八代 利香、品川 佳満、中山 晃志、吉武 康栄、高波 利恵、木村 厚子

##### 1) 平成15年度の研究について

平成15年度は、文部科学省の都市エリア産学官連携促進事業に基づいた財団法人大分県産業創造機構の大分県央エリア産学官連携促進事業(可能性試験)として270万円の研究助成を受け、株式会社エリアと連携して以下の2つの課題を中心に研究を進めた。

##### (1) 高齢者の全身持久力の測定方法の開発

老人保健法に基づく基本健康診査時に、高齢者の全身持久力を測定評価する3分間足踏み歩行を開発した。20歳前半の女性16名に自転車エルゴメータで $\dot{V}O_2AT$ を測定し、また、3種類の歩行ピッチ(120回・135回・150回/分)による10分間の定点足踏み歩行時の心拍数、血圧、酸素消費量を測定した。分析の結果、定点足踏み歩行では歩行開始1分後に心拍数の定常状態が現れること、歩行ピッチを速めても心拍数は大きく変化しないこと、定点足踏み歩行の心拍数と $\dot{V}O_2AT$ に負の相関があることがわかった。次に、平成15年度の基本健康診査の受診者で、60歳以上で同意を得られた男性130名、女性190名を対象として、3分間足踏み歩行(120回/分)を実施し、歩行前後の心拍数を測定した。その結果、実施率は97.6%であり、歩行直後の心拍数は最大心拍数の60~76%であった。以上の結果から、定点歩行時の心拍数が全身持久力の指標となりうること、高齢者には定点歩行の運動負荷が安全かつ適当であること、歩行時間は1分に短縮できる可能性があることなどが示唆された。また、呼吸循環器系に関連した疾病罹患のリスクの視点から、推定最大心拍数に対する割合、実施前後の心拍数の差および比の3種類の評価基準を作成した。たとえば、男性の場合、80%HRmax、50bpm、1.7を超える者は、呼吸循環器機能系の障害のリスクが高いと評価する。さらに本研究では、高齢者の脈拍数を簡便かつ正確に測定するため、光電脈波検出方式により指先から脈拍を測定する機器を試作した。

##### (2) 健康情報処理システムの開発

市町村で行われている基本健康診査項目に加え、体力テスト、生活習慣問診、がん検診および転倒予防教室のデータを一元管理するシステムを開発した。検診結果の集計・報告業務のためには、必要な年度、地域、性、検診項目などを検索し、集計・グラフ化する分析機能が備わっており、研究に必要となる統計学的分析も組み込まれている。一方、保健指導を支援する機能としては、各検診項目を判定・評価したり、個人情報を一画面に要約したり、複数年にわたる個人データを検索して同一画面にグラフ化する機能などが備わっている。また、ファイルからのインポートやインターフェイスを利用したデータ追加機能も備わっている。このシステムはモバイル用パソコンにインストールされているので、公民館や家庭を訪問して行なわれる保健指導や住民を対象とした健康教室などに携帯して活用できる。本年度は、これまで蓄積してきたデータ(5年間の基本健診、がん検診、体力テスト、生活習慣問診および3年間の転倒予防教室)

を本システムに入力してデータベースを構築し、各種機能を確認した。

## 2) 平成16年度の計画の概要

高齢者の全身持久力の測定方法については、歩行時間の短縮を検討し、脈拍機器をより小型化し、日常の健康づくりに利用するための機能を加えてゆく予定である。健康情報処理システムは平成16年度の検診や転倒予防教室で利用し、保健師の意見を十分に取り入れて改善してゆく予定である。



## 6 奨励研究

### 1) 線維芽細胞でのアタキシン1転写量の変動要因について

研究者：安部 眞佐子

アタキシン1は脊髄小脳変性症I型の原因遺伝子として見出された。しかし、本来の役割は不明である。タンパク質のホモロジー検索では、酵母のglucose repressor gene(SSN6)に近いとされ、SSN6はグルコースまたはシュクロース除去、浸透圧変化、炭素源変換、酸化ストレスなどによって転写が調節されることが知られている。3T3線維芽細胞を材料として、培地中の血清を抜いて細胞周期を同調させ、アタキシン1とapexの転写量の推移を見た。その結果、apexは細胞分裂開始後、時間の経過とともに転写量が増大するが、アタキシン1の転写量は細胞周期によって変動していなかった。過酸化水素を培養液に加えると、アタキシン1とapexは異なった変動をすることがわかった。また、ピルビン酸除去によりリポタンパク質リパーゼ(LPL)が誘導され、ほぼ平行してアタキシン1の転写量も増大してきた。今後はアタキシン1は何をシグナルとして転写量を変動させるのか検討したい。

### 2) 糖尿病性腎症発症における線溶系異常の関与

研究者：石塚 香子

糖尿病性腎症は透析導入原疾患の第1位を占めており、予後不良である。そのため糖尿病性腎症の発症・進展機序を明らかにし、進行を阻止することは極めて重要な課題である。これまで糖尿病性腎症は高血糖環境において生じる糸球体障害を中心に研究が行われており、尿細管を対象とした研究は少ない。また高血糖環境で加速されるグリケーションによって生じた糖化タンパク質が糸球体機能障害をもたらす因子の1つであることが報告されている。そこで本研究では線溶系酵素のPAI-1ならびにuPAに着目しグリケーション産物AGEsの近位尿細管細胞に与える影響を検討し、糖尿病性腎症の発症、進展との関連について検討を行った。その結果、AGEsによる酸化ストレス亢進を介したPAI-1産生亢進とuPA活性の低下が見られた。これらの結果より、AGEsによって近位尿細管細胞での線溶系酵素の不均衡が生じ、この細胞機能異常が腎症発症に関与している可能性が示唆された。

### 3) 放射線照射マウスの造血前駆細胞における白血病特異的染色体異常の出現頻度の解析

研究者：伴 信彦

C3H/Heマウスに放射線を照射すると急性骨髄性白血病(AML)を発症し、白血病化した細胞には2番染色体の中間部に特徴的な欠失が観察される。1年以上の潜伏期間の中で、この欠失を持つ細胞がどの時点で出現し、どのように増殖していくのかを知るために、未熟な造血細胞中の染色体異常を以下の方法により調べた。X線を照射したマウスを一定期間飼育後に屠殺して大腿骨より骨髄を摘出し、メチルセルロース培地中でコロニーを形成させて、分染法で染色体異常を観察した。同時に、骨髄細胞の一部を取り分け、未分化な造血細胞を分離して、AML型欠失の出現頻度をFISH法で調べた。これまでのところ、コロニー形成細胞においてゲノムの不安定化による遅延型の染色体異常の誘発が示唆される一方、FISHによる観察では、細胞の分化段階にかかわらず照射後早期にAML型の欠失が生じていることが確認された。動物の飼育を現在も継続中であり、照射後300日までの標本を観察し、データとしてまとめる予定である。

#### 4) 幼児健診における気管支喘息等の有病率と生活環境要因に関する検討

研究者：高野 政子（代表） 目原 陽子、佐伯 圭一郎 学外共同研究者：是松 聖悟（大分大学）

喘息児は増加し続けている。喘息の発病には、特に乳幼児期は生活環境の影響が大きい。今回、幼児の気管支喘息等の有症率と生活環境の関係を明らかにし、保健指導の必要性を検討することを目的として1. 6才児、3才児健診時に母親969名を対象にした調査を行った。質問項目は、ATS-DLD日本版・改訂版を修正した20項目と児のアレルギー家族歴、栄養法、住環境などについて12項目、属性5項目の自記式質問紙を用いた。その結果、0市の気管支喘息の有病率は1. 6才児群：8. 4% (95%信頼区間5. 9~10. 8%)、3才児群：13. 7% (10. 4~17. 1%)であった。喘息・喘鳴群は、2親等内に家族歴があり、他のアレルギー疾患も合併していた。家族内喫煙と喘息・喘鳴群は有意な関係があった。家庭内環境の絨毯の使用や、ペットとは関連を認めなかった。育児環境に注意を払っているが、喫煙の影響に対する認識が低いことが明らかとなった。今後、妊婦や乳幼児をもつ親に対して禁煙を含む啓蒙活動を予定している。

#### 5) 走査型電子顕微鏡を用いた黄砂のX線元素分析及び生体内における黄砂同定の試み

研究者：定金 香里

黄砂にはアレルギー喘息を増悪する作用があること、肺毒性があることがわかっている。本研究では、黄砂の形態や構成物が生体に影響を及ぼす要因になるかを検討するために、生体に影響がみられた黄砂6種およびカオリンの形態観察とX線元素分析を行った。その結果、黄砂の形態はいずれもほぼ同じであったが、中国都市部で採取した黄砂には工場煤煙や有機体が混入していることがわかった。カオリンは、黄砂と形態が全く異なっていた。今後、カオリンは形態の異なるものを用いての比較実験、他の黄砂は付着イオンによる比較実験が必要と考えられる。

生体内での大気中浮遊粒子の動態は生体への影響を評価する上で非常に重要である。そこで組織における黄砂の探索に、X線元素分析の面分析が用いられるのではないかと考え試みた結果、ケイ素やカルシウムを気管支上皮周辺で確認した。黄砂の主構成成分ケイ素を指標にして、生体組織中の黄砂の局在を明らかにすることが可能であることが示唆された。

#### 6) 乳汁分泌と乳腺との形態学的関連

研究者：安部 恭子（代表） 吉留 厚子、学外共同研究者：島田 達生、安田 愛子（大分大学）

母乳は、乳幼児の心身の発達に応じて組成が変化し、助産師の経験的知見からも、「食事」との関連が指摘されている。しかし、人を対象とした研究では食事内容を厳密にとらえることは難しい。先行研究に、高度な肥満状態にあるラット乳腺の萎縮と児の発育不良の報告があり、乳腺の発育異常による母乳分泌への影響が考えられた。

そこで、今回の目的は実験動物を用いて、「食事（餌）」と「乳腺」の形態学的発達の関連を明らかにすることである。今年度は、実験動物（ICR-マウス）を4週齢から通常の飼育用の餌を与えたコントロール群、10%の油脂を添加した高カロリー群、20%の食物繊維を添加した低カロリー群の3群に分けて飼育する。動物は、非妊娠期・妊娠期・授乳期・離乳期の4期に分けて、乳腺を切り出す。

今後、切り出された乳腺を光学顕微鏡と、走査電子顕微鏡で観察し、食事（餌）の違いによる乳腺の形態学的変

化と母乳の分泌について検討する。

## 7) 独居高齢者の見守りのための日常生活行動分類アルゴリズムの開発

### 赤外線センサによる位置情報をもとに

研究者：品川 佳満

独居高齢者の見守り用として、宅内に設置された赤外線センサから得られたデータをもとに、日常生活の行動状況を分析し、普段とは異なる状態（非平常）を検知する手法を開発することを目的とした。本年度の研究では、高齢者の日常生活の行動パターンの類似性に着目し、その行動パターンを分類することで非平常を検出する手法について検討した。赤外線センサの反応データを、1日単位に一定時間毎に全センサの応答回数を求めたセンサ応答分布として表し、その分布同士の類似度を、時間的な変動に対応できる動的計画法によるマッチング法（DPM）により求めた。算出した類似度をもとにクラスタ分析を行った結果、DPMを用いた分類では、ユークリッド距離による分類と比較して、外出や来客などがあった日を明確に分類することができた。つまり、DPMにより、行動パターンの時間的変化や時間によるずれに対する柔軟な分類が可能となり、普段の行動と異なるセンサ応答分布を明確に分類することができたと考えられる。今後は、分類のためのデータ数、非平常判定のための分類数などについて検討する予定である。

## 8) 電気刺激誘発の筋収縮における刺激パターンと張力および筋腱複合体の関係

研究者：吉武 康栄

本研究は、電気刺激による筋収縮中における筋腱複合体の振る舞いを超音波法を用いて観察し、tension hysteresisの生理学的要因について明らかにすることを目的とした。等尺性の足関節底屈を課題動作とし、脛骨神経刺激により下腿三頭筋を収縮させた。刺激は1Hzごとに1Hzから20Hzまで増加（増加局面）引き続き20Hzから1Hzまで（1Hzごとに）減少する（減少局面）ランプ状の刺激を行った。測定中において、筋電図および発揮されたトルクはA/D変換器を用いパーソナルコンピュータに取り込んだ。また、超音波診断装置を用いて腓腹筋内側頭の縦断画像を連続的に撮影した。得られた画像から、筋束と深部腱膜の交点の移動距離を腱組織の伸張量として計測した。結果より、増加局面では腱が伸張されることで弾性エネルギーが蓄えられ、筋収縮力の増大（hysteresis）を引き起こしている可能性が高いことが示唆された。また、筋長・張力関係を考慮した場合、増加局面に短縮した筋は減少局面において効率良く張力を発揮できる長さに位置し、そのことがhysteresisに貢献していることも推測される。

## 7 インターネットジャーナル「大分看護科学研究」

平成11年12月に創刊後、投稿原稿の募集、査読依頼、編集作業などを継続し、平成15年4月に第4巻第1号、平成15年5月に第4巻第2号、平成16年2月に第5巻第1号を刊行した。ジャーナルは本学ホームページ (<http://www.oita-nhs.ac.jp/journal>) に公開されており、ダウンロードすることができる。

### 第4巻1号 目次

#### 原著

公立病院における女性看護職の職業性ストレスと精神健康度との関連  
影山 隆之、錦戸 典子、小林 敏生、大賀 淳子、河島 美枝子

#### トピックス

大分県立看護科学大学 平成14年度公開講座

21世紀の看護 EBNに向けた看護研究とは？

稲垣 敦

EBN (Evidence-Based Nursings) を考える

草間 朋子

看護研究のデザイン

佐伯 圭一郎

ちょっと待て！社会心理的アプローチ

・看護研究での心理社会行動的変数の扱い方・

影山 隆之

生体信号処理のレシピ

吉武 康栄

看護研究の実例・慣習的な乳房清拭および哺乳瓶消毒を再考する・

吉留 厚子

看護研究の実例・質問紙調査の概念枠組みに焦点をあてて・

内田 雅子

### 第4巻2号 目次

#### 原著

Nursing education in China in transition Yeo-Shin Hong, Rika Yatsushiro

#### 短報

多様性をめざした精神看護学実習・訪問看護実習の意義・

大賀 淳子

#### トピックス

大分県立看護科学大学 第4回看護国際フォーラム

看護研究の方法としての質的研究：グラウンデッド・セオリー

桜井 礼子

### 第5巻1号 目次

#### 資料

エタノール湿潤度と塗擦方法の違いによる消毒効果

伊東 朋子、中山 晃志、吉留 厚子、藤内 美保、東 佳代

#### トピックス

大分県立看護科学大学・第5回看護国際フォーラム

・21世紀の看護と看護職のあり方・

安部 恭子

カザフスタン共和国セミパラチンスク地域における保健医療の現状と

国際協力の課題・JICA によるプロジェクトに短期参加して・

神田 貴絵、甲斐 仁美、草間 朋子

## 8 業績

### 8-1 著書

大澤 清二、稲垣 敦、他：学校保健・健康教育用語辞典，大修館書店，東京，2004.

石塚（岩崎） 香子、深川 雅史：新しい透析骨症，日本メディカルセンター，東京，2003.

秋元 美世、大島 徹、芝野 松次郎、藤村 正之、森本 佳樹、山縣 文治、影山 隆之、他：現代社会福祉辞典，有斐閣，東京，2003.

影山 隆之：疫学からみた日本の自殺、1-8、樋口輝彦編：自殺企図 その病理と予防・管理，永井書店，大阪，2003.

木下 由美子、江藤 真紀、遠藤 信子、沖 壽子、奥山 典子、川崎 道子、工藤 節美、他：在宅看護論 第4版，医歯薬出版株式会社，東京，2004.

石川紀子、遠藤俊子、柿沼由美子、葛西圭子、斉藤益子、佐山静江、宮崎 文子、山崎圭子、渡部尚子：医療機関における助産ケアの質評価・自己点検のための評価基準，日本看護協会助産師職能委員会，東京都，2003.

五條堀 孝：ゲノムからみた生物の多様性と進化（凝固・線溶系のドメイン進化：高橋敬），シュプリンガー・フェアラーク，東京，2003.

高橋 芳右：DIC 病態解明と治療の最前線（細胞外マトリックスと細胞性線溶機構：高橋敬），鳥居薬品，東京，2004.

机 直美，吉田 成一，武田 健「科学と教育」ディーゼル排ガスは生殖器系に影響を及ぼす?! 日本化学会 51 卷 11 号 p666-667 2003

吉田 成一，机 直美，武田 健「科学」自動車排ガスの毒性、岩波書店 vol.74 NO.1 p72-73 2003

### 8-2 翻訳

特定非営利活動法人患者の権利オンブズマン編（訳者：井上 悦子、平野 互、古川 孝明）：オンブズマンの募集と定着のための模範実践，リーガルブックス，福岡，2003.

### 8-3 研究論文

杉山 みち子、若木 陽子、中本 典子、小山 和作、三橋 扶佐子、安部 眞佐子、合田 敏尚、細谷 憲政：ごはん食と Glycemic Index に関する研究，日本健康・栄養システム学会誌，3(1),1-16, 2003.

Inoue R, Isono M, Abe M, Abe T, Kobayashi H.: A genotype of the polymorphic DNA repair gene MGMT is associated with de novo glioblastoma., Neurol Res., 25(8),875-9, 2003.

後藤由美、吉留厚子：会陰切開についての女性の考えや選択について，熊本県母性衛生学会雑誌，6、35-40, 2003.

後藤 由美、吉留 厚子、宮崎 文子: 経膈分娩にいける会陰切開・剃毛・浣腸の現状, 日本母性看護学会誌, 3(1), 57-62, 2003.

市瀬 孝道、甲斐 倫明、高橋 敬、安部 真佐子、稲垣 敦、草間 朋子: 看護教育における基礎科学実験のあり方: 健康科学実験の実施を通して考える, 看護教育, 44(5), 396-401, 2003.

稲垣 敦、甲斐 倫明、市瀬 孝道、栗屋 典子、宮崎 文子、草間 朋子: 看護学の基礎教育における卒業研究: そのあり方・やり方, 看護教育, 44(11), 1002-1006, 2003.

Iwasaki(Ishizuka) Y, Yamato H, Murayama H, Sato M, Takahashi T, Ezawa I, Kurokawa K, Fukagawa M: Combination use of vitamin K(2) further increases bone volume and ameliorates extremely low turnover bone induced by bisphosphonate therapy in tail-suspension rats., J Bone Miner Metab, 21(3), 154-160, 2003.

Iwasaki-Ishizuka Y, Yamato H, Murayama H, Abe M, Takahashi K, Kurokawa K, Fukagawa M, Ezawa I: Menatetrenone ameliorates reduction in bone mineral density and bone strength in sciatic neurectomized rats., J Nutr Sci Vitaminol, 49(4), 256-261, 2003.

Ishizuka Y, Takahashi K: Proteolytic properties of tumor cell colonies growing actively in type-1 collagen gel matrix., Bioimages, 11, 75-83, 2003.

Ishizuka Y, Takahashi K, Arai M.: Image analysis of composite fibrin networks of normal and abnormal fibrin from X-ray irradiated fibrinogen and their decomposition by fibrinolytic enzymes., Bioimages, 11, 87-95, 2003.

伊東 朋子、中山 晃志、吉留 厚子、藤内 美保、東 佳代: エタノール湿潤度と塗擦方法の違いによる消毒効果, 大分看護科学研究, 5(1), 1-7, 2004.

Kageyama, T., Nishikido, N., Kobayashi, T, Oga, J, Kawashima, M: Cross-sectional survey on risk factors for insomnia in Japanese female hospital nurses, J Human Ergology, 30, 149-154, 2001.

影山 隆之、錦戸 典子、小林 敏生、大賀 淳子、河島美枝子: 公立病院における女性看護職の職業性ストレスと精神健康度との関連, 大分看護科学研究, 4(1), 1-10, 2003.

影山 隆之: 最近 20 年間の日本における青少年の死生観・自殺観に関する研究, こころの健康, 18(2), 70-76, 2003.

Ono, K., Akahane, K., Aota, T., Hada, H., Takano, Y., Kai, M. and Kusama, T. : Neonatal doses from X ray examinations by birth weight in a neonatal intensive care unit , Radiation Protection Dosimetry, 103(2), 155-162, 2003.

Akahane, K., Hashimoto, M., Hada, M., Takano, Y., Ono, K., Kai, M. and Kusama, T.: Radiation doses to neonates during X ray computed tomography examinations, Radiation Protection Dosimetry, 103(1), 41-45, 2003.

神田 貴絵、甲斐 仁美、草間 朋子: カザフスタン共和国セミパラチンスク共和国の保健医療の現状と国際協力の課題 JICAによるプロジェクトに短期参加して、大分看護科学研究, 5(1), 11-15, 2004.

神田 貴絵、甲斐 仁美: カザフスタン共和国セミパラチンスク地域における保健医療の現状, 国際保健支援会, 1, 17-21, 2004.

田副 真由美、木崎 美穂、真名井 一代、外池 美津子、宮川 ミカ、工藤 節美: 外来透析患者のシャント歴

からみたシャント自己管理状況, 日本看護学会論文集 33 回(成人看護 監), 257-259, 2003.

柴田郁美、望月京子、草間朋子、大川欣栄: 生殖可能年齢の女性が妊娠に気づく時期ときっかけ, 日本医事新報, , 2003.

宮崎文子: 損益分岐点分析を用いた有床助産院経営モデル, 日本助産学会誌, , 2003.

宮崎文子: 経営効率から見た有床助産院の適正助産師数の決定戦略, 助産雑誌, , 2003.

佐藤 和子、中山 晃志: 看護職の疲労を客観的に表す指標の検討, 保健の科学, 45(6),457-462, 2003.

Inoue K, Takano H, Yanagisawa R, Morita M, Ichinose T, Sadakane K, Yoshino S, Yamaki K, Kumagai Y, Uchiyama K, Yoshikawa T.: Effect of 15-deoxy-Delta 12,14-prostaglandin J2 on acute lung injury induced by lipopolysaccharide in mice., *Eur J Pharmacol*, 481(2-3), 261-269, 2003.

Yanagisawa R, Takano H, Inoue K, Ichinose T, Sadakane K, Yoshino S, Yamaki K, Kumagai Y, Uchiyama K, Yoshikawa T, Morita M.: Enhancement of acute lung injury related to bacterial endotoxin by components of diesel exhaust particles., *Thorax*, 58(7), 605-612., 2003.

Ichinose T, Takano H, Sadakane K, Yanagisawa R, Kawazato H, Sagai M, Shibamoto T.: Differences in airway-inflammation development by house dust mite and diesel exhaust inhalation among mouse strains., *Toxicol Appl Pharmacol*, 187(1), 29-37, 2003.

Takano H, Yanagisawa R, Inoue K, Shimada A, Ichinose T, Sadakane K, Yoshino S, Yamaki K, Morita M, Yoshikawa T.: Nitrogen dioxide air pollution near ambient levels is an atherogenic risk primarily in obese subjects: a brief communication., *Exp Biol Med (Maywood)*., 229(4), 361-364, 2004.

Ichinose T, Takano H, Sadakane K, Yanagisawa R, Yoshikawa T, Sagai M, Shibamoto T.: Mouse strain differences in eosinophilic airway inflammation caused by intratracheal instillation of mite allergen and diesel exhaust particles., *J Appl Toxicol*, 24(1), 69-76, 2004.

Y. Ishizuka and K. Takahashi: Proteolytic properties of tumor cell colonies growing actively in type-1 collagen, *Bioimages*, 11(2), 75-83, 2003.

Y.I-Ishizuka, H. Yamato, H. Murayama, M. Abe, K. Takahashi, K. Kurokawa, M. Fukagawa and I. Ezawa: Menatetrenone ameliorates reduction in bone mineral density and bone strength in sciatic neurectomized rats, *J. Nutr. Sce. Vitaminol.*,49, 256-261, 2003.

Y. Ishizuka and K. Takahashi: Image analysis of composite fibrin networks of normal and abnormal fibrinogen from X-ray irradiated fibrinogen and their decomposition by fibrinolytic enzymes, *Bioimages*, 11(3-4), 87-95, 2003.

高野 政子: 病院内学級に対する保護者の評価, 小児保健研究, 62(1),43-49, 2003.

五捨免 晴美、志賀 寿美代、高野 政子: 血液製剤マニュアルの利用状況とリスクの検討, 看護技術, 49(14), 63-67, 2003.

五捨免 晴美、高野 政子: 当院病棟における血液製剤マニュアルの利用の実態と課題, 大分県立病院医学雑誌, 32,115-118, 2003.

東原清美、安東小百合、村上 則子、高野 政子: 小児感染症における末梢輸液ラインの生食ロックの有効性, 第 34 回日本看護学会論文集(看護総合), p195-197, 2003.

玉井 保子: 臨地実習における基礎看護技術の教育方法の検討・臨地実習指導者が関わる時間・技術項目・方法に着目して, 第 3 4 回日本看護学会看護教育論文集, 186-188,2003.

藤内 美保、吉留 厚子、八代 利香: 大分県の高等女学校における看護教育の変遷 明治、大正期から第 2 次世界大戦終戦まで , Quality Nursing, 9(8),699-705,2003.

山内 豊明、高木 美智子、藤内 美保: 『早食い』についての認識, 医療マネジメント学会雑誌, 4(2) ,311-317, 2003.

山内豊明、近藤由布子、藤内美保: 訪問看護を利用している在宅要介護者が感じる喜び,医療マネジメント学会雑誌, 4(2),304-309, 2003.

Shinohara M, Yoshitake Y, Kouzaki M, Fukuoka H, Fukunaga T.: Strength training counteracts motor performance losses during bed rest., Journal of Applied Physiology, 95, 1485-1492, 2003.

Tsukue N, Yoshida S, Sugawara I, Takeda K: Effect of Diesel Exhaust on Development of Fetal Reproductive Function in ICR Female Mice. J Health Sci, 50(2); 174-180, 2004

Yoshida S, Takeda K: The effects of diesel exhaust on murine male reproductive function. J Health Sci, 50(3); 1-5, 2004

Takeda K, Tsukue N, Yoshida S: Endocrine Disrupting Activity of Chemicals in Diesel Exhaust and Diesel Exhaust Particles. Environ. Sci 11(1); 33-45, 2004

吉留 厚子、江月 優子、後藤 由美、富安 俊子: 成人女性の更年期についての知識や情報および更年期のとらえ方, 母性衛生, 44(2),300-306, 2003.

吉留 厚子、後藤 由美、富安 俊子: 生後 3, 4 カ月までの時期別栄養方法と母乳栄養を阻害する要因, 周産期医学, 33(8),1040-1042, 2003.

## 8・4 その他論文

---

安部 恭子: 大分県立看護科学大学・第 5 回看護国際フォーラム ・ 21 世紀の看護と看護職のあり方・ , 大分看護科学研究, 5(1),8-10, 2004.

大賀 淳子、粟屋 典子: 学生の自律性を育てる総合実習, Quality Nursing,9(3),251-256, 2003.

伴 信彦、草間 朋子: X 線透視下での医療行為に伴う医療従事者の被ばく線量の低減化に関する研究, Innervision, 18(8), 40, 2003.

平野 互: 医療・福祉と患者の権利 ・苦情解決 と自己決定, みんなのねがい, No.429,50-51 , 2003.

阿江 通良、稲垣 敦、他: 5. コツのコーディングと計量的分析の試み, 平成 14 年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告: No.III ジュニア期の効果的スポーツ指導法の確立に関する基礎研究(第 3 報), 168-173, 2003.



阿江 通良、稲垣 敦、他: 4. コツ構造の仮説モデルの統計学的検証, 平成 15 年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告: No.III ジュニア期の効果的スポーツ指導法の確立に関する基礎研究(第 4 報), 75-85, 2004.

Iwasaki(Ishizuka) Y, kakuta T, Haruguchi H, Fukuda N, Kurokawa K, Fukagawa M: Adenovirus-mediated functional gene transfer into parathyroid cells in vivo and in vitro., *Nephrol Dial Transplant.*, Suppl 3iii18-22, 2003.

Tanno Y, Yokoyama K, Nakayama M, kato A, Yamamoto H, Iwasaki(Ishizuka) Y, Cantor T, Fukagawa M, Shigematsu T, Hosoya T: IRMA(whole PTH) is a more useful assay for the effect of PTH on bone than the Allegro intact PTH assay in CAPD patients with low bone turnover marker. , *Nephrol Dial Transplant.* 2003.

Fukagawa M, Iwasaki(Ishizuka) Y, Kazama JJ: Skeletal resistance to parathyroid hormone as background abnormality in uremia., *Nephrology, Suppl2: S50-52*, 2003.

影山 隆之: 今日の中学生のストレスと指導のポイント, 教科の窓・小中学校保健/体育通信, 2003.2 月号, 2003.

影山 隆之: コミュニケーションとストレス, 東書教育情報ニューサポート中学保健体育, 15,1, 2003.

影山 隆之: ちょっと待て! 社会心理的アプローチ 看護研究での心理社会行動的変数の扱い方, 大分看護科学研究, 4(1),21-26, 2003.

影山 隆之: 平和の「ひな形」はどこに, 医学と福音, 55(5,6),19-23, 2003.

影山 隆之、大賀 淳子、河島 美枝子: 勤労者のストレスコーピング特性および婚姻状況と「自殺」への共感, 日本社会精神医学会雑誌, 12,130, 2003.

影山 隆之: 日本の青少年の死生観・自殺観に関する文献的検討, 今田寛睦編: 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「自殺と防止対策の実態に関する研究」平成 14 年度総括・分担研究報告書, , 2003.

影山 隆之、小泉 典章、大隈 紘子、山村礎: 精神障害者グループホームおよびショートステイの有効性に関する研究, 新保祐元編: 平成 15 年度精神障害者社会復帰促進調査等事業「社会復帰関連施策の有効性に関する研究」平成 15 年度総括・分担研究報告書, 83-118, 2004.

市瀬 孝道、甲斐 倫明、高橋 敬、安部 真佐子、稲垣 敦、草間 朋子: 看護教育における基礎科学実験のあり方, 看護教育, 44(5), 396-401, 2003.

稲垣 敦、甲斐 倫明、市瀬 孝道、粟屋 典子、宮崎 文子、草間 朋子: 看護学の基礎教育における卒業研究 そのあり方・やり方, 看護教育, 44(11), 1002-1006,2003.

Midori, K. Miyuki,N. Takashi,N.: Vaccination Coverage of Poliomyelitis among Less than 5-Year-Old Children in the Markets of Niger, *JAPANESE JOURNAL OF INFECTIOUS DISEASES*, 56(4),175-177, 2003.

草間朋子: 医療専門職の大学教育に求められるものー看護教育の経過から診療放射線技師の大学教育を考えるー, 東京保健科学学会誌, , 2003.

草間朋子、: 医療専門職の大学教育に求められるものー看護教育の経過から診療放射線技師の大学教育を

考える一, 東京保健科学学会誌, 16 ( 3 ) , 173-176, 2003.

草間朋子、栗屋典子、宮崎文子: 助産教育の大学院化を期待する, 助産雑誌, 57 ( 1 ) ,15-20, 2003.

Sue cox,武市洋美、宮崎文子: 新連載第 2 回 母乳育児支援成功のヒント・母乳育児を取り巻く環境の変化・, ペリネイタルケア

宮崎文子、渡部尚子、岡本喜代子、鈴井江三子、番内和枝、吉留厚子、林猪都子: 受胎調節実地指導員の活動の現状と課題・全国受胎調節実地指導等 の実態調査より・, 平成 14 年度厚生労働科学研究 ( 子ども家庭総合研究事業 ) 報告書, , 2003.

Sue cox ,武市洋美、宮崎文子: 新連載第 1 回 母乳育児支援の成功のヒント・国際認定 ラクテーション・コンサルタントとは・, ペリネイタルケア, , 2003.

Sue cox ,武市洋美、宮崎文子: 新連載第 3 回 母乳育児支援成功のヒント・母乳育児 を成功に導くためには・, ペリネイタルケア, , 2003.

Sue cox ,武市洋美、宮崎文子: 新連載第 4 回 母乳育児支援成功のヒント・母乳育児 を継続できないのはなぜ?・, ペリネイタルケア, , 2003.

Sue cox 、武市洋美、宮崎文子: 新連載第 5 回 母乳育児支援成功のヒント・みんなですすめる母乳育児・, ペリネイタルケア, , 2003.

大賀 淳子: 多様性をめざした精神看護学実習-訪問看護実習の意義-, 大分看護科学研究, , 2003.

大賀 淳子: 学生の自律性を育てる総合実習, Quality Nursing, 9(3), 67-72, 2003.

小野美喜: 大腿骨頸部骨折を起こした老人の退院に関する意思表示, 日本老年看護学会 抄録集, 50, 2003.

大井 伸子, 柴田 晴菜, 祖父江 章子, 松永 美由紀, 渡邊 智美, 光岡 美智子, 花田 幸恵, 虫明 さとみ, 江幡 芳江, 品川 佳満: 夫の子育て・家事参加に関する研究, 平成 14 年度岡山県男女共同参画調査研究事業報告書, 353-402, 2003.

市瀬 孝道, 甲斐倫明、高橋敬、安部眞佐子、稲垣敦、草間朋子: 看護教育における基礎科学実験のあり方, 看護教育, 44(5),396-401, 2003.

高野 政子、目原 陽子: 子どもの理解に焦点をあてた小児看護学実習の組み立て, ナースエデュケーション, 14(4),131-138, 2003.

藤内 美保、安部 恭子、神田 貴絵、千本 美紀、重野 文江、玉井 保子、関根 剛、伊東 朋子: 大学における看護基本技術に関する教育のあり方・看護者と在学生の実態調査から・, 看護教育, 44(9),788-793, 2003.

吉留 厚子: 看護研究の実例・慣習的 な乳房清拭および哺乳瓶消毒を再考する・, 大分看護科学研究, 4(1),33-36, 2003.

Yoshidome,A., Goto,Y., Naito,N.: Nutrition of The Infant and Mammae Wiping in Japan, PROCEEDINGS INTERNATIONAL CONFERENCE Impact Global Issues on Women and Children, 175-176, 2003.

## 8・5 学会発表

安部 恭子、島田 達生: 顕微鏡観察におけるヒト母乳の形態学的特徴, 第1回コ・メディカル形態機能学研究会学術集会, 福岡市, 2003. 3

安部 恭子、神田 貴絵、重野 文江、千本 美紀、玉井 保子、関根 剛、伊東 朋子、藤内 美保: 領域別看護学実習を終了した学生の看護基本技術に関する調査 - 実践能力 と卒業までに身につけたいと考える到達期待 -, 第29回日本看護研究学会学術集会, 大阪市, 2003. 7

安部 眞佐子、後藤 恭子、石橋 裕美、石塚 香子、鈴木 友和: 豆乳、牛乳の血糖上昇抑制効果について, 第3回日本健康・栄養システム学会, 熊本市, 2003. 6

檜原 登志子、大石 憲二、土屋 菜穂子、住岡 治美、山田 治喜: ケアハウス入居高齢者の日常生活に於ける意識と行動に関する実態調査 - 2 地域の施設形態による比較分析 - ( 1 ), 日本老年看護学会第8回学術集会, 明石市, 2003. 11

伴 信彦、松下 智美、甲斐 倫明: 骨髄移植での放射線照射に伴う二次がん発生リスクに関する考察, 日本保健物理学会第37回研究発表会, 千葉市, 2003. 6

伴 信彦、甲斐 倫明: 全身照射マウスの造血幹細胞における白血病関連染色体異常の出現頻度, 日本放射線影響学会第46回大会, 京都市, 2003. 10

福田 広美、大津 佐知江、小野 美喜、内田 雅子、粟屋 典子: 大腿骨頸部骨折を起こした高齢者の退院に関する意思決定 - その2 併存疾患をもち転院していく対象 -, 代34回日本看護学会論文集, 和歌山県, 2003. 8

安部 千代里、小野 香苗、林 猪都子: 育児サークル開催の評価 - 仲間作りの支援を目的として -, 第44回 日本母性衛生学会, 宇都宮市, 2003. 10

姫野 稔子、三重野 英子、末弘 理恵、桶田 俊光、高山 直子、藤原 喜代美: 在宅後期高齢者の足部の状態と立位バランス機能からみたフットケアニーズに関する研究, 第29回日本看護研究学会学術集会, 大阪市, 2003. 7

佐々 直子、福田 久美子、三本木 千秋、柳澤 利枝、高野 裕久、定金 香里、市瀬 孝道、吉川 敏一: OVA 感作マウスを用いたフラクトオリゴ糖の抗アレルギー効果の検討, 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜市, 2003. 5

三本木 千秋、佐々 直子、柳澤 利枝、井上 健一郎、定金 香里、市瀬 孝道、高野 裕久、吉川 敏一: ダニ抗原誘発性気道炎症モデルマウスを用いたフラクトオリゴ糖の抗アレルギー効果の検討, 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜市, 2003. 5

井上 健一郎、高野 裕久、柳澤 利枝、市瀬 孝道、定金 香里、森田 昌敏、内山 和彦、吉川 敏一: エンドトキシンによる急性肺傷害に対する 15d-PGJ2 の効果, 第15回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜市, 2003. 5

井上 健一郎、高野 裕久、柳澤 利枝、桜井 美穂、佐藤 雅彦、島田 章則、市瀬 孝道、定金 香里、吉川 敏一、遠山 知春: エンドトキシンによる急性肺傷害におけるメタロチオネインの役割, 第18回日本Shock学会総会, 東京都千代田区, 2003. 5

佐野 友春、市瀬 孝道、定金 香里: アオコの肝臓毒マイクロシスチン及び Dhb-マイクロシスチンがマウス肝腫瘍発生に及ぼす影響, 第 62 回日本癌学会総会, 名古屋市, 2003.9

市瀬 孝道、世良 暢之、高野 裕久、定金 香里、越智 宏倫、柴本 崇行: 酸化油脂摂取による肝の腫瘍発生と酸化的 DNA 傷害, 第 62 回日本癌学会総会, 名古屋市, 2003.9

市瀬 孝道: 黄砂の肺毒性およびアレルギーへの影響, 第 4 回大気環境学会九州支部研究発表会特別講演, 福岡市, 2004. 1

Inagaki, A., Oga, J., Kageyama, T., Kawashima, M., Hoaki, Y.: Mental-health-related physical fitness for persons with schizophrenia, World Federation for Mental Health Biennia Congress 2003, Melbourne, 2003. 3

稲垣 敦、大賀 淳子: 健康運動としての軽登山の検討, 第 57 回日本体力医学会大会, 静岡市, 2003. 9

稲垣 敦、大賀 淳子: 統合失調症患者の健康関連体力およびテストの妥当性, 日本体育学会第 54 回大会, 熊本市, 2003. 9

稲垣 敦、吉武 康栄、桜井 礼子、高波 利恵、八代 利香、品川 佳満、木村 厚子、平野 互、草間 朋子: ハイステッピングテストの提案・地域で実施できる中高齢者の全身持久力テストとして・, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都市, 2003. 10

及川 力、斉藤まゆみ、稲垣 敦: 聴覚障害学生の体力・運動能力と出身学校との関係, 第 24 回医療体育研究会 / アジア障害者体育・スポーツ学会日本支部会第 5 回合同大会, 所沢市, 2003. 11

石塚 香子、大和 英之、村山 寿、深川 雅史、江澤 郁子: 骨量減少モデルラットの骨強度に対するメナテトレノン投与の効果, 第 76 回日本薬理学会年会, 福岡市, 2003.3

濱本 洋子、石塚 香子、大和 英之、岡本 順子: 卵巣摘出マウスにおける高脂血症に及ぼすザクロの影響, 第 76 回日本薬理学会年会, 福岡市, 2003. 3

石塚(岩崎) 香子、大和 英之、黒川 清、深川 雅史: 尿毒症毒素の蓄積防止が無形成骨症発症を抑制する, 日本腎臓学会学術総会, 東京都, 2003. 5

石塚(岩崎) 香子、内田 素行、藤枝 綾子、河野 智子、黒川 清、深川 雅史: 慢性腎不全に伴う無形成骨症は尿毒症毒素により惹起される, 日本腎臓学会学術総会, 東京都, 2003. 5

Fukagawa M, Iwasaki(Ishizuka) Y, Kohno T, Kurokawa K: Possible roles of uremic toxins on the pathogenesis of adynamic bone disease in chronic renal failure., International Bone and Mineral Society, Osaka, Japan, 2003. 6

Iwasaki-Ishizuka Y, Yamato H, Nii-Kohno T, Kurokawa K, Fukagawa M: Skeletal resistance to PTH is induced by indoxyl sulfate, one of the uremic toxins, leading to adynamic bone., American Society of Nephrology, San Diego, CA, USA, 2003. 11

伊東 朋子、品川 佳満: 筋萎縮性側索硬化症患者における快適睡眠について, 日本看護研究学会, 大阪市, 2003. 7

影山 隆之、大賀 淳子、河島 美枝子: 勤労者のストレスコーピング特性および婚姻状況と「自殺」への共感, 第 23 回日本社会精神医学会, 盛岡市, 2003. 3

服部 訓典、立川 秀樹、飛鳥田 菜美、松崎 一葉、黒澤 千穂、笹原 信一郎、森田 展彰、影山 隆之: 筑

波研究学園都市における職員のストレス状況に関する研究(1)・ 1997年より5年後の定期断面調査, 第76回日本産業衛生学会, 山口市, 2003. 4

笹原 信一郎、立川 秀樹、飛鳥田 菜美、服部 訓典、黒澤 千穂、森田 展彰、影山隆之: 筑波研究学園都市における職員のストレス状況に関する研究(2)・ NIOSHモデルに基づくストレス構造の分析, 第76回日本産業衛生学会, 山口市, 2003. 4

影山 隆之、金丸 由希子、河島 美枝子、小林 敏生: ストレス対処特性のための新しい質問紙の開発(第2報)・ 改訂版の信頼性と妥当性および勤労者の抑うつ症状との関連, 第76回日本産業衛生学会, 山口市, 2003. 4

小林 敏生、上田 恵美子、影山 隆之: 簡易質問票を用いた看護婦の職業性ストレスおよびストレス対処特性の評価と抑うつ症状との関連, 第76回日本産業衛生学会, 山口市, 2003. 4

影山 隆之、河島 美枝子: “ストレス解消のため”の飲酒の頻度と職業性ストレス・コーピング特性・抑うつ度の関連: 性別および赤面反応の有無を考慮した検討, 第10回日本産業精神保健学会, 大阪市, 2003. 6

影山 隆之、佐藤 和子、岩男 和美、雨宮 克彦、雨宮 洋子: 高齢者施設に入所しているアルツハイマー症者における夜間排尿と睡眠のモニタリング, 日本睡眠学会第28回定期学術集会, 名古屋市, 2003. 7

原谷 隆史、高橋 正也、中田 光紀、福井 里江、深澤 健二、藤岡 洋成、小川 康恭、荒木 俊一、仲 眞美子、齋藤 玲子、池田 智子、高橋 美香子、影山 隆之、北條 稔、佐藤 剛: 職場における慢性頭痛の疫学調査, 第62回日本公衆衛生学会, 京都市, 2003. 10

影山 隆之: 「睡眠中に息が止まると言われた」という単純な訴えは睡眠問題のリスクファクターか?, 第62回日本公衆衛生学会, 京都市, 2003. 10

影山 隆之: Eメールによる学生相談の可能性についての基礎調査・高専学生の利用希望から, 日本学校メンタルヘルス学会第7回大会, 山本町, 2003. 10

影山 隆之: 大分県における精神障害者グループホームの実態・利用者から聴き取った“入居までの経緯・現在の満足度・将来の展望”, 第49回大分県公衆衛生学会, 大分市, 2004. 2

Sato, K, Yasaka, M, Kageyama, T: Relationship between the volume of residual urine and daily activity among the elderly with Alzheimer's disease, The 7th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong-Kong, 2004. 3

甲斐 倫明、草間 朋子: がんの放射線起因性の判断に原因確率(PC)を利用することについての考察, 日本保健物理学会第37研究発表会, 千葉市, 2003. 6

赤羽 恵一、清田 和弘、甲斐 倫明、羽田 道彦、高野 嘉久: 面積線量計を用いたPTCAにおける患者被ばく線量のリアルタイム評価システムの作成, 日本保健物理学会第37回研究発表会, 千葉市, 2003. 6

神田 貴絵、千本 美紀、安部 恭子、重野 文江、玉井 保子、関根 剛、伊東 朋子、藤内 美保: 大学新卒者の看護基本技術に関する調査・卒業後3ヶ月時点での実践能力の実態一, 日本看護研究学会九州地方会, 北九州市, 2003. 3

梶原 美佐、原田 よしみ、遠入 玲子、工藤 節美、内田 勝彦: 若者の禁煙行動、非喫煙行動を決める心理的過程と環境因子, 第62回日本公衆衛生学会, 京都市, 2003.10

松尾 恭子: 看護学生の希望の検討, 平成 15 年度九州地区看護研究学会, 佐賀県, 2003.11

Oga,J. Inagaki,A. Kawasima,M. Kageyama,T. Hoaki,Y.: The Condition of Bone Stiffness in Psychiatric Hospital Inpatients, World Federation for Mental Health Biennial Congress 2003, Melbourne, Australia, 2003. 2

大賀 淳子、稲垣 敦、河島 美枝子、影山 隆之、帆秋 善生: 精神科デイケアにおける定期的な体力テストの経過と課題, 日本公衆衛生学会, 京都市, 2003. 10

大神 純子、林 猪都子、吉留 厚子、小西 清美、神崎 光子、後藤 由美、宮崎 文子: 文献からみる産後 1 ヶ月の生活指導, 日本母性衛生学会, 栃木県宇都宮市,2003. 10

大津 佐知江、福田 広美、小野 美喜、内田 雅子、粟屋 典子: 大腿骨頸部骨折を起こした高齢者の退院に関する意思決定 その 1 自宅退院をした対象および社会的入院を繰り返した対象, 日本看護協会、第 34 回成人看護 (監) 和歌山市, 2003. 8

小野美喜: 大腿骨頸部骨折を起こした老人の退院に関する意思表示, 老年看護学会, 兵庫県, 2003. 11

定金 香里、市瀬 孝道、高野 裕久、柳澤 利枝、川里 浩明、安田 愛子: アトピー性皮膚炎モデルマウス NC/Nga におけるディーゼル排気微粒子塗布の影響, 粒子状物質 (PM2.5/DEP) の健康影響に関する発表会, つくば市, 2004. 3

定金 香里、世良 暢之、市瀬 孝道、高野 裕久、越智 宏倫、柴本 崇行: 酸化油脂摂取による肝組織の酸化的 DNA 傷害と修復酵素 mRNA 発現のマウス系統差, 第 62 回日本癌学会総会, 名古屋市, 2003. 9

定金 香里、市瀬 孝道、高野 裕久、柳澤 利枝: アトピー性皮膚炎モデルマウスに及ぼすディーゼル排気微粒子の影響, 第 44 回大気環境学会年会, 京都市, 2003. 9

定金 香里、世良 暢之、市瀬 孝道、高野 裕久、西川 雅高、森 育子、吉田 成一、柳澤 利枝、日吉 孝子: 黄砂の肺毒性 II. 肺胞洗浄液中の炎症細胞の変化と 8-OHdG の形成, 第 44 回大気環境学会年会, 京都市, 2003. 9

市瀬 孝道、西川 雅高、高野 裕久、世良 暢之、定金 香里、森 育子、柳澤 利枝、日吉 孝子、吉田 成一: 黄砂の肺毒性 I. 肺の病理と肺胞洗浄液中の炎症細胞の変化, 第 44 回大気環境学会年会, 京都市, 2003. 9

市瀬 孝道、定金 香里、西川 雅高、高野 裕久、森 育子、柳澤 利枝、日吉 孝子: 黄砂の抗原特異性 IgG1、IgE 抗体産生に及ぼす影響, 第 44 回大気環境学会年会, 京都市, 2003. 9

市瀬 孝道、定金 香里、高野 裕久、西川 雅高、森 育子、柳澤 利枝、日吉 孝子: ダニ抗原誘発性好酸球性気道炎症に対する黄砂の影響 I-肺の病理と肺洗浄液中の炎症細胞の変化, 第 44 回大気環境学会年会, 京都市, 2003. 9

定金 香里、市瀬 孝道、高野 裕久、柳澤 利枝、西川 雅高、森 育子、日吉 孝子: ダニ抗原誘発性好酸球性気道炎症に対する黄砂の影響 II-肺組織と気管支・肺胞洗浄液中のサイトカイン・ケモカインの変化, 第 44 回大気環境学会年会, 京都市, 2003. 9

西川 雅高、市瀬 孝道、森 育子、高野 裕久、世良 暢之、定金 香里、柳澤 利枝、日吉 孝子、全 浩、董 旭輝: 動物実験に用いた黄砂試料の特徴, 第 44 回大気環境学会年会, 京都市, 2003. 9

井上 健一郎、高野 裕久、柳澤 利枝、桜井 美穂、日吉 孝子、市瀬 孝道、定金 香里、吉川 敏一: エンドトキシン (LPS) による肺傷害にディーゼル排気微粒子 (DEP) の構成成分が及ぼす影響-第 2 報, 第 53 回日

本アレルギー学会総会, 岐阜市, 2003.10

市瀬 孝道、定金 香里、高野 裕久、日吉 孝子、柳澤 利枝、西川 雅高、森 育子: 卵白アルブミン誘発性マウス喘息モデルに対する黄砂の影響 I. 肺の病理と BALF 中の炎症細胞の変化, 第 53 回日本アレルギー学会総会, 岐阜市, 2003. 10

日吉 孝子、市瀬 孝道、高野 裕久、定金 香里、柳澤 利枝、西川 雅高、森 育子: 卵白アルブミン誘発性マウス喘息モデルに対する黄砂の影響 II. サイトカイン・ケモカインの変化, 第 53 回日本アレルギー学会総会, 岐阜市, 2003. 10

吉田 成一、六田 沙織、定金 香里、西川 雅高、武田 健、市瀬 孝道: 黄砂の内分泌かく乱作用に関する研究 ~ライディッヒ細胞における遺伝子発現解析, 環境ホルモン学会第 6 回研究発表会, 仙台市, 2003. 12

渡辺 知温、鈴木 満、野田 文隆、倉林 るみい、齋藤 高雅、佐藤 みつよ、川村 祥代: 海外在留邦人勤労者の精神保健とその環境因, 第 10 回多文化間精神医学会抄録集, 東京, 2003.

Kurabayashi, L. , Suzuki, M. , Saito,T. , Watanabe, H: The Psychosocial Factors Co-related with the Need for Mental Health Counseling Services among Japanese Expatriates in Duesseldorf and in Ho Chi Minh City, 27th International Conference of Occup.Health, Brazil, 2003. 2

齋藤 高雅、関根 剛: 中年期におけるサリドマイド胎芽病者の General Health Questionnaire による追跡調査, 第 62 回日本公衆衛生学会総会, 京都市, 2003. 10

齋藤 高雅、関根 剛: サリドマイド胎芽病者の精神保健追跡調査- General Health Questionnaire(GHQ-28) による検討, 第 19 回日本精神衛生学会, 東京, 2003. 11

関根 剛、齋藤 高雅、坂本 洋子、藤野 コリ子: 小中高の生徒指導・教育相談担当教員の共感性と指導との関連, 第 19 回日本精神衛生学会大会, 東京都, 2003. 12

Ohta, S. Kishimoto, T. Shinagawa, Y. Tanikawa, T.: A health monitoring system for the elderly living alone., 6th Polish-Japanese Symposium on Bio-Medical Engineering, Nara, 2003. 10

高橋 敬 新井 盛夫 中村 伸: クリングルと凝固因子 VII/, .K.Takahashi and M.Arai: A novel motif sequence found in kringle domains that function as a modulator for FVIIa, 7th Novo Nordisk Symposium on Haemostasis Management, Copenhagen, Denmark, 2003.

新井 盛夫 高山 朋子 高橋 敬: 活性型 VII 因子によるプロトロンビンの活性化, 日本血栓止血学会, 東京都, 2003. 11

高橋敬 新井盛夫 中村伸: クリングルと凝固因子 VII/組織因子 (TF) で再構成したグリセリン処理細胞の線溶・凝固活性, 日本血栓止血学会, 東京都, 2003. 11

石塚 香子 安部 眞佐子 高橋敬: 脂肪細胞における線溶因子の細胞生物学的意義, 第 5 回中四国凝固線溶血小板研究会, 広島市, 2004. 2

森山 敬子、高野 政子: ディスポーザブルインスリン注射器の細菌学的検討, 第 13 回日本小児看護学会, 千葉市, 2003. 7

高野 政子、目原 陽子: 病院実習での小児看護技術の検討, 第 4 回九州小児看護教育研究会, 大分市, 2003. 8

高野 政子: 農山村地域の子育て中の親の困難と支え-日本語版 FFFS を用いて-, 第 23 回日本看護科学学会, 三重県津市, 2003. 12

高野 政子、目原 陽子、佐伯圭一郎、是松 聖悟: 幼児の気管支喘息等の有病率と生活環境要因との関連, 第 4 回大分アレルギー研究会, 大分市, 2004. 3

玉井 保子、安部 恭子、神田 貴絵、重野 文江、千本 美紀、藤内 美保、関根 剛、伊東 朋子: 看護基本技術教育に関する検討・医療現場が新卒看護師に期待する卒業時の実践能力、, 日本看護研究学会, 大阪市, 2003. 7

玉井 保子: 臨地実習における基礎看護技術の教育方法の検討・臨地実習指導者が関わる時間・技術項目・方法に着目して, 第 3 4 回日本看護学会看護教育, 金沢市, 2003. 8

藤内 美保: 日勤・深夜勤務・深夜明けの看護師の生活時間構造と疲労との関連・生活時間調査による分析から、, 日本看護研究学会, 大阪市, 2003. 7

藤内 美保: 勤務シフト別の看護職の睡眠・仮眠時間および時間帯の相違, 日本公衆衛生学会, 京都市, 2003. 10

山下 早苗、猪下 光、小川 佳代、中江 秀美、舟越 和代、三浦 浩美、宮武 典子: 小児の休日・夜間救急外来における保護者の受療行動の実態・重症度別分析、, 第 3 4 回日本看護学会・小児看護、, 滋賀県大津市, 2003. 9

山下 早苗、猪下 光: 乳幼児をもつ母親の子どもの発病時における家庭での判断と対処行動, 第 23 回日本看護科学学会学術集会, 三重県津市, 2003. 12

Yoshitake Y, Shinohara M, Kouzaki M, Fukunaga T.: Prolonged vibration to Achilles tendon improves the steadiness in force by the plantar flexor muscles., American College of Sports Medicine, San Francisco, USA, 2003. 6

Yoshidome, A.,Goto,Y.,Naito,N.: Nutrition of The Infant and Mammae Wiping in Japan, INTERNATIONAL CONFERENCE IMPACT OF GLOBAL ISSUES ON WOMEN AND CHILDREN 2003, BANGKOK , 2003. 2

Naito,N.,Shirai,M.M,Yanagawa,M.,Yoshidome,A.: Socialization of Child Care and Reciprocal Support Satisfactory to Couples Having Children of Three and Under, INTERNATIONAL CONFERENCE IMPACT OF GLOBAL ISSUES ON WOMEN AND CHILDREN 2003 , BANGKOK , 2003. 2

小田桐 隆志、西口 主真、阿部 学、机 直美、吉田 成一、松岡 隆、高野 裕久、成田 年、鈴木 勉、武田 健: ディーゼル排ガス胎仔期暴露によるマウスの行動への影響・内分泌攪乱化学物質特別シンポジウム、湘南(6月) 2003年

小野 なお香、吉田 成一、机 直美、押尾 茂、梅田 隆、菅原 勇、高野 裕久、武田 健: 胎仔期にディーゼル排ガス暴露を受けた雄性マウスのテストステロン産生に及ぼす影響の解析・内分泌攪乱化学物質特別シンポジウム、湘南(6月) 2003年

小野 なお香、吉田 成一、机 直美、押尾 茂、菅原 勇、高野 裕久、武田 健: 胎仔期ディーゼル排ガス暴露が雄性マウスのテストステロン産生に及ぼす影響・第 8 回 Testis Workshop 精子形成・精巣毒性研究会、千葉(9月) 2003年

机 直美、吉田 美紀、吉田 成一、菅原 勇、武田 健: ディーゼル排ガスのマウス胎仔期生殖腺分化



過程への影響について．第 136 回日本獣医学会学術集会、青森（10 月）、2003 年

机 直美、藤元 彩葉、吉田 成一、柳澤 利枝、菅原 勇、高野 裕久、武田 健：ディーゼル排ガスの妊娠期曝露による胎子および胎盤への影響．フォーラム 2003: 衛生薬学・環境トキシコロジー、仙台（10 月）、2003 年

小野 なお香、吉田 成一、机 直美、押尾 茂、菅原 勇、高野 裕久、武田 健：胎仔期ディーゼル排ガス曝露による雄性マウス出生仔の生殖器系に及ぼす影響の解析．フォーラム 2003: 衛生薬学・環境トキシコロジー、仙台（10 月）、2003 年

小田桐 隆志、西口 主真、阿部 学、机 直美、吉田 成一、松岡 隆、高野 裕久、成田 年、鈴木 勉、武田 健：胎仔期ディーゼル排ガス曝露によるマウスの行動への影響．フォーラム 2003: 衛生薬学・環境トキシコロジー、仙台（10 月）、2003 年

吉田 成一、六田 沙織、平野 佐世子、野口 恵子、早川 和一、高野 裕久、武田 健、市瀬 孝道：ディーゼル排気微粒子中に含まれるエストロゲンレセプター mRNA 発現低下に關与する物質の探索．フォーラム 2003: 衛生薬学・環境トキシコロジー、仙台（10 月）、2003 年

武田 健、吉田 成一、机 直美、押尾 茂、阿部 学、井原 智美、菅又 昌雄：ディーゼル排ガスの生殖器及び脳神経系への影響．東京理科大学総合研究所 環境・エネルギー研究部門 第二回 シンポジウム、新宿区（11 月）、2003 年

小野 なお香、吉田 成一、机 直美、押尾 茂、菅原 勇、高野 裕久、武田 健：ディーゼル排ガス胎仔期曝露による雄性マウスの生殖器系に対する影響．東京理科大学総合研究所 環境・エネルギー研究部門 第二回シンポジウム、新宿区（11 月）、2003 年

小田桐 隆志、西口 主真、阿部 学、机 直美、吉田 成一、松岡 隆、高野 裕久、成田 年、鈴木 勉、武田 健：胎仔期ディーゼル排ガス曝露によるマウスの学習行動への影響．東京理科大学総合研究所 環境・エネルギー研究部門 第二回 シンポジウム、新宿区（11 月）、2003 年

机 直美、藤元 彩葉、渡邊 学、吉田 成一、柳澤 利枝、菅原 勇、高野 裕久、武田 健：胎子期ディーゼル排ガス曝露による胎子および胎盤への影響について．東京理科大学総合研究所 環境・エネルギー研究部門 第二回シンポジウム、新宿区（11 月）、2003 年

菅又 昌雄、井原 智美、西口 主真、小田桐 隆志、阿部 学、机 直美、吉田 成一、高野 裕久、武田 健：胎仔期ディーゼル排ガス曝露の脳への影響．光学および電子顕微鏡による病理学的解析．東京理科大学総合研究所 環境・エネルギー研究部門 第二回シンポジウム、新宿区（11 月）、2003 年

小野 なお香、机 直美、押尾 茂、吉田 成一、菅原 勇、高野 裕久、武田 健：マウス雄性生殖器の発達に及ぼす胎仔期ディーゼル排ガス曝露の影響．環境ホルモン学会第 6 回研究発表会、仙台（12 月）、2003 年

机 直美、藤元 彩葉、吉田 成一、菅原 勇、柳澤 利枝、高野 裕久、武田 健：妊娠期ディーゼル排ガス曝露による胎子および胎盤への影響について．環境ホルモン学会第 6 回研究発表会、仙台（12 月）、2003 年

六田 沙織、吉田 成一、野口 恵子、早川 和一、高野 裕久、武田 健、市瀬 孝道：ディーゼル排気微粒子中に含まれるエストロゲンレセプター mRNA 発現低下に寄与する物質の解析．環境ホルモン学会第 6 回研究発表会、仙台（12 月）、2003 年

机 直美、藤元 彩葉、渡邊 学、吉田 成一、菅原 勇、柳澤 利枝、高野 裕久、武田 健：ディーゼル排ガスの胎子期曝露による胎子および胎盤への影響解析．日本薬学会 124 年会、大阪（3 月）2004 年

小野 なお香、吉田 成一、机 直美、押尾 茂、菅原 勇、高野 裕久、武田 健：マウス胎仔期ディーゼル排ガス曝露が出生仔精子産生に及ぼす影響．日本薬学会 124 年会、大阪（3 月）2004 年

小田桐 隆志、西口 主真、阿部 学、机 直美、吉田 成一、松岡 隆、高野 裕久、成田 年、鈴木 勉、武田 健：ディーゼル排ガスの学習記憶への影響．日本薬学会 124 年会、大阪（3 月）2004 年

菅又 昌雄、井原 智美、菅又 美穂、西口 主真、阿部 学、小田桐 隆志、机 直美、吉田 成一、高野 裕久、武田 健：胎仔期ディーゼル排ガス曝露の脳への影響 - 光学および電子顕微鏡による病理学的解析．日本薬学会 124 年会、大阪（3 月）2004 年

吉田 成一、六田 沙織、野口 恵子、早川 和一、高野 裕久、武田 健、市瀬 孝道：ディーゼル排気微粒子中のエストロゲンレセプター mRNA 発現低下に關与する物質の探索．日本薬学会 124 年会、大阪（3 月）2004 年

吉留 厚子、後藤 由美：出産後 4 ヶ月における母乳哺育者の乳房清拭と乳房障害の關係，第 28 回日本看護研究学会，大阪市，2003. 6

## 8・6 学術講演等

---

影山 隆之：頻回通話と人格障害，第 16 回日本電話相談学会ワークショップ，水戸市，2003. 10

Kai, M. and Ban, N.: Model analysis suggests an epigenetic effect of radiation for radiation-induced acute myeloid leukemia in C3H/He mice, The 3rd International Workshop on Mathematical Modelling of Carcinogenesis, 京都市, 2003. 3

Kai, M.: Carcinogenesis Modelling of Radiation-induced Cancer-Current Status and Issues-, International Symposium on Innovative Technology for Radiation Risk Study 2003, 東京, 2003. 3

甲斐 倫明：中性子線のリスク評価における問題点，日本放射線影響学会第 46 回大会シンポジウム，京都市，2003. 10

甲斐 倫明：ICRP 新勧告に対するコメント，保物セミナー 2003，京都市，2003. 11

甲斐 倫明：宇宙放射線被ばくに伴うリスク，第 3 回放射線安全研究センターシンポジウム「宇宙からヒトを眺めて」，千葉市，2003. 12

甲斐 倫明：発がん数理モデルの役割とこれからの課題，リスク検討会平成 15 年度全体会合，京都市，2004. 2

草間 朋子：医療被ばくと放射線防護，第 4 回クリニカルジョイントセミナー，下関市，2003. 2

草間 朋子：医療被ばくと患者との関わり，福岡県放射線技師会北九州支部，博多市，2003. 7

Tomoko KUSAMA: Radiation Safety and Role of Nursing Staff, International Conference of Oncology Nursing, Dae Jon (Korea), 2003. 9

宮崎 文子: これからの助産師教育－助産師教育 30 年の流れから今後を考える－, 全国助産師教育協議会総会, 東京都, 2003. 5

宮崎 文子: 助産師教育課程, 大分県看護協会実習指導者講習会, 大分市, 2003. 5

宮崎 文子: これからの助産師教育の課題, 平成 15 年度全国助産師教育協議会九州・沖縄ブロック会議, 熊本市, 2003. 9

宮崎 文子: 新しい助産師教育－なぜ専門職大学院なのか?－, 日本助産師会大分県支部研修会, 大分市, 2004. 3

宮崎 文子: 助産師教育と助産師の役割－日本の助産師教育の現状と課題から－, 第 5 回 大分看科大 / ソウル大学研究交流会, 野津原町 (大分県立看護科学大学), 2004. 3

高野 政子: 指導の実際－小児看護－, 平成 15 年度大分県看護協会実習指導者講習会, 大分市, 2003. 7

吉武 康栄: 高強度運動時の酸素摂取動態に対する筋活動の関与, 第 11 回日本運動生理学会, シンポジウム「運動と酸素摂取動態」, 名古屋, 2003. 7

## 9 地域貢献

### 9・1 講演

- 安部 眞佐子: 遺伝子多型と大腸がん, 平成 14 年度保健栄養学学術講演会, 大分市, 2003. 1
- 栗屋 典子: 看護サービス提供論, 認定看護管理者ファーストレベル, 大分市, 2003.
- 栗屋 典子: 継続教育の計画、実施、評価, 大分赤十字病院看護管理研修会, 大分市, 2003. 1
- 栗屋 典子: 看護管理概説, 認定看護管理者ファーストレベル, 大分市, 2003. 5
- 栗屋 典子: 看護サービス提供論, 認定看護管理者ファーストレベル, 大分市, 2003. 10
- 栗屋 典子: 看護サービス提供論, 労働福祉事業団 看護管理者研修 (特) 東京都, 2003.10
- 栗屋 典子: 看護サービスの質評価と改善, 認定看護管理者セカンドレベル, 熊本市, 2003. 11
- 伴 信彦: IVR での看護, 放射線医学総合研究所第 31 回放射線看護課程, 千葉市, 2003. 5
- 伴 信彦: IVR での看護, 放射線医学総合研究所第 32 回放射線看護課程, 千葉市, 2003. 7
- 伴 信彦: IVR での看護, 放射線医学総合研究所第 33 回放射線看護課程, 千葉市, 2003. 8
- 伴 信彦: 看護研究の手引き, 大分赤十字病院教育研修会, 大分市, 2003. 9
- 伴 信彦: IVR での看護, 放射線医学総合研究所第 35 回放射線看護課程, 千葉市, 2004. 2
- 林 猪都子: 大分市立南大分中学校 P T A 性教育 「児童・生徒の性意識、性行動の実態」, 大分市立南大分中学校 P T A , 大分市, 2003. 6
- 林 猪都子: 大分県立大分商業高等学校 1 年 2 組 性教育 「今を大切に生きる」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 7
- 林 猪都子: 大分県立大分商業高等学校 1 年 6 組 性教育 「今を大切に生きる」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 7
- 林 猪都子: 大分市立三佐小学校 4 年生 すこやか体験活動 「胎児の発育」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 10
- 林 猪都子: 大分市立原川中学校 1 年生 性教育 「大切ないのち」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 11
- 林 猪都子: 大分市立原川中学校 2 年生 性教育 「命をつないで」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 12
- 林 猪都子: 大分市立敷戸小学校 性教育 「大切ないのち」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 12
- 林 猪都子: 大分市中学校教育研究会性教育部会 「生徒の性意識と性行動の実態」, 大分市中学校教育研究会, 大分市, 2003. 12

- 林 猪都子: 大分市立滝尾中学校 1 年生 性教育 「大切ないのち」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2004. 3
- 林 猪都子: 大分市立滝尾中学校 2 年生 性教育 「命をつないで」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2004. 3
- 林 猪都子: 「今を大切に生きる」命と性の学習講座, 津久見市, 津久見市, 2004. 3
- 平野 互: 保健事業評価の活用~健康づくりにどう生かすか, 平成 1 4 年度大分県市町村保健師等後期研修会, 大分市, 2003. 1
- 平野 互: リスクマネジメント教育, 久留米大学医学部看護学科ワークショップ, 久留米市, 2003. 1
- 平野 互: 医療の安全管理 ・失敗 から学ぶー, 大分民医連第 7 回県連学術運動交流集会, 大分市, 2003. 3
- 平野 互: 医療の安全管理 ・失敗から学ぶー, 大分県立病院医療事故対策研修会, 大分市, 2003. 3
- 平野 互: 人が人として生きるために ・医療と人権ー, 野津原町「七瀬大学・野菊の会」, 野津原町, 2003. 5
- 平野 互: 市町村合併時代の保健活動, 豊肥ブロック市町村保健活動研究協議会研修会, 三重町, 2003. 5
- 平野 互: ヘルスケア提供システム論, 平成 1 4 年度看護管理者ファーストレベル研修会, 大分市, 2003. 6
- 平野 互: 健康づくり活動を楽しもう, 日出町健康づくり推進協議会研修会, 日出町, 2003. 6
- 平野 互: 医療事故防止とリスクマネジメント ・失敗 から学ぶー, 日精看大分県支部平成 1 5 年度第 1 回支部研修会, 大分市, 2003. 6
- 平野 互: リスクマネジメント, 平成 1 5 年度実習指導者講習会, 大分市, 2003. 7
- 平野 互: 医療事故防止とリスクマネジメント ・失敗から学ぶー, 大分県看護協会新人研修会, 大分市, 2003. 7
- 平野 互: 看護の倫理と Professionalism, 国立療養所西別府病院 特別講演, 別府市, 2003. 7
- 平野 互: 事故情報から学ぶ医療の安全管理, 大分記念病院職員研修会, 大分市, 2003. 7
- 平野 互: 健康づくり・まちづくり, 鶴見町熟年大学, 鶴見町, 2003. 8
- 平野 互: 医療の安全管理 ・産業界の対策に学ぶー, 大分県看護協会リスクマネジメント指導者養成研修会, 大分市, 2003. 9
- 平野 互: 診療情報開示時代の看護記録, 大分県看護協会中津・下毛地区研修会, 中津市, 2003. 11
- 平野 互: 看護職の行動規範と Professionalism ・患者の苦情から学ぶー, 佐賀県看護協会東部地区支部研修会, 佐賀県中原町, 2003. 11
- 平野 互: 診療情報開示時代の看護記録, 中津市民病院看護部教育委員会特別講演会, 中津市, 2004. 3

- 稲垣 敦: 健康ウォークラリー, 富士見が丘ウェストステージハウジングフェア, 大分市, 2003. 4
- 稲垣 敦: 中高齢者の健康と運動, 中津市食生活改善推進協議会総会, 中津市, 2003. 5
- 稲垣 敦: 高齢者のレクリエーション, 野津原町わくわくヘルスセミナー, 野津原町, 2003. 6
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (1), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 6
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (2), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 6
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (3), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 7
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (4), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 7
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (5), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 7
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (6), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 7
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (7), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 7
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (8), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 8
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (9), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 8
- 稲垣 敦: 高齢者の健康と運動, 大分県職員互助会生涯学習プラン, 別府市, 2003. 9
- 稲垣 敦: 中高齢者の健康と運動, 七瀬大学および野菊の会, 野津原町, 2003. 9
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (10), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 9
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (11), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 9
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (12), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 9
- 稲垣 敦: ウォーキング講習会, 野津原町わくわくヘルスセミナー, 緒方町, 2003. 10
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (13), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 10
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動 (14), 大分県・別府市共催スマート教室, 別府市, 2003. 10
- 稲垣 敦: 体力測定と運動相談, 別府市民健康祭, 別府市, 2003. 11
- 稲垣 敦: 温泉運動: 温泉を使った水中運動, 大分県・別府市共催スマート教室(体験版), 別府市, 2003. 11
- 稲垣 敦、桜井 礼子、平野 互: 体力測定と運動指導 (1), 野津原町職員健康教育, 野津原町, 2004. 2
- 稲垣 敦、桜井 礼子、平野 互: 体力測定と運動指導 (2), 野津原町職員健康教育, 野津原町, 2004. 2

- 稲垣 敦、桜井 礼子、平野 互: 体力測定と運動指導 (3), 野津原町職員健康教育, 野津原町, 2004. 2
- 稲垣 敦: 体力測定とトレーニングマシンを活用した運動指導, 中央ブロック市町村保健活動研究協議会研修会, 挟間町, 2004. 3
- 稲垣 敦: 癒しだけじゃもったいない! 温泉でもっと元気になろうー水中運動のススメー, 温泉を活かした健康づくり推進大会, 別府市, 2004. 3
- 石塚 (岩崎) 香子、深川 雅史: 無形成骨の進展機序解明と治療に関する研究, 腎性骨症研究会, 東京都, 2003. 6
- 石塚 香子、安部 真佐子、高橋 敬: 脂肪細胞における専用因子の細胞生物学的意義, 中四国 凝固・線溶・血小板研究会, 広島市, 2004. 2
- 影山 隆之: 働く人のストレス管理, 臼杵市役所第2回メンタルヘルス講演会, 臼杵市, 2003. 1
- 影山 隆之: メンタルヘルス, 大分県庁企画文化部平成14年度合同研修会, 大分市, 2003. 1
- 影山 隆之: 職業性ストレスのプロセスと管理, 大分県南大分地区安全衛生協議会「こころの健康講座」, 大分市, 2003. 2
- 影山 隆之: 看護研究1 入門編, 大分県看護協会教育計画研修会, 大分市, 2003. 5
- 影山 隆之: メンタルヘルス, 大分県職員研修所新任係長級研修, 大分市, 2003. 6
- 影山 隆之: 看護研究2 基礎編(前期), 大分県看護協会教育計画研修会, 大分市, 2003. 6
- 影山 隆之: ストレスと健康, 竹田直入地区安全衛生協議会メンタルヘルス管理監督者研修, 竹田市, 2003. 7
- 影山 隆之: しなやかに生きる・働く人の ストレス管理, 全労働省労働組合大分支部青年部・婦人部研修会, 挟間町, 2003. 7
- 影山 隆之: 看護研究2 基礎編(後期), 大分県看護協会教育計画研修会, 大分市, 2003. 7
- 影山 隆之: 子どもたちの心の健康を考える, 佐伯地区学校教育研修会平成15年度養護部会夏期研修, 佐伯市, 2003. 8
- 影山 隆之: これでいいのか子どもたち~いまどきの心の健康を考える, 鹿児島県保健体育研究会, 鹿児島県牧園町, 2003. 8
- 影山 隆之: 事例のストーリーを読む, 大分県精神保健福祉センター平成15年度精神保健福祉関係者「第1回実践研修」, 大分市, 2003. 9
- 影山 隆之: メンタルヘルス, 県庁企画文化部合同研修会メンタルヘルス研修, 大分市, 2003. 10
- 影山 隆之: ストレスと健康, 大分土木事務所「心の健康講座」, 大分市, 2003. 11
- 影山 隆之: メンタルヘルスの基礎知識, 大分県労働基準協会「メンタルヘルス指針基礎研修」, 大分市, 2003. 11

影山 隆之: 保健・医療・福祉の協働, 大分県精神保健福祉センター平成 15 年度精神保健福祉関係者「応用研修」, 大分市, 2003. 12

影山 隆之: ストレスと睡眠・休養, 竹田直入地区安全衛生協議会「こころの健康講座」, 竹田市, 2004. 1

影山 隆之: 快適な眠りと心の癒し, 大分市地域保健委員会メンタルヘルスパネルディスカッション, 大分市, 2004. 1

影山 隆之: 心の病と共に生きる, 大分生と死を考える会例会, 大分市, 2004. 3

甲斐 倫明: 放射線と健康, 熊本県宮原町講演会, 熊本県宮原町, 2003. 1

甲斐 倫明: 放射線リスクをどう理解すればよいのか, 第 20 回放射線科学研究会, 大阪市, 2003. 5

甲斐 倫明: 診療放射線に係わる現状と課題, 平成 15 年医療法に基づく立入検査講習会, 大分市, 2003. 6

甲斐 倫明: 低線量放射線の健康リスク, 大分医科大学 放射線従事者教育訓練講習会, 大分市, 2003. 7

甲斐 倫明: 放射線事故時および平常時の健康相談, 日本放射線技師会専門課程認定講習会, 大分市, 2003. 10

河島 美枝子: ラインのメンタルヘルスケア, 九州電力株式会社, 別府市, 2003. 1

河島 美枝子、高橋正臣、青木一雄: メンタルヘルスパネルディスカッション ストレス・あなたの心と向き合って見ませんか, 大分市地域保健委員会, 大分市, 2003. 1

河島 美枝子: メンタルヘルスの自己管理と部下管理, 大分県消防学校 消防職員幹部教育, 挾間町, 2003. 1

河島 美枝子: ラインのメンタルヘルスケア, 九州電力株式会社, 大分市, 2003. 2

河島 美枝子: 職場と女性のメンタルヘルス, 県南地区市町村保健活動研究協議会研修, 津久見市, 2003. 2

河島 美枝子: 職場のメンタルヘルス, 浜の町病院, 福岡市, 2003. 3

河島 美枝子: 心の健康とあなた, 佐伯市役所職員研修会, 佐伯市, 2003. 3

河島 美枝子: メンタルヘルスについて, 大分地方検察庁職員研修, 大分市, 2003. 3

河島 美枝子: メンタルヘルス対策について, 大分労働局幹部職員研修, 大分市, 2003. 3

河島 美枝子: メンタルヘルス, 大分県消防学校 消防職員初任教育, 挾間町, 2003. 5

河島 美枝子: 心の健康講座, 大野地方振興局, 三重町, 2003. 6

河島 美枝子: 建設業のメンタルヘルス, 株式会社 佐伯建設安全大会, 大分市, 2003. 6

河島 美枝子: メンタルヘルス, 大分市新任職員研修, 大分市, 2003. 6

河島 美枝子: 健康教育の理念と方法, 茨城県産業保健推進センター-産業保健師研修会, 水戸市, 2003. 7



河島 美枝子: メンタルヘルス対策について, 大分労働局職員研修会, 大分市, 2003. 7

河島 美枝子: 心の健康管理, 平成 15 年度学校栄養職員 10 年経験者研修, 大分市, 2003.7

河島 美枝子: メンタルヘルス, 国家公務員共済組合連合会 看護部長会議, 熊本市,2003. 7

河島 美枝子: メンタルヘルス, 大分県市町村職員研修運営協議会 市町村新任課長級職員研修, 大分市, 2003. 7

河島 美枝子: メンタルヘルス, 大分市新任部次長級研修, 野津原町, 2003. 8

河島 美枝子: 職場の活性化と人間関係づくり, 平成 15 年度県立学校教頭研修, 大分市,2003. 8

河島 美枝子: 事例で考えるメンタルヘルス対策, 大分県産業保健推進センター衛生管理者研修会, 大分市, 2003. 8

河島 美枝子: 職場のメンタルヘルス問題への対応を考える, 大分県産業保健推進センター衛生管理者研修会, 大分市, 2003. 8

河島 美枝子: 職場のメンタルヘルス, 平成 15 年度県立学校事務長研修, 大分県, 2003.9

河島 美枝子: 職場のメンタルヘルス, 竹田広域消防本部研修会, 竹田市, 2003. 9

河島 美枝子: メンタルヘルス指針基礎研修, 厚生労働省委託事業大分県労働基準協会主催, 大分市, 2003. 10

河島 美枝子: メンタルヘルス, 大分県産業保健推進センター事業主セミナー , 大分市,2003. 10

河島 美枝子: 心の健康管理, 野津原町いきいき女性セミナー, 野津原町, 2003. 11

河島 美枝子: 職場と心の健康, 津久見市職員研修, 津久見市, 2003. 11

河島 美枝子: 職場と心の健康, 九州財務局大分財務事務所所員研修会, 大分市, 2004. 1

河島 美枝子: 心の権衡管理, 大分県津久見市津愛大学学習会, 津久見市, 2004. 1

河島 美枝子: 職場と心の健康, 門司税関大分税関支署所員研修会, 大分市, 2004. 1

河島 美枝子: 事例で学ぶ職場のメンタルヘルス第 1 回, 大分市職場研修指導者・推進者研修会, 大分市, 2004. 2

河島 美枝子: 心の健康管理, 九州電力 新大分発電所管理職研修会, 大分市, 2004. 2

河島 美枝子: ストレスとあなた, 九州電力 新大分発電所所員研修会, 大分市, 2004. 2

河島 美枝子: 管理職と職場のメンタルヘルス, 旭化成ケミカルズ 大分工場管理職研修会, 大分市, 2004. 3

河島 美枝子: 心の権衡管理, 大分県のぞみ園職員研修会, 大分県挾間町, 2004. 3

河島 美枝子: 心の権衡管理, 大分歩こう会指導者研修会, 大分県野津原町, 2004. 3

- 河島 美枝子: 事例で学ぶ職場のメンタルヘルス第 2 回, 大分市職場研修指導者・推進者研修会, 大分市, 2004. 3
- 小西 清美: 命の大切さについて考えましょうー胎児の発育(4年生)ー, 日本助産師会大分県支部, 大分市三佐小学校, 2003. 10
- 小西 清美: 原川中学性教育(2年生)ー命をつないでー, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 12
- 小西 清美: 滝尾中学校性教育(1年生)ー大切ないのちー, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2004. 3
- 伊東 朋子、藤内 美保、小西 清美、山下 早苗: からだの動かし方, 公開講座, 大分県立看護科学大学, 2004. 3
- 工藤 節美: 保健師教育課程, 日本看護協会実習指導者講習会, 大分市, 2003. 5
- 工藤 節美: 家族のアセスメントと援助, 大分県看護協会第 1 回訪問看護職員養成講習会, 大分市, 2003. 6
- 工藤 節美: 情報開示に応えられる保健師記録, 大分市保健活動研究協議会, 大分市, 2003. 8
- 工藤 節美: 家族のアセスメントと援助, 大分県看護協会第 2 回訪問看護職員養成講習会, 大分市, 2003. 11
- 工藤 節美: 大学における保健師教育, 大分県保健所係長研修会, 大分市, 2004. 3
- 草間 朋子: 放射線管理におけるリスク管理について, 第 7 回「化学物質と環境円卓会議」, 東京都, 2003. 8
- 草間 朋子: 医療専門職の大学教育に求められるもの, 第 10 回東京保健科学学会学術集会, 東京都, 2003. 9
- 草間 朋子: 医療放射線利用における放射線防護ー患者の不安に答える, 第 47 回放射線技術学会近畿部会, 大阪, 2004. 2
- 草間 朋子: 認定に必要とされる放射線および放射線影響の知識, 平成 15 年度原子爆弾被爆者指定医療機関等医師研修会, 広島市, 2004. 3
- 宮崎 文子: 女性の健康ー特に更年期を中心にー, 山香町食生活改善推進協議会研修会, 山香町, 2003. 2
- 宮崎 文子: 女性のライフサイクルに関する健康問題, 大分県中西部農業共同組合 NOSAI 女性部リベルテ総会, 庄内町, 2003. 4
- 宮崎 文子: いきいき女性セミナーー自分で出来る心のお手入れー, 野津原町生涯学習センター, 野津原町, 2003. 5
- 宮崎 文子: 思春期の性, 大分県立大分西高等学校, 大分市, 2003. 7
- 宮崎 文子: 中学生期の男女交際, 玖珠町立八幡中学校, 玖珠町, 2003. 7
- 宮崎 文子: 大分県立大分商業高等学校性教育 1 年 1 組ー今を大切に生きるー, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 7
- 宮崎 文子: 思春期へのステップー健全な性の意思決定のためにー, 野津原町立中学校と中学校 PTA, 野津

原町, 2003. 7

宮崎 文子: 大分県立大分商業高等学校性教育 1 年 5 組「今を大切に生きる」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 7

宮崎 文子: 子どもの現状から見る女性としての性意識の課題, 女教師別府支部研修会 ( 小学校・中学校教職員 ), 日出町, 2003. 8

宮崎 文子: 思春期の性の現状と問題点と親の関わり方, 九重町 PTA 連合会第 25 回振興大会, 九重町, 2003. 11

宮崎 文子: 川原中学校 1 年生全員性教育「大切ないのち」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2003. 11

宮崎 文子: 更年期女性のヘルスケア, 庄内町食生活改善推進会研修会, 庄内町, 2003. 11

宮崎 文子: 女性のヘルスケアー特に更年期を中心にー, 野津原町生涯学習センター, 野津原町, 2003. 11

宮崎 文子: 思春期の性の現状と問題点と親の関わり方, 玖珠町 PTA 連合会, 玖珠町, 2003. 12

宮崎 文子: 思春期の性の現状の問題点と対策, 大分市福德学院高等学校, 大分市, 2003. 12

宮崎 文子: 更年期障害について, 中津市職員組合女性部研修会, 中津市, 2004. 2

宮崎 文子: 女性のライフステージとからだー更年期をうまくのりきろうー, 日本助産師会大分県支部, 野津原町, 2004. 2

宮崎 文子: 滝尾中学校 1 年生全員の性教育「大切ないのち」, 日本助産師会大分県支部, 大分市, 2004. 2

大賀 淳子: 社会復帰と 6 つの保障, 社会復帰対策連絡会議, 大分市, 2003. 2

大賀 淳子: 社会復帰と 6 つの保障, 精神障害リハビリテーション会議, 大分市, 2003. 7

大賀 淳子: 相手の立場を尊重した職場でのコミュニケーションのあり方, 天瀬町台小学校職員研修会, 天瀬町, 2003. 8

小野 美喜: 高齢者の理解, 訪問看護師養成講座, 大分市, 2003. 6

小野 美喜: 高齢者の理解, 訪問看護師養成講座, 大分市, 2003. 9

小野 美喜: 看護の対象者の理解, 看護力再開発講習会, 大分市, 2003. 9

齋藤 高雅: 事例検討, 大分家庭裁判所調査官研修講師, 大分市, 2004. 2

関根 剛: 不登校児童・生徒への関わり方 . 不登校のタイプと時期にあわせて . , 直入教育振興協議会 フリースクール講演会, 竹田市, 2003. 2

関根 剛: 対応困難な電話への関わり方, 大分臨床心理会, 大分市, 2003. 3

関根 剛: 被害者支援に必要なこと . 和歌山、大分の経験から . , なら被害者支援ネットワーク 被害者支援特別講演, 奈良市, 2003. 5

- 関根 剛: カウンセリングの原理と実際, 平成 15 年度実習指導者講習会, 大分市, 2003. 6
- 関根 剛: 思春期の子育てについて, 野津原町 P T A 連合会主催講演会, 野津原町, 2003. 6
- 関根 剛: スクールセクシャルハラスメントについて, 大分県立豊学校校内人権・同和教育教職員研修会, 大分市, 2003. 6
- 関根 剛: 一泊研修講師, 和歌山いのちの電話協会相談員養成講座, 和歌山市, 2003. 7
- 関根 剛: 被害者の心理的反応と P T S D, 紀の国被害者支援センター相談員養成講座, 和歌山市, 2003. 8
- 関根 剛: マイクロカウンセリング, 和歌山いのちの電話協会相談員アドバイザー養成講座, 和歌山市, 2003. 8
- 関根 剛: セクハラ防止とジェンダーフリー, 大分県立雄城台高等学校校内研修会, 大分市, 2003. 8
- 関根 剛: 対人援助のためのエクササイズ, 紀の国被害者支援センター相談員養成講座, 和歌山市, 2003. 9
- 関根 剛: 一人ひとりを生かす進路指導, 平成 15 年度公立中学校進路指導担当者研修会, 大分市, 2003. 10
- 関根 剛: 不登校児童生徒に養護教諭がどうかかわるか / カウンセリングスキルの基礎と行動論的アプローチ, 平成 15 年度保健室相談活動研修会, 大分市, 2003. 10
- 関根 剛: 被害少年の心理と支援ネットワークの重要性, 被害少年サポートネットワーク会議講演, 大分市, 2003. 10
- 関根 剛: カウンセリングを生かした生徒指導・スクールカウンセラーとの連携, 大分県教育センター高校初任者研修会講師, 大分市, 2003. 10
- 関根 剛: セクハラ防止とジェンダーフリー, 大分県立大分商業高校人権同和研修会, 大分市, 2003. 11
- 関根 剛: 児童生徒理解のあり方について, 日田管内生徒指導連絡協議会主催講演会, 日田市, 2003. 11
- 関根 剛: 一泊研修講師 ( マイクロカウンセリング ), 和歌山いのちの電話協会相談員養成講座, 和歌山県美里町, 2003. 11
- 関根 剛: 生き生きと生きる, 姫島村健康づくりの集い, 姫島村, 2003. 12
- 関根 剛: 被害者が受ける傷と心理的支援, 大分被害者支援センターボランティア養成講座, 大分市, 2003. 12
- 関根 剛: 被害者支援における倫理, 大分被害者支援センターボランティア養成講座, 大分市, 2003. 12
- 関根 剛: コミュニケーション技術, 国立西別府病院看護師院内教育特別講演, 別府市, 2004. 1
- 関根 剛: カウンセリングスキル ( 1 ) ~ ( 3 ), 大分被害者支援センターボランティア養成講座, 大分市, 2004. 1
- 高野 政子: 小児糖尿病の理解, 大分市中央保健所における保健師の研修会, 大分市, 2003. 6

藤内 美保: 在宅療養者のフィジカルアセスメント, 大分県看護協会主催訪問看護従事者研修会, 大分市, 2003. 2

藤内 美保: フィジカルアセスメント I, 第 1 回訪問看護職員講習会, 大分市, 2003. 5

藤内 美保: フィジカルアセスメント II, 第 1 回訪問看護職員講習会, 大分市, 2003. 6

藤内 美保: 看護教育指導案の作成方法, 看護教員再教育研修会, 大分市, 2003. 8

藤内 美保: 看護過程と看護記録, 看護力再開発講習会, 大分市, 2003. 9

藤内 美保: 看護研究の実際, 大分赤十字病院教育研修会, 大分市, 2003. 9

藤内 美保: フィジカルアセスメント I, 第 2 回訪問看護職員講習会, 大分市, 2003. 10

藤内 美保: フィジカルアセスメント II, 第 2 回訪問看護職員講習会, 大分市, 2003.10

吉留 厚子: 三佐小学校性教育(4年生) 命の大切さについて考えましょう, 日本助産師会大分県支部, 大分市三佐小学校, 2003. 10

吉留 厚子: 原川中学性教育(2年生) 命をつないで, 日本助産師会大分県支部, 大分市原川中学校, 2003. 11

吉留 厚子: 滝尾中学校性教育(1年生) 大切ないのち, 日本助産婦会大分県支部, 大分市滝尾中学校, 2004. 3

## 9・2 研究指導

---

伴 信彦: 大分赤十字病院

稲垣 敦: 大分大学工学部、温泉と運動プログラム研究会

甲斐 倫明: 別府国立病院

工藤 節美: 国立大分病院

大賀 淳子: ハートコム大分、日精看大分県支部、大分丘の上病院

小野 美喜: 大分県立病院

桜井 礼子、関根 剛: 国立療養所西別府病院

玉井 保子: 大分県看護協会

藤内 美保: 大分赤十字病院

吉田 成一: 国立大分病院

## 9・3 学会その他の委員等

---

粟屋 典子

大分県リハビリテーション協議会委員

日本看護系大学協議会看護管理コース教育検討委員会委員

伴 信彦

日本保健物理学会編集委員

日本放射線影響学会広報委員

日本放射線影響学会渉外企画委員

放射線医学総合研究所低線量生体影響プロジェクト助言委員会委員  
国際放射線疫学情報調査委員会専門委員

### 平野 互

大分県国民健康保険団体連合会介護保険給付費審査委員会 委員  
「生涯健康県おおいた21」推進協議会 幹事  
大分県社会福祉協議会「福祉サービス第三者評価事業検討委員会」委員

### 伊東 朋子

日本 ALS 協会大分県支部運営委員

### 影山 隆之

日本精神衛生学会常任理事・編集委員長  
日本学校メンタルヘルス学会運営委員  
大分県介護保険審査会委員  
大分県地域福祉権利擁護事業契約締結審査会委員

### 甲斐 倫明

放射線審議会委員  
内閣府原子力安全委員会専門委員  
日本保健物理学会理事、副会長、企画委員長  
日本リスク研究学会理事  
日本放射線影響学会常任幹事  
日本放射線影響学会誌, J.Radiation Research, Associate Editor  
九州大学非常勤講師  
名古屋大学工学部非常勤講師  
国連科学委員会国内対応委員会委員  
文部科学省独立行政法人評価委員会臨時委員（科学技術・学術分科会）  
日本学術会議核科学総合研究連絡委員会委員  
財団法人放射線影響協会 国際放射線疫学情報調査委員会委員  
財団法人原子力安全研究協会 放射線防護基準検討委員会委員  
財団法人原子力安全研究協会 しきい値問題検討委員会委員  
日本原子力研究所保健物理部客員研究員  
アジアオセアニア放射線防護協議会事務局長  
日本原子力研究所 安全評価研究委員会委員

### 河島 美枝子

産業精神保健学会 評議委員  
大分地方労働審議会 委員  
大分家庭裁判所 調停員  
大分県産業保健推進センター 特別相談員  
大分家庭裁判所 参与員  
大分県教育委員会 判定委員

### 金 順子

Member, Organizing Committee, KNA 80th Commemorative International Conference; May 29, 2003 held in Seoul, Korea  
Representative, Korean Nurses' Association, Council of National Representatives Meetings, International Council of Nurses; June 30-July 2, 2003; Geneva, Switzerland  
Representative; Korean Nurses Association, Joint World Health Organization and International Council

of Nurses Workshop "Evidence for Action"; June 26, 2003; Geneva, Switzerland  
Representative; Korean Nurses Association, Credentialing Workshop, CNR, July 2, 2003, Geneva, Switzerland  
Member, Advisory Board, Organizing Committee, International Conference, Korean Nurses Association in the Federal Republic of Germany; July 5, 2003; Frankfurt Am Main Member, Organizing Committee, The 4th Asian Nursing Forum, sponsored by Korean Nurses Association, November 26, 2003, Seoul, Korea  
Official Observer; Asia Workforce Forum 2003, November 27-28, 2003  
sponsored by International Council of Nurses and Korean Nurses Association, Seoul, Korea  
Participant, The Preparatory Study Team, Nursing Education Improvement Project, Uzbekistan JICA; January 4-13, 2004, Tashkent,  
Bukhara PDR of Uzbekistan Member, Curriculum Development Committee, Nursing Education Improvement Project, Uzbekistan, JICA, 2004. 5.

### **草間 朋子**

日本看護系大学協議会幹事  
日本医学放射線学会防護委員会委員  
日本肥満学会評議員  
日本看護科学学会評議員  
疾病・傷害認定審査会委員  
疾病・傷害認定審査会 原爆医療分科会会長代理  
原子力安全委員会専門委員  
核燃料サイクル機構運営審議会委員  
日本原子力研究所研究所評価委員  
日本原子力研究所研究所研究評価委員  
核融合科学研究所 評議員  
電離放射線障害の業務上・外に関する検討委員会委員  
宇宙放射線被ばく防護体系検討委員会委員長  
日本原子力研究所保健物理研究員会委員長  
緊急被ばく医療ネットワーク会議委員  
大分県国土利用計画審議会委員  
島根県原子力発電所調査顧問  
総合資源エネルギー調査会委員

### **松尾 恭子**

看護協会 大分県支部 学会委員会 委員

### **宮崎 文子**

日本母性看護学会理事  
日本看護協会助産師職能委員  
日本助産師学会準備委員長  
大分市男女共同参画推進懇話会委員

### **大賀 淳子**

大分県障害児適正就学指導委員

### **小野 美喜**

看護協会大分県支部教育委員長

### **齊藤 高雅**

日本精神衛生学会理事  
駿河台大学健康相談室顧問  
財団法人いしずえ：健康管理研究班員

**関根 剛**

大分被害者支援センター理事・事務局長  
大分県臨床心理士会被害者支援担当理事  
全国被害者支援ネットワーク研修委員  
大分県教育委員会 健康相談活動支援体制検討会委員

**高橋 敬**

日本血栓止血学会 役員  
日本バイオイメージング学会 役員  
中四国凝固・線溶・血小板研究会 役員

**高波 利恵**

大分県看護協会ホームページ委員会会長

**高野 政子**

大分県小児保健協会 副会長  
九州小児看護教育研究会 理事  
日本小児看護学会第 14 回学術集会 企画委員

**藤内 美保**

大分県看護協会実習指導者講習会運営委員長  
大分市男女共同参画社会推進懇話会委員

**八代 利香**

NPO 大分あんしんねっと  
特定非営利活動法人成年後見・権利擁護大分ネット理事

**吉田 成一**

東京理科大学 薬学部 客員研究員  
(財) 日本自動車研究所 環境ホルモン研究会委員

**吉留 厚子**

大分県ナースセンター事業運営委員  
平成 17 年度日本助産師会通常総会ならびに第 61 回日本助産師学会準備委員



## 10 助成研究

### 吉留 厚子

分担：二次医療圏における看護必要度から算出した看護職適正配置のための横断的研究  
文部科学省科学研究費（3年予定の2年目）

### 齋藤 高雅

代表：中年期におけるサリドマイド胎芽病者の臨床心理学的研究（心理学）  
科学研究費（基盤研究C（2）課題番号14510160）（3年予定の2年目）

### 齋藤 高雅

分担：海外在留邦人の精神保健調査と危機介入支援マニュアルの作成（精神神経科学）  
科学研究費（基盤研究B（1）海外（3年予定の3年目）

### 中山 晃志

代表：看護職における疲労度解析（生物・医学）  
統計数理研究所（1年予定の1年目）

### 定金 香里

代表：ディーゼル排気粒子がダニ抗原誘発性アトピー性皮膚炎に及ぼす影響について（環境影響評価）  
文部科学省科学研究費補助金（若手研究B）（2年予定の2年目）

### 草間 朋子、甲斐 倫明、伴 信彦、赤羽 恵一（分担）

代表・分担：X線透視下での医療行為に伴う医療従事者の被ばく線量の低減化に関する研究（放射線科学）  
科学研究費補助金（4年予定の4年目）

### 稲垣 敦

代表：統合失調症患者の精神的健康関連体力の提案およびそのテストの構成と臨床での実用化（応用健康科学）  
文部科学省（2年予定の1年目）

### 稲垣 敦

分担：精神科入院・通院患者の社会復帰促進のための運動プログラムの提案（臨床看護学）  
日本学術振興会（3年予定の2年目）

### 稲垣 敦

分担：教育形態の違い（統合教育と分離教育）が聴覚障害者の体力や運動能力に与える影響（体育学）  
日本学術振興会（3年予定の2年目）

### 稲垣 敦

分担：温泉を利用した健康づくりのための環境整備事業  
財団法人日本公衆衛生協会（1年予定の1年目）

### 稲垣 敦

分担：高齢者の健康づくりのシステム化に関する研究」「大分県央エリア産学官連携促進事業・可能性試験  
医療・福祉,財団法人大分県産業創造機構（1年予定の1年目）

### 稲垣 敦

分担：ジュニア期の効果的スポーツ指導法の確立に関する基礎的研究（スポーツ医・科学）  
財団法人日本体育協会（4年予定の4年目）

**石塚 香子**

代表：無形成骨症に対するスタチン製剤の治療効果に関する検討  
腎性骨症,腎性骨症研究会（1年予定の1年目）

**高橋 敬**

代表：凝固因子VIIaの新しい細胞生理機能の解明（血液の凝固線溶  
ノボルディスクファーマ株式会社（2年予定の2年目）

**影山 隆之**

代表：ストレス対処特性の簡易評価表の開発と産業精神看護学的応用に関する研究（基礎・地域看護学）  
文部科学省,平成14～16年度

**影山 隆之**

分担：DV被害者における精神保健の実態と回復のための援助の研究（子ども家庭総合研究事業）  
厚生労働科学研究費補助金,平成13～15年度

**影山 隆之**

分担：自殺と防止対策の実態に関する研究（こころの健康科学研究事業）  
厚生労働科学研究費補助金,平成13～15年度

**影山 隆之**

分担：社会復帰関連施策の有効性に関する研究（精神障害者社会復帰促進調査研究等事業）  
厚生労働省,平成15年度

**甲斐 倫明**

分担：分子生物学知見に基づいた発がん数理モデルの構築および応用（統計科学）  
文部科学省科学研究費補助金基盤研究B

**大賀 淳子**

代表：精神科入院・通院患者の社会復帰のための運動プログラムの提案（臨床看護学）  
日本学術振興会,（3年予定の2年目）

**宮崎 文子**

分担：望まない妊娠、人工妊娠中絶を防止するための効果的な避妊教育プログラムの開発に関する研究  
（子ども家庭総合研究事業）  
厚生労働科学研究費補助金（3年予定の2年目）

**吉田 成一**

分担：大気中に存在する新しい内分泌かく乱物質に関する研究（内分泌かく乱）  
科学技術振興機構（5年予定の3年目）

**吉田 成一**

分担：ディーゼル排ガス胎仔期暴露の生殖系及び脳神経系への影響に関する研究（環境系薬学）  
文部科学省科研費B（3年予定の2年目）

## 1 1 海外研究派遣

### 1) 大賀 淳子

研究実施国：カナダ

研究期間：2004年2月20日～3月13日

研究内容：地域精神医療・保健の先進地とされるバンクーバーのコミュニティメンタルヘルス機関の数ヶ所におけるスタッフ・利用者へのインタビュー・ディスカッションを通して、地域精神保健のありかたならびに看護職の役割について検討した。また、プリティッシュコロンビア大学ナーシングスクールを訪ね、カリキュラム策定に関する情報交換を行った。

研究実施機関：Vancouver Mental Health Services, Coast Foundation Society, UBC

研究報告：2004年3月19日、大分県立看護科学大学にて報告会

### 2) 玉井 保子

研究実施国：アメリカ合衆国

研究期間：2003年7月10日～7月31日

研究内容：大学教育で培われた人材がスムーズに臨床現場に移行できる継続教育システムを検討するため、ハーバード大学医学部の主要連携病院を訪ね、米国における病院の看護技術を中心とした新卒看護師の継続教育システムの状況を把握した。また、ボストン大学のカリスタ・ロイ教授と継続教育に関してディスカッションを行った。

研究実施機関：ハーバード大学医学部主要提携病院5施設

Dana Farber, Brigham and Womens Hospital, Massachusetts General Hospital

Beth Israel Deaconess Medical Center, Childrens Hospital Boston

研究報告：2004年3月19日、大分県立看護科学大学にて報告会

### 3) 吉武 康栄

研究実施国：アメリカ合衆国

研究期間：2003年9月1日～9月30日

研究内容：Neural control分野における世界的権威のDr. Roger M Enokaの研究グループと情報交換を行うとともに、今後の研究計画についてdiscussionおよび基礎実験を行った。

研究実施機関：Department of Integrative Physiology, University of Colorado, Boulder

研究報告：2004年3月19日、大分県立看護科学大学にて報告会

## 12 学外研究者の受入

### 1) 共同研究員の受け入れ

本学教員	甲斐 倫明
受入者	小野 孝二
相手所属	大分県立病院放射線科部 名古屋大学大学院工学研究科博士課程
研究テーマ	放射線診断における画像撮影の最適化に関する研究
受入期間	平成15年4月1日～平成16年3月31日

### 13 教職員名簿

1. 専任教員			
生体科学	教授	高橋 敬	
	助教授	安部 眞佐子	
	助手	石塚 香子	
生体反応学	教授	市瀬 孝道	
	講師	吉田 成一	
	助手	定金 香里	
健康運動学	助教授	稲垣 敦	
	助手	吉武 康栄	
人間関係学	教授	齊藤 高雅	(H16.3.31退職)
	講師	関根 剛	
	助手	佐藤 みつよ	
環境科学	教授	甲斐 倫明	
	講師	伴 信彦	
	助手	赤羽 恵一	(H15.9.30退職)
健康情報学	助教授	佐伯 圭一郎	
	助手	品川 佳満	
	助手	中山 晃志	
言語学	教授	高橋 久夫	(H16.3.31退職)
	講師	G. T. Shirley	
	助手	岡崎 寿子	
基礎看護学	講師	伊東 朋子	
	助手	玉井 保子	
	助手	井上 好	
	助手	姫野 稔子	(H15.4.1採用)
	助手	小林 みどり	(H15.6.13採用)
	助手	千本 美紀	(H15.3.31退職)
	助手	重野 文江	(H15.6.11退職)
看護アセスメント学	講師	藤内 美保	
	助手	安部 恭子	
	助手	神田 貴絵	(H16.3.31退職)
看護情報学	教授	佐藤 和子	(H15.3.31退職)
成人・老人看護学	教授	粟屋 典子	
	講師	檜原 登志子	(H15.7.31退職)
	講師	内田 雅子	(H16.3.31退職)
	助手	小野 美喜	
	助手	大津 佐知江	
	助手	松尾 恭子	(H15.4.1採用)
	助手	福田 広美	
小児看護学	講師	高野 政子	
	助手	山下 早苗	(H15.10.1採用)
	助手	目原 陽子	(H16.3.31退職)
	助手	吉田 紀子	(H15.2.14退職)
母性看護・助産学	教授	宮崎 文子	

	講師	吉留 厚子	
	講師	林 猪都子	
	講師	小西 清美	
	助手	神崎 光子	(H16.3.31退職)
	助手	後藤 由美	
	助手	大神 純子	
	助手	木村 厚子	(H15.4.5退職)
精神看護学	教授	河島 美枝子	
	助教授	影山 隆之	
	助手	大賀 淳子	
保健管理学	教授	草間 朋子	
	助教授	平野 互	
	講師	桜井 礼子	
	助手	高波 利恵	
	助手	木村 厚子	(H15.4.18採用)
	助手	望月 京子	(H15.3.31退職)
地域看護学	教授	木下 由美子	(H15.3.31退職)
	講師	工藤 節美	
	助手	加藤 さゆり	(H15.8.31退職)
	助手	宇都宮 仁美	(H16.3.31転出)
	助手	時松 紀子	
	助手	大村 由紀美	(H15.9.1採用)
国際看護学	教授	金 順子	(H15.4.1採用)
	助手	八代 利香	
2.非常勤講師			
		帖佐 理子	保健医療ボランティア
		ホァン ホセ・アルタ ミラノ	スペイン語
		大林 雅之	看護の倫理
		澤田 佳孝	美術とこころ
		佐渡 敏彦	看護と遺伝
		吉河 康二	看護と遺伝
		宮本 修	音楽とこころ
		大杉 至	人間と社会
		合田 公計	経済学入門
		吉良 國光	大分の歴史と文化
		肥田木 孜	母性病態論
		日高 貢一郎	言語表現法
		西 英久	哲学入門
		園田 祥子	生体微生物反応論
		西園 晃	生体微生物反応論
		三舟 求真人	生体微生物反応論
		内布 敦子	看護アセスメント学特 論・基礎看護学演習
		許 南薫	韓国語
		岩寄 勝成	法学入門
		永松 啓爾	健康論
		金子 道子	看護学入門

		長吉 孝子	看護学入門
3. 事務職員			
事務局			
	事務局長	小出 綱夫	(H16.3.31 転出)
	次長兼総務課長	田原 基之	(H15.5.22 転入)
	次長兼総務課長	石川 誠	(H15.5.21 転出)
	主幹	阿部 生香	(H15.5.22 転入)
	主幹	渊 信子	(H15.5.21 転出)
	主査	玉田 逸子	(H15.5.22 転入)
	主査	長尾 成朗	(H15.5.21 転出)
	主査	渡邊 康弘	(H16.3.31 転出)
	主任	平川 俊助	
	技師	那須 博文	
	業務技師	和田 ともえ	
	臨時職員	岡部 恭子	(H15.4.1 採用)
	臨時職員	橋本 美誉	(H15.10.1 採用)
	臨時職員	立川 八久美	(H15.3.31 退職)
	臨時職員	神崎 純子	(H15.9.30 退職)
学生部			
	学生部長	併任(河島 美枝子)	
	教務学生課長	門脇 俊彦	(H16.3.31 転出)
	主幹	竹下 敏彦	(H15.5.22 転入)
	主幹	安部 正雄	(H15.5.21 転出)
	副主幹	佐藤 俊実	
	主任	矢部 美香	
	非常勤保健師	原田 幸代	(H15.4.1 採用)
	非常勤保健師	宮地 恵子	(H15.3.31 退職)
	臨時職員	彦森 真由美	(H15.4.1 採用)
	臨時職員	阿南 美穂	(H15.11.10 採用)
	臨時職員	飯田 美香	(H15.3.31 退職)
附属図書館			
	附属図書館長	併任(齊藤 高雅)	(H16.3.31 退職)
	図書館管理係長	小野 永子	(H15.4.1 転入)
	図書館管理係長	萱島 香苗	(H15.3.31 転出)
	非常勤司書	吉野 美奈子	(H16.3.31 転出)
	非常勤司書	中野 美佐子	(H15.4.1 採用)
	非常勤司書	牛島 聡子	(H15.3.31 退職)